



Title	北インドの諺（I）
Author(s)	古賀, 勝郎
Citation	
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/50631
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

北インドの諺

北インドの諺 (I)

はしがき

I

イザベラ・バード (Isabella L. Bird 1831-1904) は旅行家としてよく知られたイギリス人女性で多数の旅行記を著している。1878 年 (明治 11 年) の 6 月から 9 月にかけて東京から日光、会津、新潟、米沢、秋田、青森を経て北海道の室蘭、白老、平取などに及ぶ約三ヶ月の旅行の英文の記録は当時の日本に関する様々な情報の得られる大変貴重なものでありその邦訳も刊行されている。(高梨健吉訳『日本奥地紀行』, 平凡社ライブラリー)

彼女自身がその旅行記中に幾度も記しているように日本の真の姿を知りたいそれを外の世界に伝えたいという強い意志の下に旅行をしているのであるから日本文化や日本人に対して悪意や憎悪を抱いているわけでは全くないし故意に批判的な立場に立って書かれた旅行記ではない。それどころか今日の日本人が読んでも誇らしく感じるような事実や出来事が記されている箇所も数多く見出される。そして旅行中に出会った人々から受けた親切については洩さず記録しているように思われる。

それにもかかわらず彼女の率直な文章にはその率直さではなく彼女の考え方や判断の仕方に違和感を感じるどころが少なからず存在するのも事実である。例を挙げてみよう。福島から新潟へ向かう途中通過した津川では次のように記している。

宝沢と栄山に來ると、この地方の村落の汚さは、最低のどん底に到達しているという感じを受ける。鳥や犬、馬や人間が焚火の煙で黒くなった小屋の中に一緒に住んでいる。堆肥の山からは水が流れて井戸に入っていた。幼い男子は何も着ていなかった。大人でも男子はマロ (ふんどし) だけしか身につけておらず、女子は腰まで肌をさらしており、着ているものといえは、たいそう汚れたもので、ただ習慣で身にまとっているのにすぎない。大人は虫で刺されたための炎症で、子供たちは皮膚病で、身体中がただれている。彼らの家屋は汚かった。彼らはあぐらをかいたり、頭を下げてしゃがみこんだりしているので、野蛮人と少しも変わらないように見える。彼らの風采や、彼らの生活習慣に慎みの欠けていることは、実にぞつとするほどである。慎みにかけているといえは、私がかつて一緒に暮らしたことのある数種の野蛮人と比較すると、非常に見劣りがする。もし私に時間の余裕が少なくて、この旅行が日光や箱根、宮の下など、外国人がよく訪れる場所だけに限られていたならば、私はずっとちがった印象をもったことであろう。日本人の精神状態は、その肉体的状態よりも、はたしてずっと高いかどうか、私はしばしば考えるのである。彼らは礼儀正しく、やさしくて勤勉で、ひどい罪悪を犯すようなことは全くない。しかし、私が日本人と話をかわしたり、いろいろ多くのものを見た結果として、彼らの基本道徳の水準は非常に低いものであり、生活は誠実でもなければ清純でもない、と判断せざるをえない。(同書第 14 信 津川にて 7 月 2 日)

また、新潟では同地の教会伝道本部のファイソン夫妻に歓迎を受けた後に次のように記している。

新潟ではだいふ方々を歩きまわってきた。今のところ当地では唯一人のヨーロッパの夫人であるファイソン夫人と、三歳のきれいなイギリス娘のルースちゃんと一緒に歩くと、私たちの後から多くの群衆がいつもついてきた。この色白のお嬢さんが、肩から金髪を垂れている姿はとてもかわいらしいものであったからである。男も女も、子どもに対しては、優しく愛嬌がある。ルースは、群衆に対して恐れのお気持ちを抱くどころか、彼らに対してにっこりと微笑し、日本式に頭を下げ、日本語で彼らに話しかける。自分の国の人々から離れていたがる様子さえある。だから、傍に一緒に歩かせるのがとても難しい。二度か三度、彼女を見失ってふり返って見ると、数百人の群衆の輪の中に入って日本式に腰を下ろしていて、人々の挨拶やら賞賛の言葉を受け、その場からとても離れたがらなかった。日本人は子どもに対して全く強い愛情をもっているが、ヨーロッパの子どもが彼らとあまり一緒にいることは良くないことだと思う。彼らは風儀を乱し、嘘をつくことを教えるからだ。(同書第 16 信 新潟にて 7 月 9 日)

次は念願の北海道に到着しアイヌ人の村に受け入れてもらい丁重にもてなされた後のことである。彼女は次のように記している。

ベンリ(平取の酋長)は、アイヌ人としては利口である。二年前に函館在留のデニング氏がここにやってきて、私たちすべてを造った神はただ一人であられる、と話したところ、それに対して、この賢い老人は応えていった。「もしあなたを造った神が私たちをも造ったのであるならば、どうしてあなたはそんなに違っているのですか。どうして、あなたはそんなに金持ちで、私たちはこんなに貧乏なのですか。」

このように記した後、彼女は次のようにも書いている。

黒髪が豊富なこと、彼らの眼が奇妙に強烈なことが、毛深い手足と奇妙に雄々しい体格とあいまって、彼らは恐るべき野蛮人の様相を呈している。しかし彼らの微笑は「優美と明知」を湛えていて、眼も口もそれに一役かっている。その低くて音楽的な声は、私が今まで聞いたいかなるものよりも優しく美しく、ときには彼らが未開人であることを全く忘れさせる。これらの老人たちの神々しい顔は、その態度振舞いの奇妙なほどの威厳と礼儀正しさとよく調和している。しかしそのすばらしく大きい頭を見ていて、アイヌ人が少しも能力を発揮したことがなく、単に子どもがそのまま大人になったものにすぎないことを考えると、彼らは頭脳の中に知恵ではなくて水を溜めているのではないかと思わせるほどである。私は彼らの顔の表情がヨーロッパ的であると、ますます信ずるようになった。その表情は誠実にあふれ、率直で男らしいが、表情も声の調子も深く哀感を漂わせている。(同書 37 信 平取にて 8 月 24 日)

訳者の解説によれば、彼女は 1894 年から 1896 年までに、五回ほど日本を訪れているということだし、1880 年初版の本書が 1900 年に新版となって出された際も「農村では人々の生活はほとんど変わっていないので、私は紀行文を少しも書きかえずに公刊する」と序文に記しているとのことである。

このような彼女の一連の文章を読み考え方を知ると人が生まれ育った社会、国家及び時代から如何に大きな影響を受けるものであるかを改めて認識させられる。自分の生まれ育った国や社会、文明へのゆるぎない自信と傲慢とも言うべき誇りに満ちた彼女の姿勢や態度には実に複雑な思いがする。それから今日までに過ぎた一世紀以上の時間に人類社会が新しく築いてきたものは一体何であつたろうかと思わざるを得ないからである。

我々が向かおうとする先は前途遼遠と言うべき遙か彼方にある。多分問題の所在は東洋と

か西洋とか、あるいは世界のどの国、どの宗教にということではないのであろう。我々は今一度自分の持っている物差しを謙虚に懐から取り出しそれが作られている材料を虚心に分析し慎重に吟味した上で作り直してみる真の勇氣と度量とが求められているのであろう。だがその勇氣と度量とを創り出す作業をどのようにして成し遂げるかである。

II

1978年夏のことであるからもはや四半世紀以前のことになる。南アジア諸国での農村地域から都市部への人口移動に関する一連の学術調査が行われたことがあった。その一部の調査に同行させていただいたのはよかったのだが、案の定手前が調査活動に役立つことは皆無であった。そればかりか先輩及び朋輩には大変な迷惑をおかけしてしまい、申し訳のないことだった。もっとも個人的には新しい経験があり知見を増す機会がありそれなりに得るものがあった。

ウッタラプラデーシュ州中南部のハミールプル県の村へ行った時のことだが、主に農業を生業としている40歳代のブラーフマンに出会った。話の中でブラーフマンは兼業にしているヒンドゥー教僧職の仕事の内容について述べる中で葬儀の際に遺族を諭す言葉を再現してくれたことがあった。内容は要するに人生の儚さを強調するものであったがその表現が興味深いものであった。曰く、人が死ねばどのように親しい人であれ例え妻であろうと火葬場までの同行さえしてくれない。その先にあるのは自分一人で進んで行かねばならない道なのだ。どれほど財産があろうともそれを持ってあの世へ行けるわけではない。どれほどの財産を築いていようともそれを携えて黄泉へ行けるわけではない。このような趣旨のことをいろいろ表現を変えながら繰り返し聞かせてくれた。たとえそれが日本の仏教僧侶の口から発せられた言葉としても全く違和感のない内容のものであった。このブラーフマンに兼業の農業の話のついでに家畜のことを尋ねると自分はブラーフマンであるから雌牛は飼っても山羊は飼育しないとの返答があった。確かに乳牛と山羊とでは利用価値が全く違うのだから当然なことではあろうが、経済的観点とは全く無関係にブラーフマンとしての沽券が山羊の飼育などは絶対に許さないというような口振りであったのが印象的であった。

沽券と言えばカーンプル市内でのことであったが、インド人の調査協力者が労働者住宅の建ち並ぶ町の一画にある茶店のベンチに腰掛けていつものようにアンケート用紙を手に調査に取りかかった。調査対象の人は50歳過ぎとおぼしい一人の男性であったが、その出身地や氏名、家族などについて記録を取り始めたところその男性は、「わしも田舎には土地を持っていたんだ」と叫ぶと同時に周囲の人が驚くような大声を上げて泣き出した。調査員も呆気にとられてしまい掛ける言葉もない風情であった。彫りの深い立派な容貌の人だった。先端が天に向かってびんとはねた口ひげが今も記憶に残っている。「わし」は多分ラージプートなどいわゆるクシャトリヤの一員であったのだろう。口髭はそれが似合うカーストのものである。その口髭はカーンプルのスラムにまで押し流されて沈んでしまった落魄の身の上に唯一残された誇りを示すものであったのだろうか。アンケートを受ける側の脳裏をどのような思いがよぎったのか。一気に噴出した激しい思いを窺い知る由もなかったが今もなお消え去らぬ思い出の一齣である。

私たちが宿を取ったホテルには宿泊者には普段目につかない人を含めて合計すると多分十数人の従業員がいたようだ。ヒンドゥー教徒の料理人は久しくそこに勤めているということであったがその家族はバングラデシュに住んでいた。大都市への出稼ぎ人の多くがそうであるように家族へは送金するものの休暇を得て家族のもとへ帰ることは年に一度もあればよいほうである。その料理人にしても同じことであったのだろう。インド英語ではヘアラーとは

ボーイや給仕人のことであるが、ベアラーの一人は少年の頃に家出して拾われてそこに勤めるようになったと話した。その従業員がある日、ホテルから出かけようとすると手前に「ダヒー、マチュリー」と呼びかけてくれたことがあった。ダヒーはヨーグルト、マチュリーは魚のことであるから声をかけられた方も当然知っている語彙ではあるのだが、それが二つ続けられた表現はそれまで聞いたことのないものだったのでその意味を尋ねたが、人が出かけるときにそう言うものだと返答しか聞くことはできなかった。月日が経って後のことになるが、ラームナレーシュ・トリパーティーの著作に家から出かける途中で会うものの吉凶を述べた個所にヨーグルトと魚が吉兆のものと記されているのを見つけた。そういえば、外出時に猫が進路を横切ったために家に戻って出直した人がいたことや朝から頭に被りものをせずに歩くブラーフマンに出くわすと縁起が悪いとされており世間の人から嫌われるとして子供時に親から注意を受けたという話をブラーフマンの口から聞いたことがあったのを思い出した。「ヨーグルトと魚」は道中の安全を祈る言葉として掛けてくれたものであったのだろう。ただそれがインドのどの地域にどれほど広く行われている表現なのかどのような社会階層の人が用いてきているものか男女の区別なく使用できるものかなどはまだ調べられずにいる。初めて大阪に出て暮らした時に下宿の小母さんから朝の出がけに「お早うおかえり」の挨拶を返されて戸惑ったことがなつかしく思い出される。

挨拶の言葉とえば、簡単なようでなかなか難しいものだ。いつでもどこでもナマステーとは参らぬものだ。ヒンディー語やウルドゥー語の話される北インドを中心とした地域に限ってもどれほどの種類の日常の挨拶の言葉が交わされているのであろうか。いずれの言語においてもどのような社会においても同じことであろうが、人間関係は実に多様であるわけだから極端に言えば人間関係の数ほど挨拶の言葉も実に多様である。實際をどれほど正確に反映したものであったかという問題はあるものの大昔のマヌ法典は実に様々な事柄に言及しているので興味深いものだ。同書には挨拶に関して次のような記述がある。すなわち、ブラーフマンに出会った時にはクシャラ कुशल と言う語でヴァイシャに出会った時にはクシェーマक्षेम という語を用いて健康を問うべしとある。すなわち、相手のカースト次第で用いるべき語彙が異なったということであろう。また、ブラーフマンは「長寿でありますように」との言葉で挨拶を返されるべきだともされている。今日のヒンディー語では一語で「クシャラシェーマを問う」कुशलक्षेम पूछना とは相手の安否やご機嫌を伺うことを表す上品な語彙なのだが二千年ほど昔のマヌ法典に記されているのと同じ語彙の使用にはなんと不思議な思いがする。

ところでインド人の家庭で朝起きた時に子供が親にどのような挨拶をするのかなど考えてみたこともなかったが外国語の勉強をする身としては迂闊と言えは迂闊であった。インド連邦政府の教育研究所 (National Council of Educational Research and Training, New Delhi) 発行のヒンディー語教科書の第二巻 (बाल भारती 2) に次のような親子の朝の挨拶の言葉が記されている。

母親に寝床で起こされた男の子 (ヒンドゥー) がまだ沐浴も済ませず朝のお祈りも済ませず目をこすりながらベッドに起き上がった状態で言う。「お母さん、おはようございます」 'प्रणाम मा, प्रणाम'।

プラナーム (प्रणाम) とは敬礼の意で丁重な挨拶の言葉である。これに対して母親は答える。

「(お前が) いつまでも幸せに過ごせますように (神様にお祈りします) 'सदा सुख रहो. बेटा'」

そしてそこには子供が母親の足の爪先に手を触れて挨拶をしている挿絵が描かれている。

我々からすればこれは親子の朝の挨拶であるが、母親の言葉はヒンディー語で正確に言えば祝福の言葉である。ただし、このような会話がどの程度一般的なもののなのかという疑問がわく。

昭和 15 年度まで使用された文部省第四期国定国語教科書の小学国語讀本巻一には両親の前で畳に両手をついている男の子が、「オトウサン、イッテマキリマス」「オカアサン、イッテマ

キリマス」と挨拶をしている絵があったが、そのような光景が当時の日本の庶民の家庭の實際をどれほど写したものであったろうかと考えてみる必要があるのかも知れない。ヒンディー語の親子の挨拶も似たような背景を考えるべきものかも知れない。それはともかくインドの田舎に行き特に年配の人たちに接する度毎に手前の挨拶の言葉や仕草、あるいは、発言が相手には多分強い違和感を与えているのではなかろうかと思ったものだ。

話は手前がインドに最初に長期滞在した時のことであるからもはや40数年も昔のことになるのだが、雑談の中でインド人の学生が、インドでは自殺は犯罪行為である、と話した。正確に言えば自殺未遂は犯罪として訴追されるということになろう。どのような脈絡でそのような発言があったのかはもはや思い起こすことはできないが、なんとも奇異な感じを受けたことは記憶している。多分、当時の自分としては自殺の決意をするほどに苦しんだ人がその実行に失敗したのを刑事罰の対象にするとは酷に過ぎるような感じがしたのだろうと思う。調べてみると確かにインド刑法の第309条には、「自殺未遂者は一年以下の禁固刑もしくは科料、もしくは両方を科す」とある。この規定はイギリスによる直接統治が始まって間もなく制定・施行されたインド刑法に最初から存在したもののようであるから、その背景になっている考え方はインド本来のものではなく自殺行為を犯罪視するイギリス刑法の影響を受けたものかも知れない。古代インドではマヌの法典などにあるように人の死後に本来なされるべき追善供養が自殺者に対してはなされなかったことがあったようだが、それは法律上の犯罪ではなく宗教上の罪深い行為と認識する考え方があったからであろう。

脈絡のない話をしてきたが、いずれも以下に訳出する北インドの諺とされるものとの関わりのある事柄ではある。諺は人生の一切に関わる事象を巧みに表現の媒体にしているのでいづれの言語に行われる諺についても細心の注意を払いながらその背景の理解に努めなければいけないのであろう。道端の物乞いの発する言葉にもそれを支える論理があり歴史がある。以下においては教訓的な言葉に限らず喜びや悲しみ、怒りなどの感情や呪詛の言葉なども含めて諺として取り扱っている。また、原義をなるべく忠実に写し表現自体があまりにも不自然なものにならないために今日的見地からは差別語とされる語彙や事項もやむを得ず本来の形で取り扱う場合があることを予め断っておく。

はじめに

インドの諸言語の諺の蒐集や研究は 19 世紀にイギリス人などの外国人によっても行われるようになった。近年は広大な地域に主要なものだけでも数十を数えるほどの言語が行われるインドの諺の研究は全インド的視野の下に行われてきている。代表的なものとしてはナルワネーのものが数えられる。विश्वनाथ दिनकर नरवणे, भारतीय कहावत संग्रह, I(1978), II(1979), III(1983), त्रिवेणी संगम-भाषा विभाग, पुणे これは全インド的な規模で各地方の言語の諺をフィールドワークによって蒐集しそれぞれの地域の言語の知識を持った専門家の協力を得て論じたものであり高い価値を有するものである。同じようにボーラーナート・ティワーリー भोलानाथ तिवारी はヒンディー語見出しで北インドの諺を中心としているが南インドのドラヴィダ系言語の諺も参照しながら数千に上る諺の蒐集・編纂を行っている。भोलानाथ तिवारी, बृहत् हिंदी लोकोक्ति कोश, शब्दकार, दिल्ली, 1885 同書の序によると 28 年間にわたって家族や知友たちの協力の下に蒐集された諸言語の約 6 万の諺の資料が 1978 年のデリー市の洪水により 1 週間の間水没したために毀損し使用不能になった、ということである。しかし、同書に復活されて収録された諺の総数はナルヴァネーのものをはるかに凌ぐものである。それにティワーリーのものはいわゆるヒンディー語地域に数えられるラージャスターンやビハール州などに行われる諸方言も含め北インドや中部インドの約 20 にも上る方言や言語の諺を編纂している点に特徴がある。

時代が下るにつれ諺の使用が日常の会話の中でも書き言葉の中でも減少してきたのは世界の言語に共通して見られる現象であろう。諺の使用には大まかに言って個人差があり一概には言えぬ面があるもののヒンディー語においても 20 世紀半ばまでの文学作品には地の文にまで諺そのものや諺を下敷きにした表現が少なからず見られたが、それ以降は減少の速度が増したように思われる。たとえばヒンディー語の文学作品についてならブレイムチャンドの作品とアグニヤーの作品を見るだけで歴然とした相違が見出される。ただ興味深いのは標準ヒンディー語による純文学ではなく大衆文学や大衆演劇のための戯曲、あるいは、アワディー方言などの方言による文学作品、新聞や雑誌などには今日なお諺がかなり用いられているように見受けられる。

いわゆるヒンディー語地域の諺の蒐集や研究はそれなりに盛んであり特定言語の諺を論じた Ph.D. 論文も数種見られるような状況である。ただ、それらに収められている諺の意味や用法を詳しく検討してみると個々の諺の意味や用法について文献間に微妙なものからかなり大きなものまで差はあるものの揺れやずれがしばしば見出される。その意味では読者としては諺の使用者たちがそのような揺れやずれをどの程度認識しているのかという疑問が生じるしさらにはもっと根元的なことであるが本来の意味や用法はいずれかということを考えざるを得なくなる。したがってそのような観点からも諺の伝播と意味や用法の変遷について考えてみる必要があるように思われる。

以下はティワーリーの諺辞典と 19 世紀の英人言語学者でヒンドゥスターニー語辞書など数種の辞典の編纂を行った S.W. Fallon がインド人の協力を得て編んだ諺辞典を主な資料として他の文献を参照しながら北インドの諺の意味と用法の検討を試みたものである。

参考文献及び略号

- (A) ヒンディー語諺の直訳
 A.V. इन्दुप्रकाश पाण्डेय, अवधी-हिन्दी कहावत कोश, हिंदी बुक सेंटर, नई दिल्ली, 1991
 (B) हिन्दी-हिन्दी語諺の典故における意味及び用法
 B.E.P. The Background of English Proverbs and Old Sayings (篠田武清: 英語の諺・古諺の研究, 篠崎書林, 東京, 1956)
 Bhoj. शशिशेखर तिवारी, भोजपुरी लोकोक्तियाँ, बिहार राष्ट्रभाषा परिषद्, पटना, 1970
 B.K.S. विश्वनाथ दिनकर नरवणे, भारतीय कहावत संग्रह I, II, III, त्रिवेणी संगम भाषा विभाग, पुणे, 1978, 1979, 1983
 B.T. बृहत् हिंदी लोकोक्ति कोश, संपादक : भोलानाथ तिवारी, शब्दकार, दिल्ली, 1985
 Ch. अनुसूया अग्रवाल, छत्तीसगढ़ी लोकोक्तियाँ और जनजीवन, भावना प्रकाशन, दिल्ली, 2001
 Chatt. मन्मूलाल यदु, छत्तीसगढ़ी लोकोक्तियों का भाषावैज्ञानिक अध्ययन, भाषिका प्रकाशन, रायपुर, 1979
 D.E.P. 大塚高信・高瀬省三編, 英語諺辞典, 三省堂, 1976 Sanseido's Dictionary of English Proverbs, 1976
 E.E.P. 北村孝一・武田勝昭編, 英語常用諺辞典, 東京堂出版, 1997 A Dictionary of Everyday English Proverbs, Tokyo, 1997
 Fa. → Fa.1, Fa.2 (E. 東部ヒンディー語地域のもの; R. Rustic; Wom. Women)
 Fa.1 S.W. Fallon, Hindustani-English Dictionary of Idioms & Proverbs, 1886 (revised edition 1991, Star Publications, New Delhi)
 Fa.2 S.W. Fallon (हिंदी संपादक : कृष्णानन्द गुप्त, हिंदुस्तानी कहावत कोश, नेशनल बुक ट्रस्ट, इंडिया, नई दिल्ली, 1968)
 Ga. चंद्रशेखर 'आज़ाद', गढ़वाली हिंदी कहावत कोश, तक्षशिला प्रकाशन, नई दिल्ली, 1977
 Har. जयनारण्य वर्मा, हरियाणवी लोकोक्तियाँ : शास्त्रीय विश्लेषण, आदर्श साहित्य प्रकाशन, दिल्ली, 1972
 Hrk. जयनारण्य कौशिक, हरियाणवी-हिंदी कोश, हरियाणा साहित्य अकादमी, चंडीगढ़, 1985
 Kah. श्रीभुवनेश्वर मिश्र 'माधव', कहावत कोश, बिहार राष्ट्रभाषा परिषद्, पटना, 1965
 गाँवघर (पत्रिका, गाँवघर कार्यालय, आरा); चंपा° 1(चंपारन ज़िले का पूर्व-दक्षिणी छोर); चंपा° 2(चंपारन का पूर्वी छोर); चंपा° 3(चंपारन का पश्चिम- उत्तरी छोर); दर° 1(दरभंगा ज़िले का पूर्वी तथा उत्तरी भाग); दर° 2(दरभंगा ज़िले का उत्तर-पूर्वी भाग); दर° 3(दरभंगा ज़िले का उत्तर-पूर्वी भाग); पट° 1(पटना ज़िले का दक्षिणी भाग); पट° 2(पटना ज़िले का दक्षिण-पूर्वी छोर); पू° पट° (पूर्वी पटना); बिहान ('बिहान' पत्रिका, पटना); भाग° 1(भागलपुर ज़िले का दक्षिणी भाग); भाग° 2(भागलपुर ज़िले का मध्य भाग); भोज प° ('भोजपुरी' पत्रिका; आरा); मुँ° 1(मुँगेर ज़िले का दक्षिण-पूर्वी भाग); मुँ° 2(मुँगेर ज़िले का उत्तरी तथा मध्य भाग); मुज° 1 (मुजफ्फरपुर ज़िले का उत्तर-पश्चिमी छोर); मुज° 2(मुजफ्फरपुर ज़िले का उत्तर-पूर्वी हिस्सा); शाहा° (शाहाबाद ज़िले का उत्तर-पश्चिमी भाग); शाहा° 2(शाहाबाद ज़िले का दक्षिण भाग); सा° 1(सारन ज़िले का मध्य भाग); हिन्दु° ('हिन्दुस्तानी' पत्रिका)
 Kaur. कृष्णचंद्र शर्मा, कौरवी-वाक्पद्धति और लोकोक्ति-कोश, अमित प्रकाशन, गाज़ियाबाद, 1970
 K.L. शिवकुमार शाण्डिल्य, कौरवी लोकोक्तियाँ, मंगला प्रकाशन, नई दिल्ली, 1983
 (N) 註(諺についての補足説明)
 Rag. William Crooke, A Rural and Agricultural Glossary for The N.W. Provinces and Oudh, Thacker, Spink, and Co., Calcutta, 1888 (second ed. Vintage Books, Gurgaon, 1989)
 Raj. विजयदान देहा (संयोजक व संपादक), राजस्थानी-हिंदी कहावत कोश, जोधपुर, 2003
 R.J.K. भागीरथ कानोडिया, गोविंद अग्रवाल, राजस्थानी कहावत कोश, पंचशील प्रकाशन, जयपुर, 1979

☆ ☆ ☆

(अ)

[1] अंग उपजा स्वभाव नहीं जाता (B.T.)

(A) 身についた癖はなくなるものだ (B) 幼い時についた習癖は生涯身について離れないものだ

[2] अंग्रेज़ की नौकरी और बंदर नचाना बराबर है (B.T., Fa.)

(A) イギリス人に仕えるのは猿に芸をさせるのと同じ (B) (1) イギリス人の下で働くのは少しの油断もならない危険なものだ (B.T.) (2) 大変難しいことのとえ (Fa.2)

(N) (1) これは英領インド時代に行われた諺とされる (2) イギリス人は怒りっぽくて気むずかしく危険なので近づかないのがよいとされている. (Fa.1)

[3] अंग्रेज़ी न फ़ारसी, बाबू जी (/ भैया जी/ मियाँ जी) बनारसी (B.T.) → [312] अरबी न फ़ारसी, बाबू जी बनारसी.

[4] अंग्रेज़ी राज न तन को कपड़ा, न पेट को नाज़ (B.T., Fa.1)

(A) イギリス統治下では着るに衣服なく食うに食べ物なし (B) (1) イギリス統治下の直接課税についての評 (Fa.1) (2) 課税の重荷で苦しんだ民衆が衣食に事欠いたことのとえ (Fa.2) (3) イギリス統治下で人民が甚だ苦しんでいたことのとえ (B.T.)

[5] अंजन नहीं सहा जाता, आँख का फूटना सहा जाता है (B.T.)

(A) 目薬は耐えられず失明は耐えられる (B) 人は目先の苦しみを逃れるために結果的により重大な苦痛や苦難を招くものだ

[6] अंदी तर, दिल चाहे सो कर (B.T.)

(A) 懐が暖かければ人は望むことをすることができる (B) この世は金次第

(N) खीसा तरमतर तौ दाय पड़े ज्यू कर (Raj.) खीसा तर तौ भावे ज्यू कर (Raj.) (A) 懐が暖かければ好きなようにしろ (B) (a) 懐が暖かければどのような物でも手に入る (b) この世は金の世の中 (c) 金だけが全ての願いをかなえてくれる唯一の手段である

[7] अंडा खिलावे बच्चे को (B.T.)

(A) 卵がひなにえさを食べさせる (B) (1) 子供が大人を侮ったり馬鹿にするたとえ (2) 愚かな人が賢者に教訓を垂れるたとえ

(N) (Kah.) によると अंडा सिखावे बच्चा के कि चीं चीं मत कर है (B) の (2) と同義に用いられる.

[8] अंडा सिखावे बच्चे को कि चीं चीं मत कर (Fa.1; B.T.)

(A) 卵がひなにちゅんちゅん鳴くと言う (B) (1) おばあさんに卵の吸いかたを教えるな Don't teach your grandmother to suck eggs (Fa.1) 【釈迦に説法】 (E.E.P.). (2) 目上の人に向かって大きな口をたたくとえ (Fa.2) = छोटे मुँह बड़ी बात. (B.T.) (3) 子供が大人に教訓を垂れるたとえ (B.T.)

(N) (1) अंडा सिखावे बच्चा के कि चीं-चीं कर (Kah., शाहा° 1, 2; चंपा° 2) (A) 卵がひなに (餌が貰えるように) ちゅんちゅん鳴けと教える (2) (B.T.) は An old head on young shoulders を注記しているが、これは Old head and young hands (D.E.P.) 「頭は年季の入ったのがよく体は若いのがよい」と同義のものか (3) अंडा सिखावे बच्चा के जे चेंव चेंव मत कर (Kah. चंपा° 1, 3) (A) 卵がひなに (危険だから) 鳴くなど論ず (B) 知恵の及ばぬ人が知恵者に論ずたとえ (4) Teach your grandmother to suck eggs (D.E.P.)

[9] अंडी के जंगल में बिलौटा ही बाघ (B.T.)

(A) トウゴマの生い茂っているところでは猫が虎の位に就くものだ (B) 【鳥なき里のコウモリ (蝙蝠)】

(N) (1)=अंधों में काना राजा. (2)अंडा बन माँ बिलरा बाघ (B) そんじよそこらではあまり教育を受けていない人や大した力も持たない人が立派な人と思われるものだ (Ch.)

[10] अंत बुरे का बुरा (B.T., Fa.)

(A) 悪い人の最後は良くない (B) (1) 悪事を働く人の最後はよくないものだ (B.T.) (2) 邪悪な人の最後は不吉なものだ (Fa.1) (3) 悪の果は悪. 人に悪をなせばその人自身が最後には悪い結果を招くものだ (Fa.2)

(N) これは本来 [12] の अंत भले का भला と対をなしたもののか. (Raj.) には अंत चोखौ तौ से चोखौ। अंत बुरौ सो बुरौ।がある

[11] अंत भला तो सब भला/अंत भला सो भला (B.T.)

(A)(1) 最後がよければよい (B.T.) (2) よい人の最後はよい (Fa.) (B)(1) その過程でどれほど困難に直面せざるをえないとしてもよいことをする人の最後はよいものだ (B.T.) (2) よい人の最後はよいものだ (Fa.1) (3) 人によいことをする人は自らよい結果を得るものだ (Fa.2)

(N) (1) All is well that ends well. (B.T.) 【終わりよければすべてよし】 (E.E.P.) 仕上げが肝心 (B.E.P.) (2) अंत भला तऽ सब भला (Kah. पट. 1, शाहा. 2 एवं अन्यत्र) (A) 最後がよければすべてよい (B) 結末がよければ成功したものと考えるべきである All's well that ends well (Kah.) (3) अंत भलौ सो भलौ (Raj.) (A) 終わりがよければよいものだ (B) (a) 人生の最後がよければよいものだ (b) 善し悪しの決着は最後につくものだ (c) 未来には何が秘められているか分からないものだ. 今日の幸せに驕ってはならない (d) 最後の時が最終的な真実である

[12] अंत भले का भला (B.T., Fa.1)

(A) 他人に対してよい行いをする人は最後に福に恵まれる (Fa.1, B.T.) (B) 善行は自らの福をもたらす (Fa.1) 【情けは人のためならず】

(N) अंत भले का भला (Kah., चंपा. 1) (B) (a) 人によいことをすれば後でその人にもよいことがあるものだ (b) 善行はいい結果をもたらすものだ

[13] अंध गज न्याय (अंधगजन्याय) (B.T.)

(A) 盲人と象のたとえ (B) 全体についての知識を持たずに断片的であつたり, あるいは, 偏向した知識などにより誤ったり不十分な判断を行うことのたとえ. 【群盲象を撫ず】【群盲象を評す】

(N) न्यायとはサンスクリット語で格言, 金言, あるいは, 適切な例示などの意を持つ語であるが, 甚だ簡潔な表現による例示やたとえを表す. この諺は神に関する無知な人々の認識を例示するものとされるが「盲人と鏡」अंधदर्पण न्याय, 「荒野の嘆き」अरण्यरोदन न्याय, 「弱肉強食」मात्स्य न्याय, 「あら探し」माक्षिका न्याय など数百のものが数えられる.

[14] अंध पंगु न्याय (B.T.)

(A) 盲人と足の不自由な人のたとえ (B) 非力な人や弱い者同士が助け合い目的を達するたとえ

(N) (1) インドの諺にはしばしば諺の由来を説明するとされる話や物語がある. (2) この諺にも盲人が足の不自由な人を肩車して二人の移動が可能になったり火事の危難を逃れたという諺話が伝えられている.

[15] अँधरी गैया, धरम रखवार (B.T.)

(A) 目の見えない雌牛はダラム (ダルマ, 最高規範, 神) が守護者 (B)(1) 目の見えない雌牛にとっては神が守護者 (2) 神は弱い者を守る

(N)(1) = अनाथ गाय के राम रखवार (B.T.) (A) 寄る辺なき雌牛の守護者は神 (2) अँधरी गइया के धरम रखवार (Kah. शाहा. 2) (B) 寄る辺なき人や無力な人は神様が守る = अँधरी गइया के राम रखवार (3) अंधा री गाय तौ राम गो'री (अंधे की गाय का राम ग्वाला) (A) 盲人の所有する雌牛の世話をするのはラーマ (神) (B) 寄る辺なき人の支えになるのは神のみ (4) 弱い者はだれにも守られない

[16] अँधरे सूझे बहराइच (B.T.)

(A) 盲人にはパフラーイチだけが見える (B) 自分の利益のことばかり考えている人のたとえ
 (N) (1)=अन्हरा के सूत्रे बहराइच (Bhoj.) (2) パフラーイチはビハールとネパールの国境近く
 27.34° N. 81.38° E. に位置するウッタルプラदेश州の同名県の県都 (3) ガズनी朝のマフ
 ムード महमूद गज़नवी (在位 998-1030) の甥のサイイド・サーラールジャング・マスウード・ガー
 ジーはパフラーイチにおいてシュラーヴァスティーの王スフリッドデーヴァ सुहृददेव に殺害された。
 (Kah.) (4) パフラーイチにあるマスウード・ガーजीの廟にジェート月に真心を込めて参詣すると
 盲人の目がよくなるという俗信が行われてきている。 (B.T.) (5) 同地のマスウードの廟の近くの池
 で沐浴すると盲人の目が見えるようになるという俗信が伝わっている (Bhoj.)

[17] अंधा आँखों को ही रोता है (B.T.)

(A) 盲人は (見える) 目のみを強く欲しがると (B) (1) 自分が欲しい物のためには他人の都合は一切意に介さない人のたとえ (2) 人は自分が切望する物を手に入れようとして必死に努力するものだ

(N) अंधरा चाहे दु आँखें (Kah. पट. 1) (A) 盲人はひたすら二つの目のみを望むものだ (B) 人は自分に足りないものだけを求めるものだ (2) अंधा क्या चाहे, दो आँखें (Fa.1) (A) 「盲人が望むものは何」「二つの目のみ」

[18] अंधा किसकी ओर उँगली उठाए (B.T.)

(A) 盲人がだれ (特定の人) を指さすことができようか (持っていない, あるいは, 備わっていないものや機能を使用できるはずがない) (B) (1) 手だてを持たない人に仕事を命じることのたとえ (2) 犯罪を目撃していない人に証言を求めることを非難する言葉

(N) आंधौ कणये आंगळी करीन भाळे (Raj.) (A) 盲人はだれの方を指さして見ようか (B) (a) 無力な人には黙って非道に耐えるしか手だてはないものだ (b) なにかを所有していない人はそれを欲しがらないようにせざるを得ないものだ

[19] अंधा कुत्ता बतासे भूँके (B.T.) → [438] आन्हर कूकुर बतासे भूँके.

[20] अंधा गुरु, बहरा चेला। माँगे गुड़, दे देला॥ (B.T.)

(A) 師は目が見えず弟子は耳が聞こえず黒砂糖を求めるのに石くれを差し出す (B) 愚かな人や悪者などの似たもの同士が仲間やつれあいになるたとえ

(N) (1) (B.T.) の解釈によれば【破れ鍋にとじ蓋】とは異なる (2) なお, (Fa.1) には अंधा गुरु, बहरा चेला। माँगे हड़, दे बहेड़ा が見られる。 (A) 「盲目の師に耳の聞こえぬ弟子, ミロバランを求めるのにバヘーラー (植物にできる木の実状のこぼ, 没食子, 五倍子など) を手渡す」しかし, これの用法についての説明はない。ただし, (Fa.2) には次のような説明がある。 (B) 両者が対立する関係にあるか協力しあうことができない状況のたとえ。ただし, (B.K.S.) はこの諺を世の中には互いにぴったりしたものが存在することを示すとえとしているが, 両者に同じような欠陥があるか性質があるものとする (3) आंधर गुरु बहिर चेला माँगे हरे दे बहेड़ा (Kah., पट. 1) によれば「無学な師と才能のない弟子, もしくは, 愚か者同士の二人の振る舞いを揶揄する」と説明される (4) आंधौ गुरु बोळौ चेलौ, माँगे गुळ देवे देलौ (Raj.) (A) 盲人の師が耳の聞こえない弟子に黒砂糖を求めると弟子は石くれを手渡す (B) (a) いかなる形のものであれ不調和が悪い結果をもたらすことは確かである (b) 互いになじまないもの同士が一つになったとしても調和するのは甚だ困難である (c) 負けず劣らずの二人の愚か者の間のぎこちない折り合いのたとえ

[21] अंधा देखे आरसी कानी काजल देय (B.T.)

(A) 盲人が鏡を見, 片目がカーजアルをつける (B) 的外れであつたりちぐはぐな行為のたとえ
 (N) カーजアルとは油煙から作られるもので目薬と化粧品とを兼ねる。目の縁に塗布される

[22] अंधा लकड़ी, एक बार खोता है (B.T.)

(A) 盲人は一度だけ杖を失う (B) 賢者は二度と同じ失敗をしないことのたとえ

[23] अंधी पीसे, कुत्ता खाए (B.T., Fa.1)

(A) 盲人の女性が粉をひき（それを）犬が食う (B)(1) 無能な人の努力は無駄になるものだ。自分の築いた財産を守れないのであれば稼いで何になる (B.T.) (2) 無秩序やだらしなさのたとえ (B.T.) (3) 自分の得たものを大切にしない人のたとえ。愚かな人は得た金を直ぐに手放すことになる (Fa.1) (4) 自分が努力して得たものを当人が利用できずに他人が利用するたとえ (Fa.2) =अंधा पीसे कुत्ता खाए.

(N) (1) अन्हरी पीसत जाय कुकुर खइले जाय (Kah.शाहा° 2) (B) 本人の不注意や非力のためにやりとげることのできないたとえ=अन्हरा रस्सी बरले जाय कुकुर खइले जाय. (2) अंधा पीसे, कुत्ता खाए (Raj.) (A) 盲人が粉をひき犬が食う (B)(a) 一生懸命に努力して得たものを本人ではなく他人が利用するたとえ (b) いかなるものであれ個人的、集团的、政治的な混乱を表すたとえ (c) 締めりがなかったり無秩序な統治の下では官僚が横暴に振る舞うものだ (d) 規律のないところでは必ず混乱が生じるものだ (3) अंधरी पीसैं कुकुरी खायैं। मारैं फंका उड़ि उड़ि जायैं (A.V.) I.P. Pandeya はこれを気の利かない人や女性について用いるものとする。特に姑が隙を狙っている人たちに取り囲まれている不用心で心許ない若嫁を見る視点から解説する (4) (B.K.S.) はこれを人の労苦の成果を横取りすることのたとえとする。अंधी पिसे, कुत्ता खाए すなわち、(B.T.) 及び (Fa.1) の पीसे (粉をひく) と पिसे (こき使われる) との違いがある

[24] अंधे आगे रोना, अपने दीदे खोना (B.T.) अंधे आगे रोये, दोनों दीदे खोये (Fa.1) अंधे के आगे रोये, दोनों दीदे खोये (Fa.2)

(A) 盲人の前で涙を流すことは自分の目を失うこと (B)(1) 心配りや思いやりのない人、あるいは、話しても無駄な人に自分の苦しみや悲しみを語って何になろうか。無益なことのとえ (B.T., Fa.1,2) (2) 説いて聞かせても聞き入れようとしない愚者のたとえ (Fa.2)

(N)(1) (B.T.) は May cry your eyes out ere ye melt the heart of a wheatharrow or casting pearl before swine. (B.T.) 【豚に真珠】と注記しているが、May cry your eyes out ere ye melt the heart of a wheat-harrow ... は Ye may cry your eyes out ere ye melt the heart of a wheel-barrow 「手押し車の心棒を溶かす前に目を潰す」の転写間違いか (2) अंधा आगे रोये आपन दीदा खोये (Kah.चम्पा° 1, पट° 2, शाहा° 2) (B) 無力な人に助力を仰いでも全く無駄である (3) अंधा आगे रोवे, आपरा नैन गमावे। अंधा आगे रोवे, आपरा दीदा खोवे। (Raj.) (B) (a) その器量のない人に対してはいかなる願い事をするのも無駄なことだ (b) 心ない人の気持ちは和らぐことはないものだ (c) 非情な人に協力を期待するのは無駄なことだ (4) अंधरे के आगे रोवे। अपनेओ दीदा खोवे (A.V.) (B) これは同情心のない人についてのみ言及するものであるからラヒーム रहीम の次の句のような悲痛な響きはないとする。रहिमन निज मन की व्यथा मन ही राखो गीय। सुनि अठिलैहैं लोग सब बाँटि न लैहैं कोय॥ 「おのが心の悲しみは胸底深く秘めるべし、空に聞く人あろうとも分かち合う人そばになし」 (5) अंधे के आगे रोये, दोनों दीदे खोये (B.K.S.) はこれを [95] と同類に含めている

[25] अंधे की जोरू का खुदा (/राम) रखवाला (B.T.)

(A) 盲人の妻を守るのは神 (フダー／ラーム) (B) 無力な人を守ってくれるのは神のみ

(N)(1) अंधे की जोरू का अल्लाह बेली (Fa.1) (A) 神が盲人の妻を守る (Fa.1) (2) (Fa.1) の説明から考えるにその意味は次のようにすべきであろう。(Her husband cannot look after her!) 盲人は妻を監督できない。ただし (Fa.2) にはこの諺は見られない (3) अंधे री जोय रौ खुदा रखवालौ (Raj.) (A) 盲人の妻の守護者は神 (B) (a) 盲人の妻の貞操は神にしか守れない。妻も夫を欺くことができるし他人も夫の目の見ええないのにつけていることができる (b) 無力な人を守るのは神のみ (c) 困った時には人は助けるのではなく欺くものだ

[26] अंधे के सामने आरसी, बहरे के सामने गीत

(A) 盲人に鏡（を見せ）、耳の聞こえぬ人に歌（を聞かせる）(B) いずれも無駄なことでも無能な人には価値あるものも意味を持たないことのとえ (B.T.) 【猫に小判】 【豚に真珠】

[27] अंधे के हाथ बटेर लगी (Fa.1) अंधे के हाथ बटेर (B.T.)

(A) ウズラ（鶉）が盲人の手に入った (B)(1) 思いがけず立派なものが手に入ったたとえ (Fa.1) 決して手に入らぬようなものが思いがけず手に入ったたとえ (Fa.2) (2) 無能な人が偶然に立派なもの

のを手に入れたことのたとえ (B.T.)

(N)(1)(B.T.) は A blind man sometimes hits the mark(B.T.) を参照しているが、A blind man may sometimes hit the mark (D.E.P.) は「まぐれ当たり」のことであろうから (Fa.) と (B.T.) とでも用法はいささか異なることになるのではないか。(2) =अन्हेर के हाथ बटेर (B.T. भोजपुरी) (3)आंधा रे हाथ बटेर (Raj.) (B) (a) 偶然に思いもかけぬものが手に入るたとえ (b) 想像もできないようなものが思いもかけず手に入るたとえ (c) 無力な人、弱い人、障害のある人の願いがかなえられるたとえ

[28] अंधे को गड़दा मिला, अंधे को ही साँप (B.T.)

(A) 盲人の進む道ばかりに穴があり蛇がいる (B) 不運な人には不幸や災難が続いたり重なるものだ

[29] अंधे को जुआ माफ़ है(B.T., Fa.1)

(A) 盲人は賭博を免除される (B)(1) 無知や不注意から生じた間違いのいいわけに用いられる言葉 (Fa.1,2) (2) 金額の数字を書き落とした人に対する皮肉として用いられる言葉 (B.T.)

[30] अंधे घर में साँप-ही-साँप(B.T.) अंधेरे घर में साँप-ही-साँप(Fa.)

(A) 暗い家には蛇ばかり (B)(1) 知識や情報を持たないことについては常に不安や懸念がつきまとうものだ (B.T., Fa.2) (2) 秩序のないところでは悪者がはびこるものだ (B.T.)

(N)अन्हार घर में साँप-साँप (Kah., चंपा° 3) (B) 詳しい情報を持たないと様々な疑念が生じるものだ

[31] अंधेर नगरी अबूझ राजा, टके सेर ककड़ी, टके सेर खाजा(Fa.1) अंधेर नगरी अबूझ राजा, टके सेर ककड़ी टके सेर खाजा(Fa.2) अंधेर नगरी चौपट राजा, टके सेर भाजी टके सेर खाजा(B.T.)

(A) 暗黒の都に愚かな王、ヘビウリは1セール (の目方) が1タカー、カージャーは1セールの目方が1タカー (B) (1) ひどい不正や全くの無秩序のたとえ (Fa.1) (2) 支配者が無能であると善と悪との区別がなくなる。そのような甚だしい不正の行われる制度や統治のたとえ (B.T.)

(N) (1) 諺話あり。ジューンシー (झूसी) の近くにバーजी (भाजी 青物) とカージャー (खाजा ケーキ) とが同じ値段で売られる国があったと伝えられる (B.T.) (2) अंधेर नगरी अणूझ राजा, टके सेर भाजी टके सेर खाजा(Raj.) (A) 暗黒の都に愚昧な王。一切の物が同じ値段。 (B) (a) 言語を絶する無法、無政府状態、無秩序、めちゃくちゃな混乱や善悪の区別の全くない状況のたとえ。 (b) 善悪・黒白の区別の全くない為政者のたとえ

[32] अंधेरी रात और साथ में रँडूआ (B.T.) (A) 闇夜の上に側には男やもめ (B) 助かりようのないような危険な状況のたとえ (いずれも女性には危険なものである)

[33] अंधेरी रात में जेवरी साँप (B.T.) अंधेरी रैन में बड़ी जेवड़ी साँप (Fa.1) अंधेरी रैन में जेवड़ी साँप(Fa.2)

(A) 闇夜には紐は蛇 (に見える) (B.T., Fa.2) 闇夜には綱は蛇 (に見える) (Fa.1) (B) (a) 無知から心の中に様々な懸念が生じるものだ (B.T.) (b) 胸に生じる疑念のたとえ (Fa.2) (c) 無知は様々な危険を想像させる原因となる (B.T.)

[34] अंधेरे घर में धींगर नाचे (Fa.)

(A) 暗い家では化け物が踊る (B) (1) 監視したり監督したりする人がいないと傲慢な人が気ままなことをすることのたとえ (2) 人の気配のしない家のたとえ (Fa.2)

[35] अंधेरे घर में बुढ़वा नाचे(B.T.)

(A) 暗い家の中で年寄りが踊る (B) 年配の人や年寄りが密かに悪事を働くのを皮肉る言葉

[36] अंधों में काना राजा(B.T., Fa.)

(A) 盲人の中では片目の人はお殿さま (1) 愚かな人たちや無学な人たちの中では僅かの教育を受けた人が尊敬を受けるものだ (Fa.2, B.T.) (B) 【鳥なき里のこうもり】

(N) (1) If all the world were ugly, deformity would be no monster(B.T.) (2) A figure among cyphers (B.T.) (3) अंधों में कानौ राव (Raj.) (B) (a) 無学な人の中では並の教育を受けた人が学者と思われる (b) 物の全く不足しているところではありきたりの物が大きな意味を持つ (c) 嫉妬心から有能な人や才能のある人に対してこの諺が用いられることがある (4) अंधरा में काना राजा (Kah., पट० 1) (B)(a) 無学な人の中では僅かな教育を受けた人が敬われる (b) 大した教育を受けていない人が知識をひけらかすのを揶揄する言葉 (5) अंधरन माँ कनऊ राजा (A.V.) も (Raj.) の (c) と同じくこれを用いる側の嫉妬心に焦点を当てて説明し、さらにそのために実力者、すなわち、本当にすぐれたものにまでこれを用いて攻撃することがあり得るとして人の心の弱さを衝いている

[37] अंबाझोर चले पुरवाई, तब जानौ बरखा ऋतु आई(B.T.)

(A) マンゴの実を落とす (ような) 東風が吹けば梅雨の訪れと知れ (B) 予兆があればその先は容易に予想されるものだ

(N) (B.T.) は英語の表現としては次を掲げている。If winter comes can spring be far behind - Shelley 「冬来たりなば春遠からじ」

[38] अकटे काटे, अचले चले(B.T.)

(A) 断つてはならぬものを断ち歩んではならぬ道を歩む (B) 反社会的な人や不信心者のたとえ

[39] अकल (अकल) बड़ी या नकल (नकल) (B.T.)

(A) 自分の知恵かそれとも他人の知恵か (B.T.) (B) 人真似をするよりも自分の知恵を働かせるのがよいものだ (知恵は他人から借りるものではない)

(N) अकल बड़ी के नकल(Raj.) (A) 知恵が上か真似が上か (B) (a) たとえどれほどちっぽけなものであるうとも自分の知恵は他人の真似よりもはるかに立派なものだ (b) 人真似は簡単なことではなく知恵のいることだ (c) 真似をしてすませることができるのであれば知恵を働かせることはない

[40] अकल बड़ी या बहस(B.T.) → [59] अकल बड़ी या बहस (B.T.)

[41] अकाल मरी सासू, सुकाल आया आँसू (B.T.)

(A) 姑が死んだのは飢饉のあった去年、涙が出たのは今年 (B)(1) 同情を装う人を非難する言葉 (2) 利己的な人を非難する言葉

[42] अकाल मित की मुक्ति नहीं(Fa.1) अकाल मृत की मुक्ति नहीं होती(Fa.2) अकाल मृत्यु की मुक्ति नहीं(B.T.)

(A) (1) 自害する人は救われない (Fa.1, B.T.) (2) 不慮の死はよくないものだ (Fa.2) (B)(1) (自殺すれば) 自分を殺した罰を受けねばならない (Fa.1, B.T.) (2) 人は自然の理法に反すればその罰を受けるものだ (B.T.)

[43] अकाल में अधिक मास(B.T.)

(A) 飢饉の年は閏月 (B)(1) 苦しいときは長引くものだ (2) 苦難の時には苦難が重なるものだ (3) 不幸や不運な出来事が重なって起こるたとえ

(N)(B.T.) の注には次の説明がある。It never rains but it pours 【降れば土砂降り】

[44] अकाल में क्या नहीं खाया जाता और क्रोध में क्या नहीं कहा जाता

(A) 飢饉の際に食べられないものがあろうか。怒りにまかせて口にしない言葉があろうか (B) 怒りにまかせた暴言を詫げる口上

[45] अकुलाए खेती, सुस्ताए व्यापार(B.T.)

(A) 畑仕事は急いでなすべし。商いは落ち着いてなすべし (B) 農作業は急いで、商いは落ち着いてするがよい。それがいい結果につながるものだ

[46] अकेला खाए सो मट्टी, बाँट खाए सो गुड़ (B.T.)

(A) (同じ物が) ひとりで食べれば土くれ (に感じられ), 分け合って食べれば黒砂糖 (になる)
(B) 何事も独り占めはいけないものだ。分かち合うべきだ

[47] अकेला चना भाड़ नहीं फोड़ता (B.T.) अकेला चना भाड़ नहीं फोड़ सकता (Fa.)

(A) 一粒のヒヨコマメは (はじけても) かまどを砕かない (B.T.) 一粒のヒヨコマメは (はじけても) かまどを砕けないものだ (B.T., Fa.)

(B)(1) 人はひとりでは何事もし得ないものだ (B.T.) (2) この世には大勢の人の力がなければなし得ないことがある (Fa.2)

(N) (1) अकेले चना भाड़ फोड़ी ? (Kah. शाहा. 2) (A) 一粒のヒヨコマメが (はじけて) かまどを壊すだろうか (B) どのような力持ちでも一人では大仕事はなし得ないものだ (2) अकेला (एकला) चिणौ भाड़ कद फोड़े ? (Raj.) (A) ヒヨコマメの一粒がかまどを砕けるものか (B) (a) 一人がどれほど力んでも何もできないものだ (b) 協力によってこそ本当の力となる。一人の力では何もし得ないものだ (3) (B.T.) はこれの英語で対応する諺として One swallow does not make a spring を掲げているが、これは One swallow does not make a summer (A) 「一羽のツバメが来ただけでは夏にはならない」 (B) 「一日が人を幸福にも不幸にもしない」 (D.E.P.) 「一斑を以て全貌を推すべからず」 (B.E.P.) と同じことであるから適当な説明とは思えない

[48] अकेला बैल किस काम का (B.T.)

(A) 一頭の役牛が何の役に立とうか (B)(1) (耕耘などの農作業は普通役牛 2 頭に犁を曳かせて行かうものだから) 牛 1 頭では役に立たない (2) 人はひとりでは何事もし得ないものだ

[49] अकेला हँसता भला न रोता (Fa.) अकेला हँसना भला, न रोना (B.T.)

(A) 一人では笑うのも泣くのもよくないものだ (B)(1) 喜びも悲しみも人と分かち合うのがよい。そうしない人はつまらない人だ (Fa.2) (2) 喜びも悲しみも分かち合えば喜びは倍になり悲しみは半分になる (B.T.)

[50] अकेली कहानी गुड़ से मीठी (Fa.) अकेली कहानी गुड़ से भी मीठी (B.T.)

(A) 一方の語る話は黒砂糖よりも甘いものだ (うまいものだ) (B) (1) 一方の話だけを信用してはならない (B.T.) (2) 他方の話が出るまでは片方の話は立派なものだ One story is good till it is capped by a better one (Fa.1) (3) 比べられるもう一つのいいものが現れるまでは一つのものが一番いいものとされる (Fa.2)

(N) One story is good until another be told. (D.E.P.) 【両方聞いて下知をなせ】

[51] अकेली लकड़िया न जरे न बरे, ना उजारा होए (Fa.1 R.) अकेली लकड़ी, न जले न बरे, न उजेरा होय (Fa.2) अकेली लकड़ी न जले न बले (B.T.)

(A)(1) 一本の木切れだけでは焼けず燃えず炎を上げず (Fa.) (2) 一本の木切れだけでは燃えないし焼けない (B.T.) (B)(1) たった一つの物や人にその限界以上のことを期待してはならない (Fa.2) (2) 一人だけでは何事もし得ないものだ (B.T.)

(N) (1) (Fa.1) にはこの諺には rustic の注記がなされている (2) (Fa.1) と (Fa.2) には諺の最初の語が異なるばかりでなく (Fa.2) はこれと [52] とが同義とする違いがある

[52] अकेली लकड़ी कहाँ तक जले ? (Fa., B.T.)

(A) 木切れひとつがいつまで燃えようか (B)(1) 一人が十人前の仕事をすることはできないものだ (Fa.1 Wom.) (2) =अकेली लकड़ी न जले न बरे, न उजेरा होय (Fa.2) (3) 一人の人が全体の出費を賄えるほど稼ぐことはできない (B.T.) (4) 大仕事は一人ではできないものだ (B.T.)

(N) (Fa.2) ではこれは [51] と同一と説明されているが、(Fa.1) では Women と注記されている

[53] अकेली हरदसिया सारा गाँव रसिया (B.T.)

(A) ハルダシヤーひとりに村中が熱を上げる (B) 一つしかないものや数少ないものを多数の人が欲しがるとえ 【娘一人に婿八人】

(N) (1) ハルダシヤーは女性の名前 (2) =एक अनार सौ बीमार. →ペルシア語の諺 एक अनार सद बीमार 「ザクロ一つに病人百人」

[54] अकेले-दुकेले का अल्लाह बेली(Fa., B.T.)

(A) ひとりぼっちや寄る辺ない人には神が味方するものだ (B)(1) 寄る辺ない人には神が味方する (2) 人は仲間がなくとも親類縁者の助力や応援がなくとも失望してはならない. 神の加護はあるものだ (B.T.)

[55] अकेले मियाँ कर खोदेंगे या रोएँगे (B.T.)

(A) 一人では墓穴を掘るか泣くかのどちらかしかできないものだ (B) 人は同時に幾つもの仕事はできないものだ

[56] अकेले से झमेला भला(B.T.)

(A) ひとりぼっちよりもごたごたがよい (B) たとえごたごたがあっても他人と一緒に暮らすほうが一人で過ごすよりよいものだ. たとえ争いがあろうとも仲間のあるほうがよいものだ

(N) अकेला से झमेला भला (Kah., शाहा. 2) (A) 一人いるよりも集団の中にいるのがよいものだ (B) 人が一人暮らすのはよくない. いざこざがあっても家族と一緒に暮らすべきだ. 子供がなくて幸せに暮らすよりも子や孫とごたごたの中でも一緒に暮らすのがよいものだ

[57] अकल को पूछें सब, शकल न पूछे कोय (B.T.)

(A) 人は知恵や知能が問われるもので見目は問われないものだ (B) 人は見かけよりも知恵が大切だ

(N)(1)(B.T.) にはこれは容貌に自惚れる愚か者に対して用いられるとの注がある. Handsome is he who handsome does.(B.T.) Handsome is as handsome does. (E.E.P.) (B) よい行いをする人が立派な人である 【見目より心】

[58] अकल बड़ी कि बैस(B.T.)

(A) 知恵や知能のほうが上か歳のほうが上か (B) 人が重んじられるのは年齢ではなくて知恵である

(N) (B.T.) は, これが अकल (अकल) बड़ी या बैस の基になっている可能性があるとする → [60].

[59] अकल बड़ी या बहस(B.T.) अकल बड़ी कि बहस(Fa.1)

(A) 知恵や知能が上か理屈や議論が上か (ものごとを正しく理解することか口角泡を飛ばして言いあうことか) (B) (1) 知恵がすぐれているか議論がすぐれているか (Fa.1) (2) 理屈よりも知恵で物事に対処するのがよい (Fa.2) (3) 無駄に理屈をこねまわす人に対して言い返す言葉 (B.T.)

(N) (1) この誤用とされるものに अकल बड़ी या बैस(B.T.) がある. (A) 知恵が上か水牛が上か (B) 人の価値は財力や腕力ではなくその人に備わっている知力によって定まるものだ (2)(Fa.1) はこれが訛って अकल बड़ी कि बैस になったとする (3)अकल बड़ी के बैस (Raj.) (B) 大きさよりも目に見えぬ細やかなもののほうが重きをなすものだ (3)(Raj.) の補注で注者は次のように述べている. 知恵と水牛という見えるものと見えないものの対比によって大きいものよりも目に見えない小さいもののほうがすぐれていることを示しているのでありこの諺のほうが本来のものである. (4) → [60] अकल बड़ी या बैस.

[60] अकल बड़ी या बैस(B.T.)

(A) 知恵と水牛とではどちらが上か (B) 人は財産や体力ではなくその人の知恵や知力で尊敬されるものだ

(N) (1)(Fa.1) によれば、これは **अकल बड़ी कि बहस** の転訛形とされるもので、「理屈よりも知恵を用いるべし」の意である (2) = Knowledge is more powerful than mere strength.(B.T.) (3) = **अकल बड़ी या लाठी** 「知恵が強いのか棍棒が強いのか」 (4) (Kah.) によれば **अकल बड़ी कि मैस** は **अकिल बड़ कि लाठी बड़** (Kah., शाहा° 2) と同義であり、知恵で負けた人を揶揄する言葉である (5)(Raj.) は、Rajasthani に行われる **अकल बड़ी के मैस** が本来的な形であり、理屈や議論を述べるには知力が求められるのは当然であって両者は対立するものではない。目に見える大きなもののほうが実は勝っているのではないと言うことに重点があるとして Fallon の言う **अकल बड़ी कि बहस** が本来のものであるとの意見に反駁している。(6)**अकल बड़े के मैस** (Chatt.) (B) 体力よりも知力のほうがすぐれていることのたとえ

[61] **अकल बेचकर खा ली है** (B.T.)

(A) 知恵を売り飛ばして食べ物に代えた (B)(1) 全くの愚か者のたとえ (2) 愚か者を罵る言葉

[62] **अकलमंद को एक इशारा काफी है** (Fa.) **अकलमंद को इशारा काफी (है)** (B.T.)

(A) 知恵ある人には説明する必要はない。賢者は多言を要しない 【一を聞いて十を知る】

(N) (1)**अकिलमन्दे इसारा काफी** (Kah., शाहा° 2) これはペルシア語の諺に起源を持つものである。(2)**अकलमंद नै इसारौ उबरतौ पड़्यौ**(Raj.) (A) 僅かな言葉で一切を理解するのが賢明さのしるしである (B) 賢者はほんの僅かの言葉で一切を察知するものだ=**अकलमंद नै इसारौ घणौ**. (3) A word to the wise(B.T.) A word to a wise man is enough (D.E.P.) 【一を聞いて十を知る】

[63] **अकलमंद सदा दुःख पाय**(B.T.)

(A) 知恵ある人は常に悩む (B) 知恵あればこそ考えて悩みも苦勞も多くなるものだ

[64] **अकल विरासत में नहीं मिलती**(B.T.)

(A)(B) 知恵や知能は相続できないものだ。必ずしも親の頭がよければ子の頭もよいわけではない

[65] **अकल से ही खाना मिलता है** (B.T.) (A) 知恵でこそ食べ物は得られるもの (B) 人は頭がよければよいほど稼ぎも多くなるものだ

[66] **अगला आग तो पछिला पानी** (B.T.)

(A) (自分の) 前に火があれば後ろには水 (を置き) (B) 怒っている人の前では冷静に振る舞うべし。相手が興奮していれば冷静に対応するがよい (N) **आगलौ आग तौ आपां पांणी**(Raj.) (A) 前に火、手前に水 (B)(a) 人の怒りは相手の静かな心で鎮まるものだ (b) 気性の激しい人には静かな心で優しく接しなくてはならない

[67] **अगले को घास, ना पिछले को पानी** (Fa.1) **अगले को घास नहीं, पिछले को पानी** (B.T.)

(A) 目の前の人に草を与えず先祖に水を供えず (生きている家族を養わず先祖の供養もせず) (Fa., B.T.) (B)(1) 利己的な人や吝嗇な人を非難する言葉 (B.T.) (2) だれにも何も与えないけちな人のたとえ

[68] **अगले पानी, पिछले कीच**(Fa., B.T.)

(A) 先 (の人) は水、後 (の人) は泥 (先に井戸から水を汲む人は水を汲むが後から来る人は泥水を汲む) (B) 人に先んずれば有利になるものだ 【先んずれば人を制す】 【早い勝ち】

(N) (1) The early bird gets the worm.(Fa.1) (2) The early bird catches the worm(D.E.P., E.E.P.) Delays are dangerous.(Fa., E.E.P.) 【早起きは三文の得】

[69] **अगसर खेती अगसर मार, कहैं घाघ ते कबहुँ न हार**(B.T.)

(A) 畑仕事は人に先んじ喧嘩では先に攻撃を加えれば負けなし (ガーグの言葉) (B) 【先んずれば人を制す】 【先手必勝】

(N) (1) घाघ हा भोलानाथ तिवारीによれば 1696 年生まれ of हिन्दी語の詩人とされるが、この人物はオリッサ地方のウリヤー語やアッサム地方のアッサム語の行われる地域でダーク डाक の名で知られる詩人やビハールやラージャスターン地方においてダークの名で民間に広く知られている詩人と同一人物である。この詩人の名で知られているものは農作業、農事暦、天候、健康、食生活、礼儀作法や道徳などを主題にした詩で多くは諺のようにになっている。それらは各地の言語により伝えられているものであるから同一人物の句と考えるよりはガーグ、もしくは、ダークの名を冠した民衆詩人たちの作品と理解するのが妥当だと思われる。हिंदी साहित्य कोश 2, वि० संवत् 2020 (2) = अगहर खेती अगहर मार। घाघ कहै तौ कबहूँ न हार ॥ (A.V.).

[70] अगहन उपवास हो अकाल का क्या डर (B.T.)

(A) अगहन月 (陽暦の 11 月半ばからのひと月) に欠食するようであれば飢饉を恐れるまでもない (B) (米の) 収穫時にさえ食糧が不足するのなら飢饉の到来は必定である

(N) (1) この諺はこの諺はヒンディー語地域の東部米作地帯に広く行われる。(B.T.) (2) = अगहन उपास कालक कोन डर. (Kah., मुज० 2)

[71] अगहन जो कोऊ बोवै जौवा, होई तो होई नहिं खवै कौआ (B.T.)

(A) अगहन月にオオムギを播くならば収穫があったとしてもカラスが食いつくす (ほどしかとれないものだ) (B) オオムギはアグハン月に播いてはならない

[72] अगहन, चूल्हे अदहन (Fa.) अगहन दाल का अदहन (B.T.)

(A) (1) अगहन月にはかまどにかけた豆の煮汁 (Fa.) (2) अगहन月は豆の煮汁 (B) (1) अगहन月の一日はとても短い【秋の日は釣瓶落とす】(2) अगहन月の一日は台所仕事をしているうちに過ぎてしまうほど短いものだ (Fa.) (3) अगहन月の一日は豆の汁が直ぐに煮え立つように短いものだ

(N) Hearths are lighted in December (said of things in Season). (Fa.1)

[73] अगहन दूना, पूस सवाई, माघ मास घर से भी जाई (B.T.)

(A) अगहन月 (陽暦 11 月半-12 月半) なら 2 倍に, पूस月 (12 月半-1 月半) なら 1.25 倍に, मार्ग月 (1 月半-2 月半) なら持ち出しも (B) もしも雨がアグハン月に降るならば小麦の収穫は (平年作の) 2 倍になり, पूस月に降るならば 1.25 倍になる. もしも मार्ग月に降るならば播いた種子ほどの収穫もない

(N) अगहन दूना पूस सवाई माघ मासे घरहूँ से जाई (Kah., चंपा० 2) (A) (B) अगहन月に降雨があれば春作 (小麦など) はとてもよい. पूस月に降れば平年作の 1.25 倍の収穫があるが, मार्ग月に雨が降れば播いた種ほどの収穫もない

[74] अगहन में चूहे भी सात जोरू रखते हैं (B.T.)

(A) अगहन月にはネズミも 7 匹の妻を持つ (B) (稲の収穫時の) अगहन月には貧乏人も食うに困らない

(N) (1) अगहन月にはインド暦の第 9 月で陽暦の 11 月から 12 月にかけてのひと月 (北東部インドの稲の収穫期に当たる) (2) अगहन में मुसवौ के सात जोरू (Kah., मुँ० 1) 金があればだれでも幾人もの妻が持てる

[75] अगहन में छोटे भी मोटे हो जाते हैं (B.T.)

(A) अगहन月には貧乏人も太るものだ (B) (1) 稲の収穫されるアグハン月にはどのような貧乏人も食べ物には全く困らない (2) 貧しい暮らしをしていたのが少し豊かになり気取った振る舞いをするようになったのを揶揄する言葉

(N) अगहन月に食糧が豊かになることは他の諺にも言及される. आयल अगहन फूलल गाल माघ महिनवा ऊहे हाल (Kah., चंपा० 1) 「アグハン月になれば (貧乏人の) 頬がふくらむが मार्ग月 (陽暦の 1 月から 2 月) になれば元通りになる」

[76] अगाड़ी तुम्हारी, पिछाड़ी हमारी(B.T.)

(A) 前のほうはお前のもの、後のほうはおれのもの (B) 自分の利益のことしか考えぬ欲深い人のたとえ

(N) 諺話あり。二人の兄弟が金を出し合って雌の水牛を一頭購入した。欲深い一人が水牛の前半身を他方に与え自分は乳房のある後半身を取り自分だけが乳を搾った。

[77] अग्रसोची सदा सुखी(B.T.)

(A) 先々を考える人は常に幸せである (B) 先々を憂えるようにすれば常に困ることがない【備えあれば憂いなし】

[78] अघाई केवटिन मछली से चूतड़ पोंछे (B.T.)

(A) 魚を食べ飽きたケーワトの女は魚で尻を拭く (B) 沢山の物に恵まれてそれを粗末に扱う人を非難する言葉

(N) ケーワト(ケवट, खेवट)は従来生業として漁労や水上運搬などに従事してきたカースト。

[79] अघाया बगुला पोठिया तीत(B.T.)

(A) 満腹したサギにはポーティヤー (小魚の一) は苦い (B) 口が奢れぼうまいものまでまずく感じられるようになるものだ

(N)=अघाइल बकुला पोठिया तीत(Kah.,शाहा° 2; चंपा° 1,3; पट° 1)

[80] अघाया बगुला तीस मछली का कलेवा (B.T.)

(A) サギは満腹していても朝食に 30 匹の魚を平らげる (B) 大食漢をからかう言葉

[81] अच्छा किया खुदा ने, बुरा किया बंदे ने (Fa., B.T.)

(A) 正しくしたのは神、誤ったのは下僕 (人間) (B)(1) 神のなすところは常に正しい (Fa., B.T.) (2) 恩義を全く感じない人のことを評して言う言葉 (B.T.)

[82] अच्छे बुरे में चार अंगुल का फ़र्क है (B.T., Fa.)

(A) (1) 良いと悪いとの間には指幅 4 つの違いがある (B.T.) (2) 良いと悪いとの間にはほんの僅かの違いしかないものだ (Fa.1) (B)(1) 人柄の判断はうわさ話を聞いてではなく自分の目で見て行うことが大切だ (B.T., Fa.2) (2) 善悪の違いはほんの僅かしかないものだ. (Fa.1)

(N) 目と耳との間には指幅 4 つ分の隔たりがあるとされる

[83] अजगर करे न चाकरी पंछी करे न काम (Fa., B.T.)

(A) 大蛇はだれかに仕えるではないし鳥はなにかの仕事をするわけではない (B)(1) 無為徒食の人を揶揄する言葉 (B.T., Fa.2) (2) 神は一切の生き物に食べ物を与えるものだ (B.T., Fa.1)

(N)(1) これは मलूकदास (1574-1682) の句 दोहा の一節で、全体は次の通り。अजगर करे न चाकरी, पंछी करे न काम। दास मलूका कह गए सब के दाता राम॥ (2)(Fa.1) はマタイ伝を引用している。Consider the lilies of the field how they grow, they toil not, neither do they spin 「野の百合は如何して育つかを思え、勞せず、紡がざるなり」 Matthew vi. 28 マタイ伝 (福音書) 6-28 (3)अजगर करे न चाकरी पंछी करे न काम। दास मलूका कह गए सबके दाता राम (A.V.)Pandeya はこれが用いられるのは主として怠け者を揶揄するためであり神の威力を表すものではあるが、怠惰を奨励するものではない、とする

[84] अजब तेरी कुदरत अजब तेरा खेल, छछंदर के सिर में चमेली का तेल (B.T.) अजब तेरी कुदरत, अजब तेरा खेल, छछंदर भी डाले, चमेली का तेल(Fa.)

(A) 神の現出する力や神の望むところは不可思議なり。ジャコウネズミの頭にタイワンソケイの香油とは (B)(1) 神のなしたまうことは人知の及ばぬもの (2) この世の不可思議さや不思議な出来事に感嘆する言葉 (B.T.) (3) 馬に乗った乞食 (The beggar on horse) (Fa.1) (4) 生まれてこのかた

一度も見たことのないものやそれを用いる資格の全くないような物が手に入った時の感嘆の言葉、あるいは、そのものに全くふさわしくない人のたとえ (Fa.2)

(N) (1)(B.T.) は句の前半のみを掲げ後半は注で補っている (2)(Fa.1) は 'The beggar on horseback' を補っているが、これは次の諺の略か？すなわち、Set a beggar on horseback and he will (ride a) gallop (or run his horse out of breath or he'll ride to the devil) 「貧乏人がにわかに金持ちになると傲慢になり残忍になるものだ」 (D.E.P.) (3)(Kah.) は (Fa.) を掲げ次のようにその意味を説明している。「その器量を持たない人やそれを正しく用いる方法を知らない下賤な者が高い名誉を受けたことを評したり無能な人が高い地位を得たり用いたりすることを揶揄する言葉」

[85] अटक पर आए कार, वही है सच्चा यार (B.T.)

(A) 行き止まった時や困った時に役立つのが真の友 (B) 苦難の時に助ける友だちが真の友

[86] अटका बनियाँ देय उधार(B.T.) अटका बनिया सौदा दे(Fa.)

(A) バニヤーは貸しのある時にだけ付けで売るものだ (B)(1) 利己的な人が何らかの魂胆があつて人助けをすることを揶揄する言葉 (B.T.) (2) 欲から親切めかした行為をすることを揶揄する言葉 (B.T., Fa.) (3) それしか貸したものを取り戻す方法がないからすることのたとえ (Fa.1) (4) 仕方なく他人のためになることをするたとえ (Fa.2)

(N)(1) =अटका बनिया सौदा करे (B.T.) (2) バニヤーという言葉には商人の意があるが、一銭一厘を惜しむ小商人のイメージが強い (3)अटकौ बाण्यौ उधार दे (Raj.) (A) 貸した金を取り戻すためには更に金を貸さなくてはならなくなるものだ (B) (a) 人は時には自分が抜き差しならなくなったために助かることもあるものだ (b) けちで極度に利己的なバニヤーは抜き差しならなくなれば人の役に立つことはない (c) 自分が苦境から逃れるために人の役に立つ利己的な人のたとえ (4)अटके बनियाँ नवसेरा देय (Ch.) は「バニヤーは欲しがっている人に (タマリンドの) 9 セールを 1 ルピーの (法外な) 値で売る」の意であるから他とは異なる。=अटके बनिया नवसेरा(Chatt.) (5)अटका बनिया देय उधार (A.V.) はバニヤーは人の心の象徴である、とする (6)अटका बाणिया दे उधार्य (Har.)

[87] अटकेगा सो भटकेगा(B.T., Fa.)

(A) 疑えば道に迷う (B)(1) 疑り深い人はそのために損をするものだ (B.T.) (2) 欲のある人はかけずり回るものだ (Fa.2)

(N) अटकै सो भटकै (Raj.) (B) (a) 欲しいものがある人はそのぐりをうろつくものだ (b) 人は切迫しない限り積極的にはならないものだ (c) ためらえば事はうまく運ばぬものだ (d) 疑念や躊躇から人は道を誤るものだ

[88] अढ़ाई दिन की बादशाहत(B.T.)

(A) 二日半だけの王位 (B)(1) 【三日天下】; 【三日大名】 (B.T.) (2) =अढ़ाई दिन की सकके ने भी बादशाहत कर ली.(B.T., Fa.) → (N)

(N) (1) → अढ़ाई दिन की सकके ने भी बादशाहत कर ली (2)(Raj.) には ढ़ाई दिन रौ राजा という諺があり「高い地位を得て傲慢になる人のたとえ」とされる。

[89] अढ़ाई दिन की सकके ने भी बादशाहत कर ली (Fa., B.T.)

(A) 水運び人夫のサッカーさえも二日半王位についた (B)(1) 偶然に高い地位に上り威張り散らす人を揶揄する言葉 (B.T., Fa.2) (2) 僅かの間勢いの盛んな人を揶揄する言葉 (B.T., Fa.2)

(N)(1) → अढ़ाई दिन की बादशाहत. (2)(B.T.) には次の諺話あり。ムガル朝第二代皇帝のフマール・ユーンがある時水運搬人のサッカーに命を助けられたことがありその謝礼に短時日サッカーの願いをかなえて王位につけてやったという。(3) アラビアンナイト (千夜一夜物語) にある有名な話にちなんだ諺である。Jack in office (Fa.1) 「威張った小役人」

[90] अढ़ाई हाथ की ककड़ी, नौ हाथ का बीज (Fa., B.T.)

(A) 2.5 ハート (腕尺) の長さのヘビウリの種の長さが 9 ハート (6 尺 5 寸のヘビウリの種の長さが 12 尺) (B)(1) 支離滅裂な話や有り得ない類の話のたとえ (B.T.) (2) 有り得ない話や大ぼらを

吹くことのたとえ (Fa.2) (3)Spring wedded to winter. (Fa.1)

[91] अति और नारायण से बैर है (B.T., Fa.2) अती और नारायन से बैर है (Fa.1)

(A) 度外れは神の仇 (B) 何事も度を越えるのはよくない

(N) (1) 表現は正反対であるが次は同じことを述べる. अत का पत भगवाने राखसु (Kah., शाहा° 2) 度を越した人の名譽は神様にしか守ることができない अत री पत राखे भगवान (Raj.) も同じである (2) अति खुदा बैर है (Raj.) (A) 度外れは神の敵 (B) (a) 度外れは常に破滅をもたらすもの (b) よいことも度が過ぎるとよくない (c) 自然に普通であることがよい結果をもたらすものだ (3) अति राम बैर है (Raj.) (A) 度の過ぎることはラーमा (神) の敵 (B) (a) 度を過ぎることはラーमाにさえ禁じられているのであるからまして平凡な人間には始末に負えない結果になることだ (b) 神さえも度を過ぎることをよしとはしない (c) 度を過ぎることには魔性が潜んでいる. 故に神はそれを憎む

[92] अति का भला न बरसना, अति की भली न धूप (B.T.)

(A) 雨が降りすぎても日が照りすぎてもよくないものだ (B) 極端なことは害になることのたとえ

(N) (1) (B.T.) によれば, これの全体は次の 2 行である. すなわち, अति का भला न बरसना, अति की भली न धूप। अति का भला न बोलना, अति की भली न चुप॥ 雨の降り過ぎも日の照り過ぎもよくない, 喋り過ぎも無口に過ぎるのもよくない (2) अति का भला न बरसना, अति की भली न धूप। अति का भला न बोलना, अति की भली न चुप। Too much of a good thing (Fa.1) Too much is good for nothing (D.E.P.) Too much of one thing is not good (B.E.P.) 【過ぎたるは及ばざるが如し】【有難迷惑】 (3) अत री भली न बरसणौ, अत री भली नंह धूप। अत री भली न बोलणौ, अत री भली नंह चुप॥ (B) よいものも度が過ぎると役に立たなくなるものだ. 極端は避けるべし (Raj.)

[93] अति परिचय से होत है सदा अनादर भाव (B.T.)

(A)(B) 親しみが過ぎると常に侮られるものだ

(N) 親密に過ぎると軽蔑を生じる Too much familiarity breeds contempt (B.T., D.E.P.)

[94] अति प्यार, लड़का बिगाड़ (B.T.)

(A) 愛情のかけすぎで息子を損なう (愛情が過ぎれば子を損なう) (B) 子供に度を過ぎた愛情を寄せるのは有害だ. 【可愛い子には旅をさせよ】

(N) Spare the rod and spoil the child (B.T., D.E.P., E.E.P.) 「鞭を惜しんで子供をだめにせよ」

[95] अति सोए रंग पीत हो, अति बोले पछतात (B.T.)

(A) 眠りすぎると顔が青ざめしゃべりすぎると悔やむことになる (B) 睡眠もしゃべるのも度が過ぎるのはよくない. 睡眠も口も慎むがよい

[96] अदरक का स्वाद बंदर क्या जाने (B.T.)

(A) ショウガの味が猿にわかろうか (B)(1) すぐれたものの味わいや喜びはろくでなしや田舎者にはわからぬものだ (2) 人は自分の水準のものしか理解し得ないものだ

(N) (1) = बंदर क्या जाने आदी का स्वाद (Fa. E.) (2) बंदर कोई जाणै अदरक रौ स्वाद (Raj.) (B) (a) 田舎者は洗練されたものの価値を解さない (b) 愚か者にはすぐれたものの価値がわかるはずがない (3) बंदर क्या जाने अदरक का स्वाद (B.K.S.) (B) 並の人間には価値あるものの真価は理解できないものだ

[97] अदरा गैल तीन गेल सन साठी कपास, हथिया गैल सब गैल आगिल पाछिल चास (B.T.)

(A)(B) アドラー月宿 (インドの二十七宿の第六, アールドラー (आर्द्रा) の頃 (すなわち, 6 月下旬) に雨が降らなければサンヘンブ, サーティー米, 棉の三つが不作になる. ハティヤー (हथिया, हस्त) の頃 (すなわち, 9 月末~10 初め) に降雨がなければ一切の作物がだめになる.

(N) (1) サーティー米 साठी とは植えてから 60 日間で収穫できるとされる早稲種の稲. (2) = अदरा गेला तऽ तीन लेले गेला (Kah., पट° 1) = अद्रा गया तो तीन चीजें गई (B.T.). 梅雨入りがアドラー月宿を過ぎると三つの作物がだめになる (3) आद्रा धान पुनर्बस पैया, गा किसान जो बोए चिरैया (Rag.) 稲

はアドラー月宿の頃（陽暦 6 月下旬）に植えればよく育ち、ブナルバス月宿の頃（第七星宿，陽暦 7 月前半）に植えれば実の入りが悪く，チライヤー月宿の頃（第八星宿，7 月後半）に植えれば収穫が全くできない (4) → अदरा मौंहि जो बोवे साठी, दुख का मार भगावै लाठी(B.T.) アドラー月宿の頃にサーティー米を播けば悲しみを梶棒で追い払うほどの収穫があるものだ

[98] अदले का बदला(B.T.)

(A) 交換 ; やりとり ; 交替 (B) しっぺい返し ; 自分が他人にしたことと同じことを他人からされるたとえ

(N) Tit for tat. (B.T., D.E.P.)

[99] अदालत में जीता सो हारा, हारा सो मरा (B.T.)

(A) 裁判所での勝ち負け (も同然), 負けは死 (も同然) (B) 訴訟沙汰では勝っても負けても経済的に破綻するものだ。裁判での争いは避けたがよい

(N) = अदालत में जीता सो हारा, हारा सो डूबा(B.T.).

[100] अदृष्ट बलवान है(B.T.)

(A) 運命は強力なもの (B) 運命はあらがいがたい難いものだ

(N) (1) = होनी बड़ी बलवान है(B.T.). (2) = होनहार मिटती नहीं; होनी बलवान है (Fa.)

[101] अदोखे दोख गति न मोख(B.T.)

(A) 無実の人に罪を着せる人は成仏できない (B) 無実の人を罪に陥れる人は地獄に堕ちる

[102] अधजल गगरी छलकत जाय(B.T.)

(A) 水が半分しか入っていない壺はよく音を立てる (B) (1) 僅かな知識しか持たない者はよくしゃべったり自慢したりするものだ (2) 品性卑しい人間は気取った振る舞いをするものだ

(N) (1) = अधजल गगरी छलकत जाय, भरी गगरिया चुप्पे जाय(B.T.). (2) Empty vessels make much noise; Deep rivers move with silent majesty; Shallow brooks are noisy. (B.T.) 【あき樽は音が高い】 (3) Empty vessels sounds most; Shallow streams make the greatest sound. (D.E.P., Rag.) 【浅瀬に仇波】

[103] अधपद्यो घर कौ खाय(B.T.)

(A) 生半可に学問を修めると家族までも苦しめることになる (B) 【生兵法は怪我の基】

(N) (1) = नीम हकीम खतराए जान(B.T.). (2) अधपद्य विद्या घर धुवै, चित्या धुवै सरीर(Raj.) (A) 生半可な学問は家庭を洗い流し心配は体を洗い流す (B) (a) 半端な知識は家庭に害をなす (b) 不完全な情報や技芸も動揺に危険なものである (3) अधपधरी विद्या फोड़ा घालै(Raj.) (A) 生半可な知識は苦痛を与える (B) 生半可な知識により人は帰属不明の中途半端な存在となることが問題だ

[104] अधम जाति मैं विद्या पाए, भयऊँ जथा अहि दूध पिआए(B.T.) (A) 卑しい身分の者が

学問を修めることは蛇に牛乳を与えることも同じ (B) (1) 身分卑しき者に学問を与えることは自分に害をなすこと (2) 悪者は知識を悪用する (N) これはトゥルシーダースの『ラームチャリトマーナス』 तुलसीदास 'रामचरित मानस' の句 (7-106-3) の一部である

[105] अधर्म का धन पाँच बरस या सात बरस

(A) 不正な方法で得た金は手元に 5, 6 年間しか留まらないものだ (B) 【悪銭身につかず】

(N) अधर्म सूँ धन होय, बरस पाँच के सात (Raj.) (B) 不正に得た金はいつ失せるとも知れないものだ

[106] अधिक खाद और गहरी फाल, दो दो नाज होय बेहाल(B.T.)

(A) 肥やしをたくさん施し土を深く耕すならば運び切れぬほどの収穫があるものだ (B) 畑には肥料を多く入れ深く耕すことが肝要だ

[107] अधिक जोगी मठ उजाड़(B.T.)

(A)あまりに多くのヨーガ行者(修行者)が集まればその僧院は荒れ果てる(B)【船頭多くして船山に上る】

(N) (1) =अधिक योगी मठ का उजार(B.T.). (2) =अधिका जोगी मठ के उजार (Kah., चम्पा° 1). देर जोगी तहाँ मठ के उजार (Kah., शाहा° 2) (B) 利口な者が多く集まるとたいいて事はうまく運ばないものだ(3) Too many cooks spoil the broth. (B.T., E.E.P., D.E.P.)

[108] अधिक बोलना मूर्खता का लक्षण (B.T.)

(A) 多弁は愚かさのしるし(B) しゃべり過ぎはよくない. 多弁は慎め

(N) 意味は異なるものと思われるが(B.T.) は次の英語の諺を掲げている. A long tongue is the sign of a short hand (B.T.) 「口約束の多い者はほとんど実行しないものだ」(D.E.P.)

[109] अधिक बोले तो धूर्त कहावे, कम बोले तो मूर्ख (B.T.)

(A) 口数が多ければいかさま師と呼ばれ, 口数が少なれば愚か者と呼ばれる(B) どうしても非難や問責を免れぬ状況をたとえていう

[110] अधिक लोभ विनाश की जड़(B.T.)

(A)(B) 食欲は破滅の基

(N) [432] 及び [434] を参照のこと

[111] अधिक सयाने पर धूल पड़ती है (B.T.)

(A) 抜け目のなさ過ぎる人は泥をかぶる(B) 抜け目がなさ過ぎるとしくじるものだ; 人は才気に溺れると失敗するものだ

(N) (1) Too much wise too much foolish. (B.T.) (2)(B.T.) は=सयाना कौवा गू खाए 「利口なカラスが糞を食う」とする

[112] अधिक होशियार तीन जगह चुपड़े (B.T.)

(A) 賢しさが過ぎると3個所になすりつける(B) 賢しさは過ぎぬがよい

(N) (1) 諺話あり. 二人の友が道を進む途中, 足になにかが付着した. さかしくなかつた男は足についたのを地面にこすりつけたが, さかしい男はそれを手に取り臭いを嗅いだためにそれは手と鼻についた. それは汚物であつた. (B.T.) (2)(Kah.) には同じ諺に基づく次の諺が見られる. अधिका अकिला तीन जगे माखेला (Kah., सा° 1) 利口が過ぎる人はそのために同じことで3度だまされる

[113] अधूरा छोड़े सो पड़ा रहे(B.T.)

(A) やりかけたことを途中で止めればそのままになる(B) 何事もやりかけたことは最後までやり遂げなくてはいけない

[114] अधेला न दे अधेली दे(B.T.)

(A) アデーラー (2分の1パイサー)を支払わずにアデーリー (2分の1ルピー)を支払う羽目になる(B) (1) 僅かなものを惜しんで大金を失うことになるけちな人を揶揄する言葉【一文惜しみの百知らず】(2) 財貨の値打ちをわきまえぬ愚か者を揶揄する言葉

(N) अधेला न दे, अधेली दे (B.K.S.) は小事にこだわって大局を見ようとしなないことのたとえとするので(B.T.) と(B.K.S.)とは違う解釈になる

[115] अनकर खेती अनकर गाय, वह पापी जो मारन जाय(Fa.)

(A) 他人の畑に入り込んだ他人の牛を追い払いに行くのは罪深い人(B) 自分に関係のないことに口出しをすることはない. 余計な口出しを揶揄する言葉

[116] अनकर धन पर लछमी नारायन (Fa., B.T.)

(A) 他人の財産を横取りして大金持ちになる (B) (1) 他人の財産を利用して大金持ちになると
え (2) 他人の費用でご馳走をいただく
(N) (B.T.) では=अनके धन पर चोर राजा.

[117] अनकर सेंदुर आपन कपार फोड़ें (B.T.) अनकर सेंदुर देख आपन कपार फोड़ें (Fa.1)

(A) 他人のセーンドゥル (／シンドゥール) を見て口惜しさにおのれの額を割る (B)(1) 他人の
幸運や出生を羨む人を揶揄する表現 (B.T.) (2) 他人の境涯を見て羨みのあまり自分に害の及ぶこと
をする愚かしい行為のたとえ

(N) (1) シンドゥールとはヒンドゥー教徒女性の幸福の象徴である夫が存命であることを示す頭
髪分け際に塗られる朱のこと. (2) अनकर सेंदुर देख कपार फोरे (Fa.2.) は कपार फोरेに激しく嘆く
ことと実際に血を流して赤く染めるの二つの意をかけているとする

[118] अनके धन पर चोर राजा (Fa., B.T.)

(A) 他人の財貨を盗む身が殿様を名乗る (B) (1) 他人の財貨をかすめとることのたとえ (B.T.)
(2) 他人の財貨を我が物顔に費消するたとえ

(N) (1) =अनके धन लक्ष्मीनारायण. (B.T.) (2) 上記の (B) の (2) の意に用いられる表現に (Kah.)
には次の諺がある. अनका धन पर बिकरम राजा (शाहा° 1, 2) 財産は他人のものなのにヴィクラマ
大王を名乗る

[119] अनखाती बहुरिया पसेरी भर का कौर (B.T.)

(A) 少食のはずの嫁だが食べる一口分は5セール(キロ)の分量がある (B) 大食漢を揶揄する
言葉

(N) (1) अनखाती बहुरिया के तिलरासी कलेवा (Kah., चंपा° 2) 食が細い嫁が朝飯は3度食べる (2) (Kah.)
には偽善を揶揄する言葉とあるので上記の (B) とは用法が異なることになる

[120] अनचीन्ह काठ की धुनी भी नहीं लगाते (B.T.)

(A) 正体の知れない木は柱には用いないものだ (B) (1) 見知らぬ物を用いるのはよくない (2) 人
柄を知らない人を信用してはならない

(N) If you trust before you try you may repent before you die (B.T., D.E.P.) 【人と契らばよく
見て語れ】 (D.E.P.)

[121] अनजान किसके सामने रोए ? (B.T.)

(A) 見知らぬ人の前で泣けようか (泣き言を言えようか) (B) 知己のいないところは暮らしにく
いものだ

[122] अनजान की मौत है (B.T.)

(A) 知人のいない人にはとても辛いことだ (B) よそ者には辛いことが重なるものだ

[123] अनदेखा चोर बाप बराबर (Fa., B.T.)

(A) 現場を取り押さえたのではないのであれば、盗人は父親同然 (尊敬すべきもの) (B) 証拠も
なく人を疑ってはならない

(N) (1) The greatest sin is being found out (Fa.1) (A) 最大の罪科は (現場を) 見つかること (2) Let
a hundred guilty men be acquitted if one innocent person is to be punished (B.T.) (A) もしも一人
の無実の人が処罰されるのであれば百人の罪人を赦免せよ (3) अनदेखे राजा चोर (K.L.) (B) 目撃した
ものでさえ間違えることがあるのだから目撃したのでなければ殿様も泥棒呼ばわりされることがあ
るものだ

[124] अनपढ़ कमाय और जूता खाय (B.T.)

(A) 無学な人は金を稼いでも足蹴にされる (B) 教育がないと大変辛い人生を送ることになる

[125] अनपढ़ घोड़े चढ़ते हैं, पढ़े भीख माँगते हैं(B.T.)

(A) 無学な人が馬に乗り学ある人が物乞いをする (B) (1) 学者はたいてい貧しいものであり無学な人が金回りがよいものだ (2) 運勢は如何ともなしがたいものだ

(N) अणभणियां घोड़े चढ़े, भणिया मांगे भीख(Raj.) (B) (a) 教育を受けることだけで金持ちになるわけではない (b) 教育を受けなくても豊かになれるものだ (c) 豊かさで教育の有無が逆なのは運命の皮肉なところだ (d) 無学な人の教育ある人に対する輕蔑の気持ちを表す言葉

[126] अनपढ़या जाट पढ़या बराबर, पढ़या जाट खुदा बराबर(B.T.)

(A) ジャートは無学であろうと学者同然, 学あるジャートは神様同然 (B) ジャートは全く抜けないカーस्टだ

(N) (1) これは特定カーस्टの一般的な印象や評価を述べるインド社会の諺の代表例である。Herbert Risley はその著作 The People of India において 'Caste in Proverbs and Popular Sayings' という一章を設けており付録において個々のカーस्ट (ジャーティ) について具体的な記述をしている。(2) ジャート (जाट) は主にハリヤーナー州, ラージャスターン州, パンジャブ州, ウッタールプラदेश州などインド北西部及びパキスタンのパンジャブ州を中心に居住する有力なカーस्ट (ジャーティ) である。(3) अणभणियौ जाट भणिया बिरौबर, भणियौ जाट खुदा बिरौबर(Raj.) (B) これはジャートの機転のよさについて述べるばかりでなく何事にも器用な人の誉め言葉としても用いられる

[127] अनमन बियाह कनपटी में सिंदूर (B.T.)

(A) 心からのものではない結婚式では (挙式の儀礼に新郎が新婦の髪に分け際につけることになっている) シンドウール (朱) はこめかみについてしまう (B) ものごとは心を込めずにすれぱしくじるものだ

(N) (1) अनमनो बिहा कोंकड़ी सिन्दूर (Kah., मुँ० 1) (A) 気の進まない結婚をすればシンドウールは頭の後ろにつく (B) 心のこもらない仕事の結果はよくないものだ (2) =बेमन क बियाह कनपटी में सेनुर(B.T., भोजपुरी).

[128] अनमाँगे मोती मिले माँगे मिले न भीख (B.T.)

(A) 乞わなければ真珠の玉も手に入るが乞えば施しすら手には入らぬものだ (B) 乞えば欲しい物も手に入らぬことになるものだ (人に物を乞うてはならない)

(N)(1) =बिन माँगे मोती मिले, और माँगी मिले न भीक(Fa.1). (2) बिन माँगे मिले सो दूध, और माँगे मिले सो पानी(Fa.) (A) 求めなければ牛乳, 求めれば水 (B) 求めずして手に入るものが一番よい物 (Fa.2)

[129] अनमिले की कुशल है(Fa.; B.T.)

(A) 会わぬが幸せ (B)(1) 不埒な奴とは顔を合わせぬがよい (B.T.) (2) 一人過ごすのがよいものだ (B.T.) (3) 気の合わない者同士が出くわした時に言う言葉 (4) 盗賊や追い剥ぎなどの出る危険な場所を無事に越えた際に言う言葉 (Fa.1, B.T.) (5) 逢いたくない人について言う (Fa.2)

[130] अनरूच बहू के कड़वे बोल(B.T.)

(A) 嫌いな嫁の声は耳障りなものだ (B) (1) 嫌いな人の何もかもが気に食わぬものだ (2) 自分の嫌いなものの欠陥ばかり見ようとする人を揶揄する言葉 (3) 嫉妬心から友だちなどの欠点をあげつらう人を揶揄する言葉

[131] अनहोत में औलाद(Fa., B.T.)

(A) 貧しい暮らしでの子供 (Fa.1) (B) (1) 【貧乏人の子沢山】 (2) 貧しい中に子の多いことは辛いことだ (Fa.2, B.T.)

[132] अनहोनी होती नहीं, होती होवनहार (B.T.) अनहोनी होती नहीं, होनी होवनहार (Fa.)

(A) 生じないことになっていることは生じないものだ。生じるべきことはどのようにしても生じるものだ (B) 運命は避けられないものだ

(N) अणहोणी होणी नहि, होणी व्हे सो होय (अणहोणी होवे नहि, होणी हो सो होय) (Raj.) (A) 生起することになっていることは避けようがなく生起するものだ (B) (a) 運命は避けることができないものだ (b) 運命を避けようとするのは無駄なことだ (c) 運命を悩むのは愚かしいことだ

[133] अनाज खाओ पर बीज बचाओ(B.T.)

(A) 食用の穀物は食べよ種子用のものは別に取って置け (B) 物は本来の用法や目的に沿って用いるべきだ

[134] अनाज जलाके भाड़ा खातिर मार करे (B.T.)

(A) (煎るために客から預かった) 穀物を焦がしてしまった上に料金のことで喧嘩腰 (になるバルブンジャー) (B) 自分の非を認めなかったり失敗を棚に上げて自分の主張のみをするような横柄極まりない振る舞いを非難する言葉

(N) バルブンジャーは加工賃を受け取って顧客から米や豆などの雑穀を預かり煎って提供するジャーティ

[135] अनाज बिखरे मुर्गी खुश(B.T.)

(A) 穀物が (しくじりから) 地面に散らばるとニワトリが喜ぶ (B) 一人の人の損害が他人の利益の元になるとえ

[136] अनाड़ी का सोना बारह बानी(Fa.)

(A) 間拔けの金はいつも純金 (Fa.) (B) 自分が売る品物を過大に評価するとえ

(N) All his geese are swans (Fa.1) 自分のものなら鵞鳥も白鳥【わが仏尊し】(D.E.P.)

[137] अनाड़ी का सौदा बाराबाट(B.T.) अनाड़ी का सौदा बाराबाट(Fa.)

(A) のろまとの取引はごたごた (B) (1) のろまとの取引はごたごたするものだ (Fa.1) (2) 愚か者は何事もうまく処理できないものだ (Fa.2) (3) 愚か者は何一つ買い物ができない、いつもだまされてばかりだ

[138] अनी चुकी, धार टूटी(B.T.)

(A) (水は) 針先ほどの小さな穴があげば吹き出す (B) 何事も細心の注意を払ってなすべきである

(N) अणी चुकी'र धार मारी (Raj.) (A) (水は) 針先ほどの小さなしくじりからも吹き出すものだ (B) (a) 何事をなすにも注意深くしなければならぬ (b) ほんの些細なしくじりから大事に至ることがあるものだ

[139] अनुचित छमब जानि लरिकाई(B.T.)

(A) 幼さと思い悪さを許せ (B) 大人は子供のいたずらは許してやらなければいけないものだ

(N) これはトゥルシーダースの『ラームチャリトマーナス』 तुलसीदास 'रामचरितमानस' の句 (2-46-3) の一部である

[140] अनोखे घर कटोरी(Fa.) अनोखी के हाथ लगी कटोरी, पानी पी-पी मरी पदोड़ी(B.T., Fa.2)

(A) (1) 変わり者の家にやってきたカトリー (金属製の鉢) (Fa.) (2) アノークーという卑しい女がカトリーを手に入れそれで水を飲み過ぎて死んでしまった (B.T.) (B) (1) 品性賤しい女が今まで所有していなかったものを手に入れ自慢のあまり用いすぎて害を被るたとえ (B.T., Fa.1) (2) 卑しい人が今までに見たことのなかったつまらぬ物を手に入れやたらと自慢するたとえ (Fa. 2)

(N) (1) अनोखे हाथ कटोरी आयी, पाणी पी-पी आफरियो(Raj.) (A) 変わり者がカトリーを手に入れた。水を飲み飲み腹が膨れ上がった (B) (a) 全くつまらぬことで得意がるたとえ (b) 取るに足らぬことをやたらとひけらかすたとえ (2) (Fa.) では अनोखे घर कटोरी と अनोखी के हाथ लगी कटोरी,

पानी पी-पी मरी पदोड़ीとは別々に扱われている (3) (Fa.1) 及び (B.T.) には英語の次の諺が注記されている. 'Set a beggar on horseback and he will ride to the devil' 「貧乏人がにわかに金持ちになると傲慢になるものだ」 (Fa., B.T.)

[141] अनोखे घर का बोकरा चूनी खाय न चोंकरा (B.T.)

(A) 変わり者の家のヤギは小麦粉もふすまも食べない (B) 偏食する人をたしなめたり揶揄する言葉

(N) = अनोखे घर का नौकर चूनी खाय न चोंकरा (B.T.).

[142] अन्न को कोई न पूछे, पकानेवाली को सभी पूछे (B.T.)

(A) (料理がおいしければ) 料理 (の材料) ではなく料理した人がほめられる (B) (1) 料理は料理人の腕次第 (2) 徳あれば万人に称えられる

[143] अन्न खाय मन भर, घी खाय दम भर (B.T.)

(A) 穀物は一山分食べ、ギーは一口分食べ (B) 穀物はたくさん食べてもよいが、ギーは (健康のためには) 適量しか食べてはならない

(N) (1) ギーはヨーグルトから取り出した脂肪分を加熱処理したバターの一種で美味でインド料理には不可欠なものであるが、過度な摂取は健康を損なう (2) अन्न मुक्ता घी जुक्ता (Raj.) (A) 穀物は腹一杯食べるギーは工夫して食べる (B) (a) ギーは適量を食べる (b) 何事にも同じ尺度は用いられないものだ

[144] अन्न तारे, अन्न मारे (B.T.)

(A) 食べ物は命を救いもするが命を奪いもする (B) 食べ物は命の基であり毒の種でもある. 適切な量を適切に調理して食すべきである

[145] अन्न धन अनेक धन, सोना-रूपा कतेक धन (B.T.) अन धन अनेक धन, सोना-रूपा कतेक धन ? (Fa.1) अन्न धन अनेक धन, सोना-रूपा कितेक धन (Fa.2)

(A) 穀物の値には限りなく金銀の値には限りあり (B) (1) 穀物は金銀にもまさる富 (B.T.) (2) 穀物という富は真の富, 金銀という富は偽の富 (Fa.1.) (3) 金銀は穀物の真価には及びもつかない (Fa.2)

(N) अन्न धन अनेक धन, सोना रूपा कतेक धन (Kah., शाहा° 2) (B) 金銀は穀物の価値には及びもつかない

[146] अन्न न मिले तो सतुआ खाय, आदमी न मिले तो अहीर से बतलाय (B.T.)

(A) 他にまともな食べ物がないときにははったい粉を食え話し相手がいないときにはアヒールと語れ (B) 我慢しなければならないようなくでもないもののたとえ

(N) (1) アヒール (अहीर) とは従来生業として牛や水牛を飼育してきたジャーティの人 (2) 諺としての用法ははったい粉に重点がある

[147] अन्न न वस्त्र मुफ्त का भतार (B.T.)

(A) 食べ物も着るものも与えずにただで亭主面 (B) 義務も果たさずに自分の権利だけを主張する人を評する言葉

(N) अन्न न कपड़ा सेतीहें के भतरा (Kah., शाहा° 2) (B) 人にはなにも与えずに自分の要求だけをする人を評する言葉

[148] अचूख घर में नाती भतार (B.T., Fa.)

(A) 外孫が主になる奇妙な家 (B) (1) 本来, 主人, もしくは, 中心となるべき人が軽んじられる家庭や国のことをたとえる言葉 (B.T.) (2) 目上の人が軽んじられ目下の人が幅を利かせるたとえ (Fa.2)

(N) (1)(Fa.) にはこれは E. (Eastern), すなわち, 東部ヒンディー語地域に行われるものと記述されている。(2) Be civil to a cock on his own dunghill (Fa.1) よその家では礼儀正しく振る舞え, もしくは, 他人の縄張りでは大きな面をするな

[149] अपंग पराया हँसाए, अपना रुलाए (B.T.)

(A) よその子の障害を笑いわが子の障害には泣く (B) 人の身勝手さのたとえ

[150] अपकार के बदले उपकार (B.T.)

(A) 迷惑のお返しに親切 (B) 悪意ある行為には善意を返すべし

(N) (1) नेकी के फल बदी (Kah., शाहा° 2) (A) 善行の果が悪意ある行為 (B) 行為を寄せられた人が悪意を返すたとえ【恩を仇で返す】(2)(Raj.) にもこれと全く同じ表現が見られる。‘नेकी रौ फळ बदी’ しかし悪意に対し「善意を返すべし」とする例はいずれにも見られない

[151] अपना अपना कमाना, अपना अपना खाना (Fa.1, B.T.) अपना अपना खाना, अपना अपना कमाना (Fa.2)

(A) 各自がそれぞれに稼ぎ自分の稼ぎで食べる (B) (1) (大) 家族の成員がばらばらになりまとまりがなくなるたとえ (B.T.) (2) 各自の稼ぎを各自の費用に用いる (Fa.1) (3) 各自が他人に頼らず自立することや自分が別個になりわいを立てるたとえ

(N) (1) = अपना अपना घोलो, अपना अपना पीओ (B.T.). (2) ただし, अपना अपना घोलो, अपना अपना पीओ の解釈は次の通り。「自分の飲み物は自分で用意しろ」(Fa.1) 「自分のことは自分でなすべし」, もしくは, 「自分で招いた災難は自分で対処せよ」(Fa.2) (3) अपन-अपन कमाय, अपन-अपन खाय (Chatt.) (B) 大家族の中で仕事を分担し収入を分かち合うたとえ

[152] अपना अपना दुखड़ा सब रोते हैं (Fa., B.T.)

(A) 人はみな自分の辛い境遇を嘆くものだ (B) (1) 人はみな自分のことしか考えないものだ. 自分の辛さを嘆いても他人の辛さには耳を傾けないものだ (B.T.) (2) 人はみな自分の辛い身の上を嘆き悲しむ (Fa.1) (3) 人はなにかしら自分だけの悩みを抱えているものだ (Fa.2)

[153] अपना अपना, पराया पराया (B.T.) अपना अपना ही है, पराया पराया ही है (Fa.)

(A) 身内は身内, 他人は他人 (B) (1) 危急の際に頼りになるのは身内だけ (B.T.) (2) 身内が役立つところでは他人は役立たないものだ (Fa.2) (3) 自分のものは自分のもの, 他人のものは他人のもの (Fa.1)

(N) (Fa.1) はマタイ伝第 22 章 21 節の次の言葉を注記している。Render under Caesar the things that are Caesar's, and unto God the things that are God's 「カイザルの物はカイザルに, 神の物は神に納めよ」

[154] अपना-अपना लहनियाँ है (B.T.) अपना-अपना लहना है (Fa.1) अपना-अपना लहनिया (Fa.2)

(A) 人はそれぞれ天に定められたものを得る (B) (1) 人は運命の定めるところに従うもので万人の平等は有り得ないものだ. 得をする人もいれば損をする人もいる. (B.T.) (2) 人はだれしも自身自身の運命に支配され自分が享受することになっているものを享受する (Fa.)

(N) आप-आप रौ लेहणियो (Raj.) (A) 人それぞれが得るべきもの (B)(a) 他人から利益を受けたり協力を受けるたとえ (b) 人は運命に定められているものを手に入れるものだ (c) 二人の協同事業で大儲けしたときのたとえ

[155] अपना उल्लू कहीं नहीं गया (B.T., Fa.)

(A) フクロウ (愚か者) はどこへも行かず元のまま (B) (1) 欲張りを揶揄する言葉 (B.T.) (2) 負けることやしくじることのない人が皆が今度ばかりは助かるまいと思うような苦境をくぐり抜けた際に発する言葉 (B.T.) (3) 自分の目的を果たす. だれかを鴨にするのには変わりはない (Fa.2) (4) 私にはまだだます相手がいる (Fa.1)

(N) (1) 次の諺話がある。「ある殿様が訪れた博労に十万の金を与えてアラブの馬を買い求めて来るように命じた。その都の歴史家が、殿様は大馬鹿だと書いたのを知った殿様がその歴史家を呼び寄せてそのわけを尋ねた。歴史家はどこの馬の骨とも知れぬ男に十万の金を手渡すことが利口なことでありましょうかと問い返した。殿様はしからば男が馬を買ってきたなら何とする、と問いかけた。歴史家はその時には殿様の名の代わりにその男の名を書きます、と答えた。」(B.T.)

[156] अपना काम आप भला(B.T.)

(A) 自分の仕事は自分でするがよい (B) 何事をするにも他人任せはいけないものだ

[157] अपना कायदा अपने हाथ(B.T.)

(A) 自分のきまりは自分の手で (守るもの) (B) 自分のきまりは自分で守るべし

(N) Do as you desire to be done by others (B.T.) Do as you would be done by (E.E.P., D.E.P.)

【自分の望むところを人に施せ】

[158] अपना कुत्ता बरजो हम भीख से बाज़ आए(Fa., B.T.)

(A) 犬を繋いでおくれ。物乞いはもうこりごりだ (B) 助けてもらいに行っただのが逆に危険な目に遭うことのたとえ

(N) (1) = अपना कुत्ता बांधो हम भीख से बाज़ आए(B.T.) (2) 諺話あり。頼みごとで訪ねた家の犬にかみつかれそうになった人の言葉。

[159] अपना के जुरे ना, अनका के दानी(Fa.) अपना के जुरे ना दूसरे को दानी(B.T.)

(A) 自分のものが揃っていないのに他人に対しては気前がよい (B) (1) 自分のものはなににもないのに他人に対しては気前がよいとえ (Fa.1) (2) 自分は食べるものもないのに他人に施しをしようとするたとえ (Fa.2) (3) 金も持たぬくせに気前のよさを見せようとしたり大きな口をたたく人を揶揄する言葉 (B.T.)

(N) (1)(Fa.) の原文はボージュブリー語(भोजपुरी)のものとされている。(Fa.1) (2)(Kah.) はこれを利用して意味は虚栄を張るのを揶揄するものとする

[160] अपना कोढ़ बढ़ता जाए, औरों को दवा बताए (B.T.)

(A) 自分の癩病の症状が進行するのに他人に薬を教える (B) (1) 他人に勧めることを自分では利用しようとししない人のたとえ (2) 自らのことは心配せずに他人の心配ばかりする人のたとえ

[161] अपना खट्टा भी मीठा(B.T.)

(A) たとえ酸っぱくても自分のものならうまい (B) たとえ劣っていてもわが物はよいものだ

[162] अपना खाओ, पड़ोसी से डरो(B.T.)

(A) 自分の稼ぎで食べ隣人を恐れよ (B) 隣人とは仲良く暮らすことが大切だ

[163] अपना खा मन भर, दूसरों का न कन भर (B.T.)

(A) 自分のものは山ほど食べ、他人のものはかけらほども食うな (B) 自分の持ち物は存分に用いても他人の持ち物はいささかも用いるな

[164] अपना खिलावे और निहोरा करके (B.T.)

(A) 自分のものを食べさせるのにお願いまでして (B) 親切を受ける人が恩着せがましいことのたとえ

[165] अपना गुड़ चुराकर खाना, दूसरे का लड़का न रुलाना(B.T.)

(A) 自分が黒砂糖を食べるときにはこっそり食べろ。よその子が(欲しがって)泣かぬように (B) 事を為す時には世間に触れ回ってするものではない

(N) अपन गुर चोरा के खायब अनकर लइका ना रोआएब (Kah., चंपा° 1) (A) 自分の黒砂糖はこっそり食べる。(見せびらかして) 他人の子供を泣かせはしない (B) 自分の持ち物は人に見つからないようにこっそり用いるべきだ

[166] अपना गुड़ सभी के लिए मिश्री(B.T.)

(A) 自分の黒砂糖は氷砂糖同然 (B) 自分のものはたとえ劣っていてもすぐれていると思うたとえ

[167] अपना गृह भोजन बराबर(B.T.) अपना गृ भोजन बराबर(Fa.1)

(A) 自分のものは汚物も食べ物同然 (B) (1) 人は自分の欠点も長所と思うものだ (Fa.1, 2; B.T.)
【わが糞は臭くなし】 (2) 自分の持ち物はどれほど劣つていようと立派に思えるものだ (Fa.2)

[168] अपना घर दूर से सूझता है(Fa.) अपना घर दूर से ही सूझता है(B.T.)

(A) 自分の家は遠方からでもわかるものだ (B)(1) 自分の利益になるものは間違いなく見えるものだ (Fa.1, B.T.) (2) 自分の家を忘れる人はいないものだ (B.T.) (3) その時になれば自分の家が思い出されるものだ (Fa.2)

(N) आपरौ घर सूझै सौ कोसां(Raj.) (A) 自分の家は 200 マイル先からでもわかる (B)(a) 遠くに離れていても自分の家は忘れられないものだ (b) いずこにしようとも自分の家のことは気にかかるものだ

[169] अपना घर हंग भर, दूसरे का घर धूक का डर(Fa., B.T.)

(A) わが家は汚物にまみれようとも他人の家では唾さえ吐いてはならぬ (B) (1) 自分の家は汚くしてもよいが他人の家では唾を吐いてもいけない (Fa.1) (2) 自分の家ではどのように振る舞おうとも他人の家では注意深く振る舞わねばならない (Fa.2) (3) 自分のものはどのように扱おうとも他人のものは大切に扱うべきだ (B.T., Fa.2)

(N) (1) = अपना घर हंग भर, पराया घर धूकने का डर(B.T.) (2) आपरौ घर हंग-हंग भर, दूजां रौ घर धूकण रौ ई डर(Raj.) (B)(1) 自分の持ち物はどのように扱おうとも構わないが, 他人の持ち物には手を触れてもいけない. (2) 自分の持ち物は気ままに取り扱ってもよいが, 他人の持ち物は絶対にそうしてはいけない. (3) 人は身内や仲間の間では気を許すが, 他人の間では緊張するものだ (4) अपना घर, हंग भर। दूसरे का घर, धूकने का डर(Kaur.) (B) 自分の居場所は他人の家とは違いなにをしようとも気楽でよいものだ

[170] अपना चोकर दूसरा खाय, अपने खरीदें चोकर (B.T.)

(A) 自分の家の魅 (ふすま) は他人が用い自分が用いる分は他人のものを買う (B) 愚かしい行為やだらしのないことのたとえ

(N) अपन चोकर आन खाय चोकर ला बेसाह जाय(Kah., मुज° 2) (B) 自分のものは他人が用い, 自分が用いるには他人のものを買わなくてはならないことのたとえ

[171] अपना छप्पर तो टपकता ही है, दूसरे का भी टपकाना है(B.T.)

(A) わが家が雨漏りするならば他人の家も雨漏りさせずにはおかない (B) 他人も自分と同じように困ることを願ったり困らせることのたとえ

(N) अपन चुआइले अनकर छपर चुआवे के बा(Kah., चंपा° 1) (A) 自分の家が雨漏りしていれば他人の家も雨漏りさせなくてはならない (B) 自分に不利益なことをすると共に他人にも害を及ぼそうとする人のたとえ

[172] अपना जीवन जीवन दूसरे का जीवन तीन (B.T.)

(A) 自分の人生は人生, 他人の人生は野菜の煮付け (B) 身勝手な人のたとえ

(N) अपन जीवन जीवन अनकर जीवन तीन(Kah., मुज° 2) (B) 自分の利益のためには他人のことを全く意に介さない人のたとえ

[173] अपना डाँटा भीतर भागे, बिगाना डाँटा बाहर भागे(B.T.)

(A) 家の子供は叱られると家の中に逃げ込むが、よその子は家の外に逃げる (B) (1) 困った時にだけわが家を思い出す人への嫌み (2) 困った時にこそ身内か否かがわかるものだ

[174] अपना देंदर ना निहारे दूसरे की फुल्ली निहारे(B.T.)

(A) おのれの目の盛り上がった傷跡は見ず他人の白そこひを見つめる (B) 自分の非は棚上げにして他人の小さな欠点をあげつらうことのたとえ

(N) (1) अपन देटर निहारबे नहि करब दोसर के फुल्ला निहारब(Kah., मुज° 2) अपन फुल्ली ना निहारे के दोसरा के देंदर निहारे के(Kah., चंपा° 1) (B) 自分自身の大きな欠陥には気がつかず他人のほんの小さな欠陥をあげつらう人を揶揄する言葉【自分のぼんのくぼは見えず】(2) आपरी फूली बिचै दूजां री छिम भूंडी लखावै(Raj.) (B) 人はおのれの弱点を見ず他人の小さな欠点を見つけるものだ

[175] अपना तन पहले ढाँको, दूसरे को नंगा पीछे कहना(B.T.)

(A) まずは自分の体を覆ってから他人を裸と言え (B) 【人の振り見てわが振り直せ】

[176] अपना तोशा अपना भरोसा(Fa.1) अपना तोसा अपना भरोसा(B.T., Fa.2)

(A) 自分の手元にあるかいい (乾飯・携帯食) が自分の頼り (B) (1) 自分に必要なものは常に手元に用意しておかなくてはならない (Fa.2) (2) 自分を支えるのは自分だけ (Fa.1) (3) 自分の持っている力や財力だけが頼りになるものだ (B.T.)

(N) Everyone must stand on one's own legs. (B.T.)

[177] अपना दाम खोटा तो परखैया का क्या दोष(B.T.) अपना ही पैसा खोटा तो परखनेवाले का क्या दोष(Fa.)

(A) 自分の持っているのが鏝銭ならば鑑定人に咎はない (B)(1) 自分の欠点を他人のせいにしてはならない (2) 自分の息子や身内が世間から後ろ指を指された時に言う諦めの言葉 (非難されても当然だ。仕方のないことだ)

[178] अपना दिल हाथ में नहीं, तो दूसरे का क्या होगा(B.T.)

(A) 自分の心もままならないのに他人の心をどうすることができようか (B) 他人のことをとやかく言う前にまずは自分の心を制御せよ

[179] अपना दीजे दुश्मन कीजे(B.T., Fa.)

(A) (1) 自分のものを貸して敵を作りなさい (2) 人に貸すことは仇をつくること (B) 人に金を貸すものではない

(N) (1) आपन दे के दुस्मन के बेसाहे (Kah., शाहा° 2) (A) 自分のものを貸して仇をつくる人があろうか (B) 人に金を貸すことは人の恨みを買うことだ (2) これは次のイディオムから転じたものである。 आपन दे के दुस्मन बेसाहल

[180] अपना पूत, पराया दटींगड़ (Fa.1) अपना पूत पराया दटींगर(Fa.2) अपना पूत पराया धतिंगड़(B.T.)

(A) わが子は (孝行) 息子, 他人の子は出来そこない (B) (1) だれしもわが子は天才と考える (Fa.1) (2) 自分のものはよくて他人のものはよくないと考えるたとえ【自画自賛】 (Fa.2, B.T.)

(N) आपरौ पूत सपुत अर परायौ टींगर(Raj.) (B) 自分の家族だけを高く評価し他人をものの数に数えないたとえ

[181] अपना पूत लाते दूसरे का भाते (B.T.)

(A) わが子には足蹴, 他人の子には飯 (1) わが子にはたとえ足蹴にされてもよいが他人の子は飯を食わせてくれようがよいではないものだ (2) わが子はたとえ足蹴にしようがわが子に変わりはないが, たとえ飯を食わせようと他人の子はわが子にはならない。身内は身内他人は他人

(N) अपन पूत लाते अनकर पूत भाते(Kah., चम्पा° 1) (B) わが子はたとえ足蹴にしようともわが子のままであろうが, 他人の子は飯を食べさせようとわが子にはならない。他人は他人, 身内は身内

[182] अपना पेट तो कुत्ता भी पालता है (B.T.)

(A) 犬でさえ自分の腹は自分で満たす (B) 自分のことを自分でするのは犬にでもできる。他人のために心を砕き世話をするのが真の人間だ

(N) (1) =अपना पेट तो कुत्ता बिल्ली भी भर लेते हैं(B.T.) (2) आपन पेट तऽ कुकुरो भरे(Kah., शाह^०) (B) (a) 他人のために思うのが本当の人間である。 (3) आपरौ पेट तौ कुत्तौ ई भरे(Raj.) (B) (a) 自分の腹を満たすただけに生きる人は畜生と同じだ。人はなにか大きな目的のために生きるべきだ。 (b) 自分の暮らしを守るだけの人生はつまらないものだ。

[183] अपना पेट हाऊ, मैं न देहौं काहू (B.T.)

(A) わが腹は化け物、だれにも(何も)やらぬ (B) (1) 自分の腹が満ち足りていると他人のことは気にかけないものだ。裕福な人は他人のことは心配しないものだ。 (2) 他人のことは意に介さず何れもか独り占めにしようとしたりしようと思うことのたとえ

[184] अपना फटा सियें नहीं, दूसरों के में पैर दें(B.T.)

(A) 自分の(着物の)破れを繕いもせず他人の(着物の)破れに足を突っ込む (B) 自分の悪い癖を他人にまで移そうとすることのたとえ

[185] अपना बिसमिल्ला, दूसरे का नऊज़ बिल्ला (Fa., B.T.)

(A) 自分のことはビスミッター、他人のことはナウーズ・ビッター (B) 自分の幸せは神に祈り他人のことは御免被る

(N) (1)(Fa.) にはこれはイスラム教徒の間で行われるとある。 (2) ビスミッターもしくはバスマラとはイスラム教徒が宗教儀礼や日常生活での行為の最初に唱える神への祈りの文句で「慈愛あまねく慈悲深いアッラーの御名によって」の意。 ナウーズ・ビッターとは「アッラーの御加護を願う」の意で救いを求める祈りの言葉

[186] अपना भला बोले ना, बुरा तके ना (B.T.)

(A) 人に(無責任な)甘い言葉はかけず人の不幸は願わず (B) (1) 厳しい言葉をかける人が相手に悪意を抱いているわけではない (2) 好意を寄せる人は相手に厳しい批評をするものだ (3) たとえ相手に厳しい言葉をかけようとも悪意を抱いてはいけない

[187] अपना मकान कोट समान(B.T.)

(A) わが家は城の如し (B) わがものが良いものだ

(N) (B.T.) には Everyman's house is his castle が参照されているが、これは An Englishman's house is his castle 「イギリス人は他人が家庭のプライバシーを覗くのを許さない」(D.E.P.) の意で用いているのであれば上記の (B) とは異なることになる。

[188] अपना मरन जगत की हँसी (Fa., B.T.)

(A) 軽率さや油断からしくじれば世間の物笑いとなる (B) (1) 不注意や油断をしてはいけない (B.T.) (2) 世間は人の苦しみを嘲笑するものだ (B.T.) 苦境にある人を笑いものにするのが世間の習わしだ (Fa.2) (3) 思いやりのなさのたとえ (Fa.1)

(N) आपरौ मरण, जग हँसी (Raj.) (B) (a) 物見高い世間は他人の不幸を笑うものだ。 (b) 世間は他人の不幸に心からの同情を示すことはない。 (c) 世間は人の不幸に同情を示す代わりに嘲笑するものだから苦境に陥らぬようにしなくてはならない。 (d) 【火傷に塩(傷口に塩)】が世間の習いだ。

[189] अपना मारे भी तो अपना ही है(B.T.)

(A) 身内はたとえ叩いても身内のまま (B) 可愛がって大事にしても他人は他人

[190] अपना मारेगा तो छांव में तो डालेगा(B.T.)

(A) 私の夫は (たとえ私を) 叩くことがあっても (死なないように) 日陰には置いてくれるだろう (B) どうあろうとも他人とは違い身内には身内の心遣いがあるものだ

(N)(1) आपरौ मारै, छीयां राळे (Raj.) (A) うちの人とはたとえ叩いても叩いた後に日陰には入れてくれるだろう (B) (a) 身内の人とはたとえ暴力を振るった後でもいつか愛情が湧き出るものだ (b) 損害を受けようとも身内から受けたものであれば諦めがつくものだ (c) 残酷な仕打ちも身内の者にはなにかしら愛情がこもっているものだ (d) 人の生死にかかわるような甚だ危険な感情を愛情とする自己欺瞞のたとえ (2) अपना मारै छांह मेरे (Kaur.) (B)(a) 身内や知己の厳しい態度には同情の気持ちがあるものだ。処罰を受けても嬉しく感じるものだ

[191] अपना माल अपनी छाती तले (Fa., B.T.)

(A) 自分の持ち物は胸の下に (B) (1) 自分の持ち物は自分が身近に管理するのがよい (Fa.2, B.T.) (2) 人を信用せず自分の持ち物を手放さないけちな人のたとえ

[192] अपना मीठ, अनकर तीत (Fa.1, E.) अपना मीठा दूसरे का तीता (B.T.)

(A) 自分のものは甘く他人のものは苦い (B) 人は自分のものを一番良いものとするもの。自分の持ち物を過大評価するたとえ

(N) (1) One's own geese are always swans (Fa.1) All his geese are swans (B.T., D.E.P.) 「自分の鵞鳥は全て白鳥に見える」【わが仏尊し】 (2) आपरौ मीठै, खलकां रौ खारौ (Raj.) (A) 自分のものは甘く、他人のものは塩辛い (B) (a) 自分のものは良いものだと思います (b) 生来人は自分のものや自分に関わりのあるものへの執着が強いものだ (c) 他人についての判断をする際に人は分別を失うものだ (d) 人は自分のものを自慢したがるものだ (e) とかく女性は自分のものが良いことよりも他人のものが劣っているのが好きだ

[193] अपना रोग अपने हाथ से नहीं जाता (B.T.)

(A) 病は自分の手では癒えないものだ (B) 治療は自分の力ではできないものだ

[194] अपना लाल गँवाय के दर-दर माँगे भीख (B.T.) अपना लाल गँवाय के दर-दर माँगे भीख (Fa.)

(A) 自分のルビー (もしくは愛し子) を失って他人の戸口で物乞いをする (B) (1) 浪費をして一文無しになると (B.T., Fa.) (2) 愚かしさから財を失い貧しくなるたとえ (B.T.) (3) 一人息子を持って物乞いをするような境遇に陥ると (B.T., Fa.)

(N) (1) अपना रतन गमाके घर-घर मांगी भीक (Kaur.) (A) 自分の宝物を無駄にして物乞いをする (B) (a) 先見の明の無さのたとえ (b) 浪費のたとえ (2) अपना लाल गँवाय के दर-दर माँगे भीख (Kah., पद. 2) (B) 自分の宝物を無駄にして物乞いをする人を揶揄する言葉

[195] अपना वही जो अपने काम आवे (Fa.1) अपना वही जो काम आवे (Fa.2) अपना वही जो आवे काम (B.T.)

(A) 大切な時に役立つ人が自分の身内 (B) 万一の時に役立つ人が真の身内

(N) (1) अपना वही जो वक्त पर काम आवे (B.T.) (2) आपन ऊहे जे मोका पर काम आवे (Kah., शाहा. 2) (B) いざという時に役立つものが自分のもの

[196] अपना सत्तू न दूसरे का दूध (B.T.)

(A) 他人にもらった牛乳よりも自分のほったい粉のほうがよいものだ (B) たとえ劣っていても他人のものより自分のもののほうがよいものだ

[197] अपना हाथ खुद नहीं काटा जाता (B.T.)

(A) 自分の手は自分の手で切り落とせないものだ (B) 人はだれしも故意に自分を害することはしないものだ

[198] अपना हाथ जगन्नाथ (B.T., Fa.)

(A) 自分の手はジャガンナート (ヴィシュヌ神) のように神聖である (B) (1) 自分の手は最高神である。だれからも犯されることがない (Fa.1, B.T.) (2) 自分の手でなしたことはすべてよいものだ (Fa.2, B.T.) (3) だれからも干渉を受けることのない人のたとえ

(N) (1) आपरौ हाथ जगन्नाथ (Raj.) (B) (a) 自分の手でこしらえた料理は大変美味なものだ。 (b) 常に自分の手で仕事をするのがよい (c) 自ら仕事をする人はまるで世界の支配者である (d) 自分の手で仕事をする喜びは格別だ (2) Every tub must stand on its bottom (B.T., D.E.P.) 「人はだれしも自分の力で立たなくてはならない」 (3) = अपना हाथ महाकाज (B.T.) (4) (B.T.) はブンデリー語 बुंदेली の同義の諺として अपनी हाथ जगन्नाथ कौ भात 「自分の手でジャガンナート寺院で米飯のお下がり」を掲げているところから考えるとこれが本来の意味を示すものか。自分の手で直接にお下がりをしていただくことで功德が大きい (5) अपन हाँत जगन्नाथ (Ch.) 望みのものを欲しいだけ手に入れることのとえ अपन हाथ, जगन्नाथ (Chatt.) は「なにかを自分の手で取るのであれば欲しいだけ取るものだ。他人や神様に頼んだりお願いしたりすることではない。欲しいものが欲しいだけ手に入るとこの諺を用いる」とする (6) (Bhoj.) は 'आपन हाथ जगन्नाथ' 「自分の手 (自らなすこと) は神同然 (尊い)」としてこれをリグヴェーダの句 X-60-2 に由来するとする (7) なお, (Hrk.) は अपना हाथ जगन्नाथ に次の説明を加えている (B) (a) 機会を得れば逃さず自分の目的を果たすとえ (b) 自らの努力でこそ立派な名誉が得られるものだ (8) (A.V.) は अपन हाथ जगन्नाथ について, 他人の所有物を勝手に使用する人に対して, あるいは, 子供が同様のことをするのを親がたしなめる際にこの表現が用いられる, とする。更に, この諺は一部にジャガンナート寺院でのお下ごりの米飯との関わりがあるかも知れない, としている (9) (B.K.S.) によればこれと同義の語彙を用いた諺がベンガル語, オリヤー語, アッサム語, マラーティー語などに見られるが, いずれも「自分の手が神のように最も神聖なものであり尊いものである」から他人 (の手) に頼るべきではない。人は自立が大切だ, として [211] と同じとする

[199] अपना ही पेट सब देखते हैं (B.T.)

(A) 人はみな自分の腹だけを見るものだ (B) 人はみな自分の利益やなりわいのことしか考えないものだ

[200] अपना ही माल जाए, आप ही चोर कहलाय (Fa., B.T.)

(A) 自分の持ち物が失せたのに盗人呼ばわりされる (B) (1) 二重の打撃を受けるたとえ (B.T.) (2) 被害を受けた人自身にその責任があると世間から非難されるたとえ (Fa.2)

(N) (1) 警察が犯人を捕らえられずに盗難を訴えた本人を盗人扱いすることへの当てこすりの言葉 (Fa.1)

[201] अपनी अक़ल और पराई दौलत बड़ी मालूम होती है (Fa.) अपनी अक़ल और पराई दौलत बड़ी दिखती है (B.T.)

(A) 自分の知能と他人の財産とは豊かなものに見えるものだ (B) 人は自惚れ深く欲深いものだ

(N) (1) = अपनी अक़ल और पराई दौलत बहुत बड़ी मालूम होती है (B.T.) (2) आपरै रूप अर परायौ धन घणौ दीसे (Raj.) (A) 自分の姿と他人の財産は立派に見えるものだ

[202] अपनी अपनी खाल में सब मस्त हैं (B.T., Fa.)

(A) 人はそれぞれに自分の殻の中で得意顔をしている (B) 人はみなそれぞれの殻に収まって楽しみ満足しているものだ。他人のことはどうでもよいことだ

[203] अपनी अपनी चाल है (Fa.)

(A) 人にはそれぞれの歩みがある (B) (1) 人にはそれぞれの歩き方があるものだ (Fa.1) (2) どの土地にも独自の習わしや習慣があるものだ (Fa.2)

[204] अपनी अपनी चाल-दाल है (Fa.)

(A) 人には各自のやり方がある (B) (1) 人にはそれぞれの好みがあるものだ (Fa.1) (2) 人にはそれぞれのやり方や手法があるものだ (Fa.2)

[205] अपनी अपनी डफली अपना अपना राग (B.T., Fa.2)

(A) それぞれが自分のタンバリン, それぞれが別々のラーガ. それぞれがタンバリンをそれぞれの節回しで打つ (B) (1) だれも彼もが自分勝手に振る舞うことのたとえ (B.T.) (2) てんでばらばらでお互いに協力関係のないたとえ (B.T.)

(N) (1) अपनी अपनी तुनतुनी, अपना अपना राग (Fa.1, B.T.) (A) 各人がそれぞれのトゥントゥニーを鳴らし, 各人が自分勝手な節回し (トゥントゥニー तुनतुनी は 1m ほどの棹に弦と片面共鳴鼓のついた 1 弦の撥弦楽器) (2) आप-आपरी डफली, आप-आपरी राग (Raj.) (B) (a) 家族の中にまとまりのないたとえ (b) 家庭内に対立する考えや動きのあるたとえ (3) अपनी-अपनी तूमड़ी, अपने अपने राग (Kaur.) (B) 人はそれぞれに利益を異にしている. 人の感情の表現もそれぞれに異なるものだ (4) अपने अपने डफली अपने अपने राग (A.V.) (B) 集団内の協調性の欠如のたとえ (5) अपनी-अपनी तूमड़ी, अपना-अपना राग (Har.) (B) (a) 集団に団結がなく構成員のそれぞれが身勝手な振る舞いをするたとえ (b) तूमड़ी はディーワリー祭の灯明を点すための素焼きの器であり राग はその際に乙女たちが歌う歌のこと

[206] अपनी-अपनी तकदीर सब के साथ है (B.T.)

(A) 人はそれぞれの運命を生きるものだ. 他人に左右されるものではない (B) 自分のことは自分で処理するから君の口出しは不要だ

[207] अपनी अपनी बकरियों को दूध-दही (B.T.)

(A) 自分のものなら (草しか食べぬ) ヤギにまでミルクやヨーグルトを与える (B) 人は他人への配慮はろくにしないくせに身近な人や身内には過剰なほどの愛情を注ぐものだ

(N) म्हारी-म्हारी छाळियां नै दही-दूधौ पावूं, नाहरियौ आवे तौ सोटा री घमकावूं (Raj.) (A) 自分のヤギにはヨーグルトや牛乳を与え, オオカミが来たら棍棒を見舞う (B) (a) 近頃の政治家や権力者は自分のヤギやヒツジには牛乳やヨーグルトばかりかギーまでも惜しまずに食わせる (b) 専制者は自分の利益を図るために権力を行使する. 反対する者がいれば滅ぼすことを考えるものだ

[208] अपनी इज्जत अपने हाथ है (Fa.) अपनी इज्जत अपने हाथ (B.T.)

(A) 自分の名誉や尊厳は自分の手で守るものだ (B) (1) 下品な人に侮られないようにしなくてはいけない (Fa.2) (2) 人は自分自身の行動で尊敬もされるし軽蔑もされる (B.T.)

(N) (1) =अपनी पत अपने हाथ; अपनी प्रतिष्ठा अपने हाथ (B.T.) (2) =आपरी लाज आपरे हाथ (Raj.) (B) (a) 自分の名誉を保つ責任は自分にある (b) 正しいことを行うことで名誉は保たれる. 間違ったことをすれば名誉は損なわれる (3) आपन पगरी अपने हाथ (Kah., शाहा° 2) (A) 自分のターバンは自分の手の中にある (B) 自分の名誉は自分の手の中にあるものだ (4) आपरी पाग आपरे हाथै, पगां राळौ के राखौ माथै (Raj.) (A) 自分のターバンは自分の手の中にある. たとえ足元に投げ捨てようともたとえ頭に着けようとも (B) (a) 自分の尊厳を保つのも失うのも自分次第である (b) 人を辱めようとしないうえに自分も恥辱を受けることはない (c) 人は自分の名誉を保つためにはとても慎重に行動しなければならないものだ

[209] अपनी करनी अपना भोग (B.T.)

(A) 自分の行為の結果は自分が享受するものだ (B) 人は自分のした行為に応じた結果を受けるものだ

[210] अपनी करनी परधान, क्या हिंदू क्या मुसलमान (B.T.)

(A) ヒन्दウーであれムスリムであれ大切なのは自分の行い (B) 人はどの宗教の信徒であるかが問題ではなく何を行うかが大切だ

[211] अपनी करनी पार उतरनी (Fa., B.T.)

(A) 自分の行為が (自分を) 向こう岸 (彼岸) へ渡す (B) (1) 自分のことは自分するのがよい (B.T.) (2) 成功は自分の手でつかみ取るものだ (B.T.) (3) 解脱が得られるか否かは自分の行い次第

だ (B.T., Fa.1) (4) 自分の行為の結果は自分自身が受けなくてはならないものだ (Fa.2)

(N) (1) अपनी करणी पार उतारणी (Raj.) (B) (a) 自分の行いによってしか解脱は得られない (b) 自分の行いに従ってその報いはよくも悪くもなる (2) (Fa.1) の説明は次のものだけである。Your own deeds will bring you to salvation 「自分自身の行為が人を解脱に導く」 (3) अपन करनी पार उतरनी (Kah., मुज° 2; शाहा° 2) (B) 人は自分の善悪の行為の結果を得るものだ (4) → [198]

[212] अपनी काई दूसरे के सिर (B.T.)

(A) 自分の垢を他人 (の頭) になすりつける (B) 自分の弱みを他人のせいにするたとえ

(N) (1) (Kah.) は काई の意味を青粉 (アオコ、緑藻などの藻類) や苔などの意だとし、転じて弱点や欠陥を表すものと解している (2) अपन काई अनका के लगाई (Kah., चंपा° 1) (B) 自分の弱点を他人のせいにする

[213] अपनी खाट देखकर ही पाँव फैलाने चाहिये (B.T.)

(A) 自分の使う寝台の大きさを見て足を伸ばすべし (B) 自分の資力や収入に応じた出費をなすべきだ 【入るを量りて出づるを為す】

[214] अपनी गई का दुख नहीं, जेट की रही का है (B.T.)

(A) 自分の (雌牛) を失った悲しみよりも義兄が失わなかったことのほうが悲しい (B) 他人が不幸に遭わなかったことを悲しむようならくでなしのたとえ

(N) 諺話あり。ある女性の飼っていた雌牛が行方不明になった。義兄、すなわち、夫の兄の雌牛は残っていた。皆に問われた弟の嫁は上のように語ったと言う。

[215] अपनी गरज को गधा चराते हैं (Fa.) अपनी गरज को लोग गधा चराते हैं (B.T.)

(A) 自分のためならロバに餌をやる (自分のためになるならロバの世話さえする) (B) (1) 人は魂胆があれば恥ずべきこともしなければならぬものだ (Fa.2) 人は自分のためと思えばどんな恥ずべきことや滑稽なことさえするものだ

(N) (1) ロバはインドにおいても愚か者の代名詞であるが、天然痘の女神シータラーの乗り物とされてきた (2) 天然痘患者が衰弱して行く時にロバにヒヨコマメを煮たのを食べさせる風習がヒンドゥーの間にはある (Fa., B.T., Raj.) (3) आपरी गरज गधा चरावे (Raj.) (A) 計略や魂胆があればこそロバに餌を食べさせるものだ (B) (a) 自分の目的を達成するためには人はどのような卑しいことも試みようとするものだ (b) 私利私欲を図ることが最高の規範である

[216] अपनी गरज को गधे को बाप बनाते हैं (Fa.) अपनी गरज पर गधे को बाप कहना पड़ता है (B.T.)

(A) 目的のためにはロバをわが親父と呼ばなくてはならないこともある (B) (1) 自分の目的のためには身分の低い者にも追従しなければならないものだ (2) 目的を果たすためには軽蔑すべき相手や愚か者にも頭を下げなければならないことがある (B.T.)

(N) (1) = अपनी गरज गधे को भी बाप कहावे (B.T.) (2) आपरी गरज गधे नै बाप कहावे (Raj.) (B) (a) 自分の目的のためには目下の者にも追従しなければならないもの (b) 必要に迫られると人は何でもしようとするものだ (c) 私利私欲のためには人は道義も道徳も無視するものだ (d) これにはクリシュナ神生誕に関わる諺話が記されている。クリシュナの父ヴァースデーヴァがロバの姿をしたラークシャスに対して父親呼ばわりをして危難を乗り越えたとされる。

[217] अपनी गली में कुत्ता भी शेर (है) (Fa., B.T.)

(A) 自分の住んでいる路地では犬もライオン同然になる (B) 自分の縄張りの中だけでは威張り散らすことを揶揄する言葉。内弁慶、陰弁慶を揶揄する言葉 (B.T.)

(N) (1) Every cock fights on his dunghill (Fa.1) Every cock is proud on his dunghill (D.E.P.) 「だれでも内弁慶にはなれる」 (2) Every dog is a lion at home (B.T.) 【陰弁慶】 (3) अपना दुआर पर कुकरो शेर (Kah., शाहा° 2) (A) 自分の家の戸口では犬はライオンになる。= अपना खूँटा पर कुकरो बली (Kah., मुज° 2) (A) 自分の家の杭に繋がれている犬は強い。 (4) आपरी घुराळी में गिदक ई नाहर/आपरी

गळी में कुत्तौ ई सेर/आपरी घुरी में गादडौ ई सेर(Raj.) (B)(a) 自分の縄張りでは臆病者も勇ましくなる (b) 知り合いのいるところでは人はいいところを見せようとして張り切るものだ (c) よそ者は見知らぬところでは大切にされることはないものだ

[218] अपनी चिलम भरने दो दूसरे की झोंपड़ी जलने दो (B.T.)

(A) まずはキセルにタバコを詰めさせてくれ。他人の小屋は燃えるにまかせよ (B) 自分の小さな目的を果たすためには他人にどのような迷惑をかけようとも意に介さないたえ

(N) これとは表現が異なるが、同義に用いられる次の諺がある。 अपनी चिलम भरने को मेरा झोंपड़ा जलाते हो ? (Fa.) キセルに火をつけるのにわしの小屋を燃やすのか

[219] अपनी छाछ को कोई खट्टा नहीं कहता (Fa., B.T.)

(A) 自分のバターミルクが酸っぱいとはだれも言わないものだ (B) たとえどのようなものであれ自分のものを劣っているとは言わないものだ

(N) (1) =अपने दही को कोई खट्टा नहीं कहता(B.T.) (2)आपरी छाछ नै कुण खारी बतावे ?(Raj.) (A) 自分のバターミルクが酸っぱいとはだれが言おうか (B) (a) 人はだれしも自分の持っているものを立派だと言おうとするものだ (b) 人はだれしも自分の劣ったものさえいいものだと言明したがるものだ (c) 人はだれしもわが子を一番優秀だと思ふものだ (3) अपनी दही के गोआरिन खटा नहिं कहए (Kah., मुज. 2) (A) ゴアーリン (牛乳屋の女) は自分の売るヨーグルトを酸っぱいとは言わないものだ (B) 自分の持ち物を悪く言う人は一人もいない (4)अहिरिन अपन दही खट्टा नहीं बतावति(A.V.) (A) アヒールの女は自分の (売り物の) ヨーグルトを酸っぱいとは言わないものだ

[220] अपनी छानो अपनी पिओ(B.T.)

(A) 大麻の葉は自分ですり潰し自分で漉して飲むべし (B)(1) 自分のことは自分の手ですることが大切だ (2) 人は自分で稼いだものを食べるようにするべきである

[221] अपनी जाँघ उघाड़िए, अपने मरिए लाज (B.T.)

(A) 自分の太股を自ら露にすれば自ら恥ずかしさのあまり死ぬ (B) 自分のことや身内の弱点を非難することは自ら恥をかく行為だ

(N) (1) これと似たものに次がある。 अपनी टाँग उचारिए, आपहिं लाजों मरिए (Fa., B.T.) ただし意味は次の通り。「自分の家庭内の秘密を暴露すれば自らが恥をかく」(Fa.2) =अपनी टाँग उचारिए, आपहिं मरिए लाज (Fa.2) (2)अपनी जाँघ उचारिए अपने मरिए लाज(Kah., चंपा°) (A) 自ら嘲笑を招くようなことを行ふたとえ (3)आपकी जाँघ उघाड़याँ आप ई लाज मरे(R.J.K.) (B) 自分の家庭内のことや身内のことを悪く言えば自ら恥をかくものだ

[222] अपनी टेक भँजाई, बालम की मुँछकटाई (B.T.)

(A) 「意地を貫いて亭主の口ひげをそり落としたぞ」 (B) 意地を貫くためには自分の損も恥も気にしない人のたとえ

(N) (1)(B.T.) のこの諺にまつわる話。ある村で夫婦が男と女のどちらが利口かについて言い争った。夫は男が、妻は女が利口だと言い張って決着がつかなかった。妻は仮病を使い夫が口ひげをそり落とすならばすぐにでも元気を取り戻すと話した。夫がその通りにすると妻は寝台から起き上がり上の文句を歌いだした。夫は自分が馬鹿にされたことを知ると妻の実家に一人で出かけ皆に妻が重病であると伝え、もし助けたいのであれば妻の実家の家族全員が頭を剃りロバに乗って妻のもとへ行くしかないと話した。妻の実家の家族は言われた通りにした。妻が上の文句を歌いながら粉ひきをしているところへ一同がやってきた。夫は妻の抗議に対し次のように答えた。「見たか嫁御よ、丸坊主の勢揃いだ」妻はそれを見て大いに恥じた。

[223] अपनी तरफ न देखें, अड़ड़ी-बड़ड़ी जायँ (B.T.)

(A) おのれの姿形を見ずしなをつくって歩む (B)(1) 美人でもない女性が自分の容姿に自惚れているのを揶揄する表現 (2) 自分の容姿や力量や才能に自惚れる人を揶揄する表現

[224] अपनी तो यह देह भी नहीं (Fa., B.T.)

(A) この世にはわが身とおのれのものはない (B) わが身ですら自分のものではないのだから他にはわがものがあるはずがない

(N) आपरी तौ काया ई कोनीं (A) この肉体さえ自分のものではない (B) (a) いつの日かこの肉体も離れて行くものだ (b) 対象が何であれ執着するのは間違いでしかない (c) この世には自分のものと呼べるものは何もないのだ

[225] अपनी दवाई, अपना ही दाम (B.T.)

(A) 薬を与えた上に薬代を与える (B) (1) 自分が受け取るはずが逆に与えなくてはならない羽目に陥るたとえ (2) 人をだますつもりが自分がだまされる羽目になるたとえ

[226] अपनी दही कौन खट्टी कहता है (B.T.) = अपनी छाछ को कोई खट्टा नहीं कहता.

[227] अपनी दाढ़ी सब बुझाते हैं (Fa.) अपनी दाढ़ी सब पहले बुझाते हैं (B.T.)

(A) 火のついたあごひげはまず自分のものを消すものだ (B) 人はまず自分に降りかかった火の粉を払うものだ。人はだれしもまずは自分のことを気にかけるものだ

(N) (1) (B.T.) には諺話あり。アクバル王と廷臣ビールバルの間に交わされたと伝えられる多数の小話の一。アクバル王がビールバルに「我々二人のあごひげに同時に火がついたらどうするか」と問いかけたのに対しなされた返答がこの文句。 (2) ほぼ同義のものと思われるものに次の諺がある。आपरी दाढ़ी रै लसड़की पैली दे (Raj.) (A) 人はまず最初に自分のあごひげを撫でるものだ。 (B) (a) 人はまず最初に自分の利益を求めるものだ。 (b) 自分の利益になることを捨てる人はいないものだ。 (c) 私利私欲の優先以上の原則はない。 (3) अपना दाढ़ी के आग पहले बुझावल जाला (Kah., शाह) 2) (A) 先に自分のあごひげの火が消される (B) まずは自分自身が窮境を脱しなくてはならない

[228] अपनी नाक कटे तो कटे, दूसरे का सगुन तो बिगड़े (B.T.)

(A) たとえ自分の鼻が削がれようとも他人の運勢が傾けばよい (B) 少しでも他人に損害を与えるためには自分がどのような犠牲を払うことも厭わない人を揶揄する言葉

(N) (1) (B.T.) は次の英語の諺を参照している。Cut one's nose and spite one's face (B.T.) これは正確には次の諺か Cut off one's nose to spite one's face (D.E.P.) (B) 腹立たしさに自暴自棄的な自分の損になるようなことをするとえ (2) आपरी नाक बढ़ाय खलकां रा आपसुंग करै (Raj.) (A) 自分の鼻を削がせて他人の凶兆とする (削がれた鼻を見れば他人には不吉なものを見たことになる) (B) 人に損害を与えるためには自分が大損をするのも意に介さない人のたとえ

[229] अपनी नींद सोना, अपनी नींद उठना (Fa.) अपनी नींद सोये, अपनी नींद उठे (B.T.)

(A) 自分の好きなように眠り好きなように起きる (B) (1) 拘束や束縛のない全く自由な境界のたとえ。他人の干渉を一切受けないことのたとえ (Fa.) (2) 自分の好き勝手に振る舞うことのたとえ (B.T.) (3) 他人との接触や交渉を一切断つことのたとえ (B.T.)

(N) (1) आपरी नींद सूँ अर आपरी नींद जागै (Raj.) (A) 自分の都合で眠り自分の都合で目を覚ます (B) (a) 他人の干渉を全く受けない暮らしをする人のたとえ (b) 何の心配もない全く自主独立の人のたとえ (c) だれとも何のもめ事も起こさず人に害を及ぼすことのない人のたとえ (d) 人からかわれることのない人 (e) 借金のない人のたとえ (2) अपनी नींद सोणा अपनी उठना (Hrk.) (B) 世間とあまり交渉を持たないたとえ

[230] अपनी पीठ अपने को दिखाई नहीं देती (B.T.)

(A) 自分の背中は見えない (B) 自分も持つ弱点について他人を誇る人のたとえ

(N) आपरी पूठ आपनै कद दीखै ! (Raj.) (A) 自分の背中決して見えないものだ (B) (a) 人は自分の背中同様自分の欠陥を見ることはできないものだ (b) だれにも自分の弱点は見えないものだ (c) 自分の見ることのできないところでは何事が起ころうとも見当がつかないものだ (d) 人は目に直接触れないものについては全く無知である

[231] अपनी पीठ अपने हाथ से नहीं खुजलाई जाती (B.T.)

(A) 自分の背中は自分の手では搔けないものだ (B) 他人にしかできないことはいかようにしても自分にはできないものだ

[232] अपनी फूली न देखे दूसरे का ढेंदर देखे (B.T.) → [174] अपना ढेंदर ना निहारे दूसरे की फुल्ली निहारे.

=अपन फूली ना देखे दोसरा के ढेंदर निहारे (Kah., शाहा° 2)

[233] अपनी बला और के सिर (B.T., Fa.1) अपनी बला और के लिए (Fa.2)

(A) 自分に降りかかった災厄を他人 (の頭) にかぶせる (B) (1) 自分に降りかかっためんどろを他人に押しつけることのたとえ (Fa.) (2) 自分の犯した罪を他人になすりつけるたとえ (B.T.)

[234] अपनी बीती कहूँ कि जग बीती (B.T.)

(A) わが身に起こったことを語ろうかそれとも世間に伝わることを語ろうか (B) (1) 私の体験した (本当の) ことを聞きたいのかそれとも世間の噂話を聞きたいのか (2) 自分の身の上に起こる確かな話を聞きたいのかそれとも世間に起きることを聞きたいのか

(N) आपबीती कहूँ या जगबीती (Fa.) (B) (a) 自分の身の上に起こった話を語ろうかそれとも他人の話語ろうか (Fa.1) (b) 自分の経験した辛い話を語ろうかそれとも他人の話語ろうか (Fa.2)

[235] अपनी भरी आँत, सैयाँ के खोजे जाँत (B.T.)

(A) 自分の腹が満ちた後亭主のパンの粉をひくために臼に向かう (B) 人は自分の利益を図った後で他人のことを考えるものだ

(N) अपन भरल आँत सैयाँ ला जोहथि जाँत (Kah. मुज° 2) (B) 自分の必要が満たされてしまうと他人のことでは口実を設けて避けようとする人を揶揄する言葉

[236] अपनी भरी धाली छोड़ें, दूसरे की जूठी पत्तल निहारें (B.T.)

(A) 自分の一杯盛りつけられたプレートには見向きもせず他人の食べ残した木の葉の皿を見つめる (B) (1) 自分のものよりも他人のもののほうが立派に見える欲深い人のたとえ (2) 妻を捨てて人妻に言い寄る男を揶揄する言葉

[237] अपनी भैंस का दूध सौ कोस पर जाकर भी पिया जा सकता है (B.T.)

(A) 自分の家の水牛の乳は 100 コース (約 200 マイル) 先でも飲める (B) 人に親切にすればいいつかそれはその人ところへ戻ってくるものだ 【情けは人のためならず】

[238] अपनी मारी हुई हलाल (B.T.)

(A) 自分が潰した鶏だけが確かにハラールである (B) (1) 何事も自分でするのがよい (2) 自分のしたことはまずくても気に入るものだ

(N) (1) ここでハラールとはイスラム教に則り合法的な食品の意. 畜殺した後に血抜きをした肉. (2) आपरी मारी हलाल (Raj.) (B) (a) 自分のしたことは常に正しいと思う人のたとえ (b) 自分の失敗さえも正しいと思う人のたとえ

[239] अपनी राधा को याद करो (Fa., B.T.)

(A) 自分のラーダーを気かけろ. ラーダーの世話をしろ. (B) (1) (他人の言うことを聞こうとしない人に向かって) 好きなようにしろ (2) 他人のことに口を出すな. あんたには用はない. 自分のことをしておれ (Fa.1)

(N) (1) ラーダーとはインド神話でクリシュナ神の恋人であり妻ともされる女性. (2) Mind your own business (Fa., D.E.P.) 【おのれの頭の蠅を追え】

[240] अपनी लगी पीठ में और के लगे भीत में (B.T.)

(A) 自分が受けた打撃は背中に感じ、他人が受けた打撃は壁に感じる (B) 自分の受けた苦痛は大仰に感じ他人の苦痛は意に介さないことのたとえ (N) अपने लागू हीक मैं, और के लागू भीत मैं (Har.)
(A) 自分の受けた打撃は胸に感じ他人に与えた打撃は壁を打つように感じる (B) 他人の受ける痛みを感じないのが不埒な人間である

[241] अपनी लड़की भली होती तो दूसरा क्यों गाली देता ? (B.T.)

(A) 自分の娘が立派であれば他人から罵られることはない (B) 人は他人の足りないところではなく自分の足りないところを考えるべきだ

(N) अपन धिया नीमन रहती तऽ बिरान पारीत गारी (Kah., चंपा० 1) (B) 自分自身の非を見つめろ

[242] अपनी लार तो सिमटती नहीं, उठाएंगे जगत का भार (B.T.)

(A) 涎を垂れる身で世界の重荷を支えるとは (大したものよ) (B) ほらを吹いたり大口を叩いたりすることを揶揄する言葉

[243] अपनी लिट्टी पर सब आग रखते हैं (Fa., B.T.)

(A) 人はだれしも自分のリッティーにおき (熾き) をのせるものだ (B) 人はみな自分の利益を優先させるものだ

(N) (1) リッティーとは熱い灰の上に直にのせて焼かれるパン (2) Each for himself (Fa.1) (3) Each man for himself (D.E.P.) 「わが身のことは自分でせよ」 (4) आप-आपरी रोटी तळे सै खीरा देवे (B)(a) 人はみな自分の利益を図ろうとするものだ (b) 親切な行為も自分の利益のためだけのものではない

[244] अपनी हँसी हँसें, पराई हँसी रोवें (B.T.)

(A) 自分が笑われる時には笑い他人が笑われる時には泣くがよい (B) 他人の至らなさを笑ってはいけない

[245] अपनी हार बहु की मार कहते नहीं (B.T.)

(A) 自分が負けたことと妻に叩かれたことは口にしないものだ (B) 自分の失敗を恥ずかしがって言わぬ人のたとえ

(N) अपन हारल बहुअक मारल दोसरा के नहिं कही (Kah., मुज० 2) आपन हारल और महरी के मारल केहू से ना कहे (Kah., शाहा० 2) (A) 自分の負けたことと妻に叩かれた話は他人に話してはいけない。
(B) やりかけたことに失敗して大変落胆している人を励ます言葉

[246] अपनी ही पगड़ी से न्याय करो (B.T.)

(A) 自分のターバンで人を裁け (B) 裁かれる相手の立場に立って人を裁くべし

(N) पगड़ी तारबान है मर्द की शान की आहूत (Kah., मुज० 2) (B) ターバンは男子の尊嚴の象徴とされる

[247] अपने आम दूसरे के बाग में नहीं खाए जाते (B.T.)

(A) 自分の庭で採れたマンゴーを他人の庭では食べてはならない (B) 費用は自分が負担するが名義は他人のものになるようなことをしてはならない

(N) 【李下の冠】、もしくは、【瓜田の履】の意にはいづれにも全然言及されていない。

[248] अपने उदरी जाए भगवान को दोष दें (B.T.)

(A) 妻に間男と逃げられたのに神様を謗るとは (B) 自分の過ちを他人のせいにするたとえ

(N) अपने उदरल जाई तऽ बिध बिधाता उदारने जाय (Kah., मुज० 2) (A) 妻が間男して逃げるのに神様を謗る (B) 自分が悪いから不名誉なことになるのに他人や神を咎めるとえ

[249] अपने कान अपने हाथ से नहीं छेदे जाते (B.T.)

(A) 自分の耳たぶに自分の手でピアスの穴を開けることはできない

(B) (1) 自分の手で自分の体に苦痛を与えることはできない (2) 何事も専門家がおり専門家には適わぬものだ【餅は餅屋】 (3) 人は自分のことを何もかも自分でできるわけではない

(N) आपरै हाथां आपरा कान नी बीधीजै(Raj.) (A) 自分の手で自分の耳にピアスはできないものだ (B) (a) 自分の手で自分に苦痛を与えることはできない (b) 人は互いに依存して暮らしているものだ (c) 人間社会の根本は相互依存だ

[250] अपने किए का क्या इलाज(Fa., B.T.)

(A) 自分がしてしまったことにどのような対策が採れようか (B) 自分の不始末はどうすることもできないものだ

[251] अपने को साग-सत्तू पर को मिठाई (B.T.)

(A) たとえ自分は菜っ葉とほったい粉(質素な食事)を食べようとも他人にはうまいものを食べさせよ (B) たとえ自分はどれほど質素な暮らしをしようとも人は手厚くもてなさなくてはならない

[252] अपने खेत का पटुवा तीता(B.T.)

(A) 自分の畑で採れたサンヘンブは舌を刺す (B) 身近なものは気に入らないものだ (N) サンヘンブ(マメ科タヌキマメ属)はその葉が食用となる

[253] अपने गाँव आग लगी, धुआँ दूसरे गाँव (B.T.)

(A) 自分の村に火事が出たのによその村で煙を探す (B) (1) 辻褄の合わぬことを言うたとえ (N) अपना गाँवे आग लागे आन गाँवे धूआ(Kah., 'हिन्दुस्तानी' 1939-4) (A) 自分の村で火事が出たのによその村で煙を探すのか (B) 辻褄の合わぬことをしたり言ったりする人を揶揄する言葉

[254] अपने घर का छेद क्यों कहें (B.T.)

(A) わが家の壁に開いた穴のことをなぜ言うか (B) 自分の家の欠陥や不具合を人に語ってはならない

(N) अपना घर क छिद्र ककरो न कही(Kah., मुज° 2) (A) 自分の家の穴をだれにも言うな (B) 自分の家の欠陥を人に話してはならない

[255] अपने घर की घरनी, घर में चोरनी (B.T.)

(A) 一家の主婦が家の中で盗みを働く (B) 身内が身内に対して偽り事をするたとえ (N) अपना घर के घरनी अपना चाउर के चोरनी(Kah., मुज° 2) (A) 主婦が自分の家の米を盗む (B) 家人が背信行為をするたとえ

[256] अपने घर के सब पादशाह हैं (Fa.) अपने घर के सब बादशाह हैं (B.T.)

(A) 人はみなわが家では殿様 (B) 人はみな自分の家では何をしようと自由だ (N) (Fa.1) には意味として英語の次の諺が掲げられている. An Englishman's house is his castle (D.E.P.) 「イギリス人は家庭のことを他人が覗くのを許さない」

[257] अपने घर दिया न बाती, दूसरे के घर मूसल जैसी बाती(B.T.)

(A) 自分の家では灯火も点さないのによその家で杵のように太い灯心に火を点す (B) 自分の家のためには全く働かぬくせに他人のためにはよく働く人を揶揄する言葉

(N) अपना घरे अन्हारा मटकी दोसरा घरे मूसर के बाती(Kah., गाँवघर); अपना घरे दिया न बाती अनका घरे मूसर अस बाती(Kah., चंपा° 2) (A) わが家では闇、よその家では杵のような太い灯心に火を点す (B) 見えを張るたとえ

[258] अपने घर पर कुत्ता शेर(Fa., B.T.)

(A) 自分の家では犬もライオン同然だ (B) (1) だれしも自分の家の中では強い、人はだれしも自分の家の中では主人である (2) 【内弁慶】; 【陰弁慶】

(N) (1) =अपने घर कुत्ता भी शेर (Fa., B.T.) =अपने दरवाजे का कुत्ता भी शेर; कुत्ता भी अपने दरवाजे पर शेर(B.T.) (2) Everyone is a king in his house(Fa.1) (3) अपना दुआर पर कुकरो शेर (Kah., शाहा० 2)

[259] अपने घर में दीया पहले, मंदिर में बाद में(B.T.)

(A) わが家の明かりが先, 寺の明かりは後 (B) (1) まずは自分のこと, 他人のことはその後 (2) まずは自分の用事を済ませてから, 他人の用事をするものだ

[260] अपने छिपकर खाना दूसरे का हँस गाकर (B.T.)

(A) わが家では (よその人に気付かれぬように) こっそり食べ他人の家では笑い声をあげ大声をあげて食べる (B) 自分の利益ばかり考える人のたとえ

[261] अपने दही को कोई खट्टा नहीं कहता (B.T.)

(A) わが家でこしらえたヨーグルトを酸っぱいと言う人はいないものだ (B) 人はだれしも自分のものがいいものだと考える. 自分のものを悪く言う人はいないものだ

(N) (1) Every potter praises his pot. Every cook praises his own stew. Every man thinks his own geese are swans. (B.T.) 【自画自賛】(2)↔ [219], [226]

[262] अपने पाँव कुल्हाड़ी(B.T.) अपने पाँव में आप ही कुल्हाड़ी मारते हैं (Fa.)

(A) 自分の足元に自分が斧を (打ち下ろす) (B) 自滅行為のたとえ

(N) (1) これは अपने पाँव कुल्हाड़ी मारना の形でイディオムとして用いられる (2) आपरै हाथां पग में कवाड़ियो वावै(Raj.) (B)(a) 自らに害をなす人をだれかが助けることができようか (b) 自分自身の利害得失を全く考慮しない人のたとえ

[263] अपने पादें उड़द के दोष(B.T.)

(A) 屁が出るのはウラド (ケツルアズキ) のせい (B) 自分の弱点や落ち度を他人のせいにするたとえ

[264] अपने पुत्र न पूरी आस पोसी लेके गया जात (B.T.)

(A) (実の) 息子なく養子を連れてガヤー詣で (B) 自分の持っているもので願いが叶わぬのであればどうしようもないものだ

(N) (1) ビハール州のガヤーにはヒन्दू教徒が先祖供養の聖地として参詣する (2) अपन पूत न पूरल आस नाती ले देह गया जात(Kah., पूर्वी पटना) (A) 自分の息子では願いが叶わなかったので外孫を連れてガヤーに (先祖供養に) 出かける (B) (息子という) 身内で叶わなかったことが (たとえ外孫であれ) 他人では願いが叶うはずがない

[265] अपने पूत को कोई काना नहीं कहता (B.T.)

(A) (親は) 片目の息子を片目とは言わない (B) 人は自分に属するものが劣っていようととも劣っているとは言わないものだ

[266] अपने पूत सपूत, पराये पूत कपूत (B.T.)

(A) わが子は孝行息子, 他人の子は親不孝者 (B) (1) 不出来な子であろうとも親の目にはわが子は他人の子よりよく思えるものだ (2) 自分のものはたとえ劣っていようとともすぐれているように思うものだ

(N) आपरौ पूत सपूत और परायौ टींगर(Raj.) (A) わが息子は孝行息子, 他人の子は餓鬼 (B) (a) 自分に属するものを高く評価し他人のものを軽んじるとえ (b) 自分の家族を高く評価し他人を軽んじるとえ

[267] अपने पेट में आप चाकू नहीं मारा जाता (B.T.)

(A) 自分の手で自分の腹は切れない (B) (1) わざと自分の不利になることはできないものだ (2) 自分の身体に痛みを伴うことは本人にはできないことだ

[268] अपने फूहड़ पड़ोसी का दोष (B.T.)

(A) 自分がだらしがないのは隣人の落ち度 (B) 自分の落ち度を他人のせいにするたえ

[269] अपने बच्चे के दाँत हर कोई जानता है (B.T.)

(A) わが子の歯についてはだれしも知っているものだ (B) (1) 人はだれしも自分の身内のことをよく知っているものだ (2) 人はだれしも自分に所属するものを詳しく知っているものだ

(N) (1)(B.T.) は=अपने बच्चे के दाँत सब को मालूम होते हैं としている。(2)(Fa.1) は अपने बच्चे के दाँत किसी से मालूम होते हैं 及び अपने बच्चे के दाँत हर कोई जानता है を掲げている。すなわち、(A) 自分の子牛の歯並びは遠方からでもわかる (B) 自分に所属するものや自分の家族については本当のことを知っているものだ (Fa.2) (3) आपरै केरड़ा रा दाँत कुण नीं जाणै ! (A) 自分の飼っている子牛の歯並びを知らない人はいない (B)(a) 家庭内のことは家族全員が知っているものだ (b) 自分の子供のことを知らない人はいないものだ (c) 自分の心の秘密はだれしも知っているものだ

[270] अपने बाल स्वयं नहीं काटे जाते

(A) 自分の髪は自分の手では切れない (B) (1) 一切のことを自分の手ですることはできないもの (2) 専門の人にしかできないことがあるものだ。物事には専門の人がいるものだ。【餅は餅屋】

[271] अपने बावले रोइए दूसरों बावले हैंसिए (B.T.) अपने बावलों रोइये और के बावलों हैंसिये (हैंसिए) (Fa.)

(A) 出来なわが子には泣きなさい。出来な他人の子は笑いなさい (B) (1) 人は出来な子の中で辛い思いをするが他人の出来な子は笑いものにする。人は他人のことを笑いものにして楽しむものだ (B.T.) (2) 人は他人の悲しみを悲しみと感ぜないものだ (Fa.2)

[272] अपने बिना सुख सपना (B.T.)

(A) 自分のもがなければ幸せは夢も同然 (B) (1) 自分のものは常に役立つが他人のものは夢のようなものだ (2) 他人のものは常に役立つものではない

(N) अपना बिनु सपना (Kah., मुज° 2) (B) 手元にないものは夢のように得難いものだ

[273] अपने बिल में साँप भी सीधा हो जाता है (B.T.)

(A) 蛇は自分の巢穴の中では真っ直ぐになるものだ (B) 人はわが家では気取らずにくつろいで過ごすべきだ

[274] अपने बेटे को गाँड़ कौन कहता है ? (B.T.)

(A) わが子を臆病者呼ばわりする親がどうか (B) 親はわが子が悪くても悪いとは言わないものだ

[275] अपने भूखे चूल्हा फूँके, पर के भूखे सिर दुखे (B.T.)

(A) 自分がひもじければかまどの火をつけるが他人がひもじい時には (自分は) 頭が痛い (と言う) (B) 思いやりのない自己中心的な人のたとえ

(N) (1) अपन भूख तऽ चूल्ही फूँक साँयक भूख तऽ माथा दुख (Kah., मुज° 2) (A) 自分がひもじければかまどに火をつけ亭主がひもじければ頭痛がする (B) わがままな人 (のわがまま) を揶揄する言葉 (2) これと同義のものであるが表現の異なるものがある。अपन भरल आँत साँय ला जोहयि जाँत (Kah., मुज° 2) (A) (妻は) 自分の腹が満ちた後で亭主のためにひき臼を探す

[276] अपने मन कुछ और है कर्ता के कुछ और (B.T.)

(A) 自分の望むことと神の望むこととは少し違うものだ (B) 志とは違う結果になった際の言葉

(N) (1) Man proposes, God disposes (B.T., D.E.P., E.E.P.) 「人は企て神が決定する」 (2) अपना मन कुछ और है कर्ता के मन और (Kah., मुज° 2) (A) 人の望むことと神の望むこととは異なるものだ (B) 人の望むものとは違う結果になるものだ

[277] अपने मन की बात, फ़कीर रोटी बनावे या भात (B.T.)

(A) ローティー (パン) を焼くか飯を炊くかはファキールの気まま (ファキールは自分の好きなようにパンをこしらえたり飯を炊く) (B) 気ままな人はいつでも自分の好きなように振る舞うものだ

(N) (1) ファキールとは本来的にはイスラム教神秘主義のスーフィー, すなわち, 探究者, 修行者, 求道者を指す言葉であるが転じて托鉢僧, 乞食なども指す. (2) अपना मन के बात फ़किरवा रोटी बनइवे कि भात (Kah., चंपा° 1) (A) ローティーを焼くか飯を炊くかはファキールの気持ち次第だ (B) 勝手気ままなことをする人について言う

[278] अपने मन से जानिए, पराए मन की (Fa., B.T.)

(A) 自分の心で他人の心の内を知りなさい (B) (1) 人は自分の心で他人の胸の内を察知すべし (自分の気持ちで他人の望みを知るべきだ) (2) 自分の経験を基にして他人の気持ちを理解したり察知することができる (B.T.) (3) 自分がよくないと思うことは他人にもよくないものだ (B.T.) (4) 自分が好悪の気持ちを抱くものは大抵他人もそのように感じるものと知れ (5) 相手は自分の振る舞いに応じた振る舞いをするものだ (Fa.2)

(N) अपने मन से जाने पराये मन की बात (Kah., शाहा° 2) (A) 自分の心を抛り所にして他人の心の内を知るがよい (B) 自分の思いで他人の思いを知るべきだ

[279] अपने मन से बिल्ली प्रधान (B.T.)

(A) 猫は自分が (村の) プラダーン (顔役) だと思っている (B) 愚か者は自分を偉く思うものだ. 他人がどう思うかは気にしない.

[280] अपने मरे बग़ैर सुरग नहीं (Fa.1) अपने मरे बग़ैर स्वर्ग नहीं दीखता (Fa.2) अपने मरे बिना स्वर्ग नहीं दीखता (B.T.)

(A) 自分が死んでみなければ天国は見えないものだ (B) 自分の手でしなければ事は成らないものだ (Fa.) 人は自分の行為の報いを受けるものだ (B.T.) 自分が被った災難は自分が受けざるを得ない (Fa.2)

(N)(1) अपने मरे बिना किया सुरग दिखे (Kaur.) (B) 人頼みでは何事も成らないものだ (2) अपने मरे बिन सरग नै दिखे (Chatt.) (B) 人に頼んだ仕事ができず自分がしなくてはならなくなった時の言葉

[281] अपने माथ में मैं सौ चुटिया रखूँगा (B.T.)

(A) 自分の頭には百房のチュティヤーをつくる (B) 個人的なことでは人は自分の好きなようにすることができるものだ

(N) (1) チュティヤーとは一部のヒンドゥーの男子が頭頂部のあたりに長く伸ばしておく一房の髪. 一般に一房のものと決まっている. (2) आपरौ माथौ, सौ चोटी राखे तौ कुण बरजै (Raj.) (A) 自分の頭に百房のチュティヤーをつくるのをだれが止めようか. (B) (a) 生活の個人に関わる面では人は全く自由である. (b) 人は他人の好みに縛られることはない. (c) 個人的な振る舞いを他人がとやかく言うことはない. (3) अपना माथ में सौ गो चिरुकी राखब तोहरा येह से का (Kah., शाहा° 2) (B) 意地張りの人を揶揄する言葉

[282] अपने मामा मरे, जुलाहे-धुनिए मामा भये (B.T.)

(A) (母方の) おじが亡くなるとジュラーハーやドゥニヤーがおじのように親しくなる (B) 親戚縁者が近くにいとなくなるとジュラーハーやドゥニヤー如きと親しくなるものだ

(N) (1) ジュラーハーは機織りを主たる生業としてきたイスラム教徒のカースト, ドゥニヤーもイスラム教徒で綿打ちを主な生業としてきたカースト. いずれもカースト序列の中では底辺に位置するとされる. (2) अपने मामा मर-हर गइले जोलहा धुनिया मामा भइले (Kah., चंपा° 1) (A) マーマー (母方のおじ) が亡くなったらジュラーハーやドゥニヤーがマーマーになった. (B) 親族や親戚が

いなくなって赤の他人と親しくなることについて言う (3) これは主にイスラム教徒の間に行われてきた諺と考えるべきであろう

[283] अपने मियाँ दर-दरबार, अपने मियाँ चूल्हे द्वार(Fa.) अपने मियाँ दर-दरबार, अपने मियाँ चूल्हेद्वार (B.T.)

(A) うちの亭主は官仕え, うちの亭主はかまど焚き (B) (1) 一人の人が大小さまざまな仕事をするとえ; なんでも屋; よろずや (Fa., B.T.) (2) 様々な仕事を一人でしなければならぬ困る人のたとえ (Fa.2)

(N) Jack of all trades(Fa.1) なんでも屋

[284] अपने मियाँ मँगते द्वार खड़े दरवेश (B.T.) → [458] आप ही मियाँ मंगते, बाहर खड़े दरवेश

[285] अपने मुँह मियाँ मिट्टू(Fa., B.T.)

(A) 自分のことをさん呼ばわり (自分の名前にさんをつける) (B) (1) 自慢する人や自惚れる人を揶揄する言葉 (2) ひとりよがりや自己満足のたとえ

(N) (1) =अपने मुँह धना बाई (Fa.1, B.T.) According to herself my Lady Bountiful (Fa.1) According to himself my Lord Pleasant (Fa.1) (2) अपने मुँह मियाँ मिट्टू (Kah., सा° 1, शाहा° 2 एवं अन्यत्र) (B) 自画自賛を揶揄する言葉

[286] अपने मुँह शादी मुबारक(Fa., B.T.)

(A) 自分の結婚式で自分に「ご結婚おめでとう」 (B) 自慢や自画自賛のたとえ. blowing one's own trumpet (Fa.1, B.T.); blow one's own trumpet 【自画自賛】 (D.E.P.)

[287] अपने सूई भी न जाने दो, दूसरे के भाले घुसेड़ दो (Fa.1) अपने सूई न जाने दें, दूसरों के भाला घुसेड़ें (B.T.)

(A) 自らの身には針も通させず他人の体には槍を突き刺す (B) (1) 自らはほんの僅かの損害も許さず他人には平気で大きな打撃を与えるたとえ (B.T.) (2) 人は他人の苦しみや辛さへの思いやりをほとんど持たないものだ (Fa.2)

[288] अपने से जलें पड़ोसी से नाता, ऐसी बुद्धि न देय बिधाता(B.T.)

(A) 神様, 身内には妬み隣人とは親しむような性分はお授け下さいますな (B) 隣人とは親しみ合うのに親戚や縁者とはいがみ合うような人を揶揄する言葉

(N) अपना सँ जर पड़ोसिया सँ नाता यहन बुद्धि जनि दिहा बिधाता (Kah., मुज° 2) (B) 自分の近親者とは敵対するくせに他人とは親しくするような人を揶揄する言葉

[289] अपने हाथों अपनी आरती(B.T.)

(A) 自分の手で自分にアールティーを行う (B) 自画自賛を揶揄する言葉

(N) (1) アールティーとはヒन्दウー教徒が神像や賓客に対して行う礼拝儀礼. गी-या-香とともに灯明をともした盆を対象の前で輪を描くようにに回す (2) आपरा हाथ अर आपरी ई आरती (B)(a) 自分で自分を誉めるとえ (b) 自己宣伝のたとえ

[290] अफरी गाय, बीचा खेत खाय (B.T.)

(A) 満腹した後でも牛は 1 बीचा- (8 分の 5 エーカー) の広さの畑の草を食いつくす (B) 大食漢のたとえ

(N) 表現の似たものに अचाइलो भैंसा तऽ नौ कटठा(Kah., शाहा° 2) 「満腹した水牛はそれでも 9 カッターの広さの草を食う」があるが, 大食漢が満腹したと言って食べようとしないのに勧めて食べさせようとする言葉とされる

[291] अफलातून के नाती बने हैं (Fa., B.T.) अफलातून के साले बने हैं(Fa.)

- (A) プラトンの外孫を称している (Fa., B.T.) プラトンの妻の兄弟を称している (Fa.)
 (B) (1) 傲慢な人のたとえ (Fa.1) (2) 大学者とか賢者であると自惚れる人のたとえ (Fa.2) (3) 大学者や大思想家であると自惚れる人のたとえ (B.T.)

[292] अफसर के आगे और घोड़े के पीछे (B.T.)

- (A) 偉い役人の前と馬の後ろ (B) いずれも危険であるからできるだけ近寄らないがよい
 (N) (1) अफसर रै अगाड़ी अर गधा रै पिछाड़ी (Raj.) (B) お役人の前とロバの後ろには行くものではない。役人は只働きをさせたり用事を言いつけたりするしロバは蹴飛ばす危険がある。(2) अफसर की अगाड़ी घोड़े की पिछाड़ी (Hrk.) (B) いずれにも近づけばひどい目に遭うことになる

[293] अफ़ीम अमीर खाय या फ़कीर (B.T.) अफ़ीम या खाए अमीर या खाए फ़कीर (Fa.)

- (A) アヘンはアミールが用いるかファキールが用いるもの (B) アヘンは高価なものであるからアミール (金満家) が用いるかファキール (托鉢僧) が人に乞い求めてしか用いることはできないものだ

[294] अब के बचे तो सब घर रचे (Fa.1; B.T.) अब की बचे तो सब घर रचे (Fa.2)

- (A) 今度うまく逃れられたら万事よし (B) 今度の試練には耐えられないだろう
 (N) (1) Saved once, saved for ever (Fa.1) (2) 大変な危難に見舞われた時に発する言葉 (B.T.)

[295] अब तो रुपये की ही जात है (B.T.) अब तो रुपये की जात है (Fa.)

- (A) 今は銭がカーストを決める時代だ (B) (1) 現在は財力がすべてのものの尺度だ (今は金がカーストに優先する時代だ) (B.T.) (2) カーストは今や金 (Fa.1)
 (N) Upstart a churl, and gathered good, and thence did spring his gentle blood (Fa.1) これも成金が家系図までこしらえるのを揶揄する意の諺か

[296] अब पछताए का होत है, जब चिड़ियाँ चुग गईं खेत (Fa.) अब पछताये होत क्या जब चिड़ियाँ चुग गईं खेत (B.T.)

- (A) 鳥が畑の作物をついばんでしまった後で悔やんでも何になろうか (B) 時を失すれば無駄な嘆きとなる；時機を逸して甲斐のないこと；手遅れ；【後の祭り】
 (N) (1) Crying over spilt milk (Fa.1) It is no use crying over spilt milk (B.T., D.E.P.) 【覆水盆に返らず】 (2) अब पछताये होत का जब चिरियाँ चुगलसि खेत (Kah., शाहा° 2) (B) 好機を逸すれば悔やんでも役には立たないものだ (3) अब पिछतायाँ काई हुवै जद चिड़ियाँ चुग गईं खेत (Raj.) (B) (a) その時を逃せば悔やんでも何の役にも立たない (b) その時に用心しなければ必ず損害を被るものだ (c) 後で悔やんでも損害が償われるわけではなくかえって体が衰弱する (3) अब पछताये का होत है जब चिड़ियाँ चुग गईं खेत (A.V.) (B) 好機を逃さないようにすることに強調がある

[297] अब रहीम चुप करि रहो देखि दिनन को फेर (B.T.)

- (A) 時の移ろいを見て今は黙しておれ (B) 不調の時には黙して過ぐすべし (ラヒーム)
 (N) ラヒーム अब्दुर रहीम खाँ खानखाना (1556-1626) アクバル王の宮廷詩人の一人でもあったが、本来はアクバル王、シャージャハーン王に仕えた最高級の武將。多言語に通じブラジュバールシャー語による箴言詩も多く遺した。

[298] अबरा की जोरू सब की भौजाई (B.T., Fa.)

- (A) 無力な男の妻は皆の兄嫁 (だれからでも気安く声をかけられたりからかわれたりする) (B.T.), 貧しい男の妻は皆の兄嫁 (Fa.)
 (B) (1) 夫に経済力がないと妻はだれからでもなれなれしく冗談を言われる (Fa.) (2) 弱い人の財産はだれもかれもが我が物顔に使いたがる (B.T.) 無力な人はだれからでも軽んじた扱いを受けるものだ
 (N) (1) これには E(astern), すなわち、東部方言の諺との注がついている。(Fa.) (2) (Fa.1) は義弟と兄嫁とが文化人類学で言うところの冗談関係 (joking relations) にあることがこの諺の背景に

あることを述べている。(3) =अबरे की जोय गाँव भर की भौजाई(B.T.). (4)अबरा के मेहरारू गाँव भर के भउजाई(Kah., शाहा° 2; चंपा° 3) (B) 無力な人や弱い人を食べ物にすることを揶揄する言葉

[299] अबरा की भैंस बियाय, सारा गाँव मेटिया लेके दौड़े(B.T.) अबरा के भैंस बियाइल, सगरो गाँव मटिया ले धाइल(Fa.)

(A) 無力な男の水牛が子を産むと村中の者が壺を手にして駆けてくる

(B) (1) 愚か者をだれもが食い物にする (Fa.2) (2) 人はみな弱い人を苦しめるか虐げたりするものだ (B.T., Fa.1,2)

(N) (1)(Fa.) はこれを भोजपुरी の諺としている。(2)अबरा は本来「無力な (人)」の意味を持つものである。(3)अबरी के भैंस बिआयेल समूचा गाँव कँटिया ले धावल(Kah., चंपा° 1) (A) 無力な女性の水牛が子を産んだら村中の人が乳搾りの器を持って走ってきた=अंधरा घर में भैंस बियानी टेहरी ले के दौड़ हो(Kah., पट° 1). (B) 愚かな人や無力な人はだれからも食い物にされる

[300] अब्बर के हम अब्बर हैं और जब्बर के हम दास (B.T.)

(A) 人はみな無力な人に対しては強く強い人に対しては手下になるものだ (B) (1) 人はみな弱きを苦しめ強きに屈するものだ (2) 臆病者のたとえでもある

[301] अभाग कमाय, भाग्यवान खाय (B.T.)

(A) 運のない人が働き運の強い人が食う (B) (1) 自らは一銭一厘を惜しんで貯めたものを他人に奪われるけちな人のたとえ (2) 人を働かせて自らはそれを受け取る金持ちのたとえ

[302] अभाग जहाँ-जहाँ जाय विपत्ति तहाँ-तहाँ आय(B.T.)

(A) 不運な人はどこへ行こうとも不幸に見舞われる (B) 不運な人には不幸がついて回る

[303] अभ्यास सब से बड़ा(B.T.)

(A) 練習が一番大切なものだ (B) 【習うより慣れよ】

(N) (1)Practice makes a man perfect. (B.T.) (2)Practice makes perfect. (D.E.P.)

[304] अमरसिंह तो मर गए, भीख माँगे धनपाल, लक्ष्मी तो गोबर बेचे, भले बिचारे ठन-ठन पाल (B.T.)

(A) アマルシンは死んでしまい, ダンパールは物乞いをする. ラクシュミーは (燃料の乾燥) 牛糞を売る. 残ったのはタンタンパール. (B) 命名にこだわることは無意味なことだ.

(N) アマルシンとは「不滅の獅子」, ダンパールとは「財を守る人」の意. ラクシュミーとは「富の女神」の意. 一人だけタンタンパールはタンタンゴパール「無一物の人」をもじったもので名実が一致していることを指す

[305] अमर होके कोई नहीं आया(B.T.)

(A) 不死身でこの世に現れた人はいない (B) 生者必滅

(N)(Raj.) の次の諺はこれと同じことを表現を変えて述べる. अमर नांव परमेसर रौ अमर (不死) とは神様のこと अमर एक परमेसरौ अमरは神のみ

[306] अमली के ढिग अमली राजी(B.T.)

(A) アヘン飲みにはアヘン飲みの側がよい (B) 人は似たもの同士が集まったり交わるものだ【類をもって集まる】

[307] अमीर की बकरी मरे तो गाँव भर रोये, गरीब की लड़की मरे कोई जाने भी नहीं(B.T.)

(A) 金持ちの飼っていたヤギが死んだら村中がお悔やみに行くのに貧者の娘が死んでもだれも知らない (B) 人はだれしも金持ちにへつらうが貧しい人にはつれないものだ

[308] अमीर को जान प्यारी, गरीब को दम भारी (B.T.) अमीर को जान प्यारी, फ़कीर को एक दम भारी (Fa.1) अमीर को जान प्यारी, गरीब को एक दम भारी (Fa.2)

(A) 金持ちは命が惜しい。貧しい人は一息一息が苦しい。(B) 金持ちには命が惜しくてならず貧しい人にはこの世は疎ましいものだ (Fa., B.T.)

(N) (B.T.) はこれを [309] अमीर ने पादा सेहत हुई, गरीब ने पादा बेअदबी हुई「金持ちの屁は健康の証し, 貧乏人の屁は無作法の証し」と同じとする。すなわち, 立場が違くと全く同じものが正反対に感じられるたとえとする

[309] अमीर ने पादा सेहत हुई, गरीब ने पादा बेअदबी हुई (Fa., B.T.)

(A) 金持ちが屁をひれば調子よし。貧乏人がひれば無作法をした (B) (1) 貧乏人は金持ちと同じことをしても非難されるものだ (2) 金持ちの大きな咎は不問にされ貧乏人のつまらぬ失敗は罵られるものだ (B.T.) 身分が違うと同じことをしても世間の対応は違うものだ。(3) 身分の高い人の短所は長所になり身分の低い人の同じ短所は非難される (Fa.2) (4) 金持ちはその富で多くの無作法が覆い隠される (Fa.1)

[310] अरधी में कंधा देगा तो खाकर ही आयागा, कुछ देकर नहीं (B.T.)

(A) 棺架を担ぐのであれば (帰りにには供養のお膳で) なにかは食べて来るだろう。なにかを差し出して戻るのはあるまい (B) 人は何事も自分の利益を求めて行動するものだ

(N) アルティー (अर्थ) とはヒन्दूが遺体を火葬場へ運ぶのに用いる竹などで作られた担架

[311] अरध तजहिं बुध सर्वसु जाता (B.T.)

(A) 全部を失うような際には賢者は半分をあきらめる (B) 少し失っても大損害を防ぐのが賢明な道である

(N) आधा तजे पंडित, सर्वस तजे गँवार (Fa., B.T., Kah., चंपा° 1, 2; शाहा° 2) (A) 賢者は半分をあきらめ (残りの半分を得るが) 愚か者は (少しを惜しんで) すべてを失うことになるものだ

[312] अरबी न फ़ारसी, बाबू जी बनारसी (B.T.)

(A) アラビア語も知らずペルシア語も知らず旦那はバナーラスの人 (B) 知恵も取り柄もない人が大法螺を吹くことを揶揄する表現

(N) (1) 近代になってアラビア語やペルシア語の重要性が英語に取って代わられたが、それまでは北インドでは両言語は教養ある人たちには必須のものであった (2) =अंग्रेजी न फ़ारसी, बाबू जी बनारसी (B.T.). (3) =अंग्रेजी न फ़ारसी भैया जी/ मियाँ जी बनारसी (B.T.). (4) अंगरेजी न फ़ारसी बाबू जी/भैया जी/मियाँ जी बनारसी (Kah., मुज° 2) (A) 英語やペルシア語を知らず自らをバナーラスの住人と名乗る (B) 取り柄のない人間が大きな口を叩いたり空々しい派手なことをするのを揶揄する言葉 → [3]

[313] अरहर की टट्टी गुजराती ताला (B.T.) अरहर की टट्टिया और गुजराती ताला (Fa.)

(A) 幹とは呼べないようなキマメのひよわい幹でこしらえた戸に (上等な) グジャラートの錠を取り付ける (B) つまらぬものや安物に付属品として高価なものや不釣り合いなものを取り付ける愚かしさのたとえ

(N) (1) キマメ (木豆 अरहर マメ科一年生もしくは多年生の低木で 1.2~3m の丈になる) の幹には強度や硬さはないから本来戸や衝立の材料として役立つものではない (2) グジャラートはパキスタンのパンジャブ州の州都ラーホールに北方約 70 マイルに位置する中世の城塞都市で現在は工業都市。(3) अरहर की टट्टिया, औ गुजराती ताला (A.V.) (B) 目的に向かったの不釣り合いな行為の愚かしさのほかにも見えも揶揄されている

[314] अर्ध रोग हरे निद्रा, सर्व रोग हरे क्षुधा (B.T.)

(A) 眠りは病気の半分を取り去り空腹感は病気のすべてを取り去る (B) 眠れるようになれば病気は半分は癒え, 空腹を感じるようになれば病気はすべて癒えたものと思え

[315] अलख पुरुष की माया, कहीं धूप कहीं छाया(Fa., B.T.)

(A) 神のなせる業、日の照るところもあれば日の陰ところもある (B) 神のなせる業は人知の及ばぬものである。幸せに満たされる人もあれば悲しみに沈む人もある

(N) (1) अलख पुरुष की माया, कटै ई धूप कटै ई छाया(Raj.) (A) 神の現出する幻力。日向があれば日陰もある。(B) (a) 幸いがあれば不幸があり、安らぎがあれば悩みがあり、笑いがあれば嘆きがある。これらはすべて神の幻力が創り出すものである。(b) この世にある様々な現象はすべて神の遊戯であり神の造り給うところである。(2) भगवान के माया कहीं धूप कहीं छाया(Kah., शाहा° 2) (B) 苦のあるところがあれば楽のあるところもあるのはすべて神のなせる業である

[316] अल खामोशी नीम रजा(Fa., B.T.)

(A) 無言は半ばの同意 (B) 問われて返事のないのは賛同したのと同じ

[317] अलबेली ने पकाई खीर, दूध की जगह डाला नीर(Fa., B.T.)

(A) 間拔けな女がこしらえたキール、牛乳の代わりに水を入れた (B) (1) 利口ぶることはするのだが、なにもわきまえない女性のたとえ (Fa.2) (2) 間拔けで不器用な女性はなにをさせても駄目なものだ (B.T.)

(N) キールは牛乳に砂糖を加えて煮た粥。乳粥

[318] अला-बला बंदर के सिर(B.T.)

(A) 厄介なことや縁起の悪いことは猿(の頭)に(移す) (B) 弱い者はわけもなく悪いことや不運なことの責任を問われるものだ

(N) बंदर के सिरについては तबले की बला बंदर के सिरを参照のこと。これは昔厄除けや伝染病の予知のためとして既に猿を飼育していたことに基づく諺である。

[319] अल्प विद्या भयंकारी(B.T.)

(A) 少々(の)学問を修めていることはかえって危険なことのたとえ (B) 半端な知識がかえって危険をもたらすことのたとえ【生兵法は怪我の基】

(N) (1) A little knowledge is always dangerous. (B.T.) A little knowledge is dangerous thing(E.E.P.) A little learning is a dangerous thing(E.E.P.) (2) =नीम हकीम खतराए जान. (B.T.)

[320] अल्पाहारी सदा सुखी(B.T.)

(A) 少な目に食べる人は常に幸せである (B) 【腹八分に医者いらず】

[321] अल्ला तेरी आस और नज़र चूल्हे के पास (B.T.)

(A) 神頼みの傍ら目はかまどに向け (B) 真心からの信心を持たない人のたとえ

[322] अल्लाह अल्लाह खैर सल्लाह (B.T., Fa.)

(A) 無事に終わったことを神に感謝 (B) (1) 所期の目的が無事に達成された時に言う言葉 (2) 終わりよければすべてよし

(N) (1) イスラム教徒の間に行われる諺 (Fa.) (2) All is well that ends well. (B.T.)(E.E.P.) 【終わりよければすべてよし】

(N) अल्ला-अल्ला खैर सल्ला (Raj.) (B) (a) 神の慈悲によりすべてよし (b) 儀礼的に過ぎるだけのこと (c) 派手な振る舞いをする人のたとえ

[323] अल्लाह का दीया सिर पर (Fa.) अल्लाह का दिया सर पर(B.T.)

(A) 神からの授かりものは頭の上に (B) (1) 神から授かったものは有り難く受け取るべきである (Fa.2, B.T.) (2) 運命には従わざるを得ない

(N) (1) これはなぞなぞの一つでもある。दियाはランプの意でもあるから地口であり、「神様のランプ、すなわち、月は私たちの頭の上」の意にもなる。(Fa.1) (2) =खुदा का दिया सर पर (Fa.1).

[324] अल्लाह का नाम लो (B.T.)

(A) 神の名を唱えよ。神を恐れよ。(B) 本当のことを言え。嘘をつくな。正直に言え。

(N) =राम का नाम लो (B.T.)

[325] अल्लाह की चोरी नहीं तो बंदे का क्या डर (B.T.)

(A) 神に隠し立てすることがないのであれば人を恐れることはない (B) 良心に恥じることがなければなんにも恐れることはない

[326] अल्लाह दे अल्लाह दिलावे, बंदा दे मुराद पावे (Fa., B.T.)

(A) アッラー (神) は直接に与え、あるいは、人の手を介して与える。人は与えれば神の恵みを得る (B) (1) 神は与え、人に与えさせるが、人は自分が得るものを与えるものだ (Fa.1) (2) 人は施しをすれば神はその人の願いを聞き入れる (Fa.2) (3) 与えるのは神のみ。人はなにかを得るために与えるのだ (B.T.)

(N) イスラム教徒の女性の間に行われる諺 (Fa.1) (2) 乞食が物乞いをする際に発する言葉 (Fa.2)

[327] अल्लाह दो सींग दे तो वह भी कबूल है (B.T.) अल्लाह दो सींग देवे, तो वह भी कबूल है (Fa.)

(A) 神が 2 本の角を下さるのならばそれも我慢する (B) 不幸に見舞われた人が神意に従う諦めの気持ちを述べる言葉

[328] अल्लाह यार है तो, बेड़ा पार है (Fa., B.T.)

(A) 神の味方があれば無事に危難を乗り越えられる (B) 神が味方なら成功疑いなし。神の味方があれば何事も成る

(N) (1) God helps them that help themselves. (B.T.) God helps those who help themselves (B.E.P.)

【天は自ら助くる者を助く】 (2) अल्लाह यार तो बेड़ा पार (Raj.) (B) (a) アッラーの慈悲があれば一切の障害はひとりでなくなるものだ (b) アッラーを凌ぐ友はなし

[329] अवसर चूकी डोमनी गावे ताल-बेताल (B.T.)

(A) 吉祥の時刻を逃したドームの女は調子外れの歌を歌う (B) (1) 時機を失すると何事もうまく行かぬものだ (2) 好機を逃した人は後悔することになる (Fa.2) (3) 心の動揺からしくじる人のことを言う (Fa.1)

(N) (1) ドームとはジブシー、もしくは、ロマと呼ばれる人たちの起源となったとされるインドのカーストの一つで歌舞音曲の放浪芸やその他様々な生業を営んできた。(2) ओसर चूकी डोमणी, गावे आळ-पताळ (A) 吉祥の時刻を逃したドームの女は十分な心付けが貰えるかどうか気になって調子外れの歌を歌うことになる (B) 好機を逃すと気が動転してしまうものだ

[330] अवसर पर हाथ आए सो ही हथियार (B.T.)

(A) その時に手に入ったものが武器 (B) (1) なんであれその時に手に入ったものを武器と知れ (2) その時に役立つものが一番すぐれた道具だ (N) औसाण आवै जकौ ई हथियार (Raj.) (A) 好機に手に入ったものが武器 (B) (a) つまらぬものでも好機に手に入ればすぐれたものだ (b) 物よりも時に価値がある

[331] अव्वल ख़ेश बाद हू दरवेश (B.T., Fa.)

(A) まずは自分にその後ダルヴェーシュに (B) まずは自分のためを考えその後に他人のことを考えるべきだ

(N) (1) これはペルシア語の諺である。(Fa.1) (2) ダルヴェーシュ、もしくは、デルヴェーシュはイスラム教神秘主義教団に属する托鉢の修行僧のことであるが単なる乞食の意にも用いられる。(3) =अपनी फ़िर पहले, पहले आप फिर बाप. (4) Charity begins at home (Fa.1, D.E.P.) 「慈愛は自分の家から始まる」には「その後は他人のため」の意があるが、ここでは「自分のため」に強調がある。

[332] अस्तबल की बला बंदर के सिर (Fa.) ↔ अला-बला बंदर के सिर; तबले की बला बंदर के सिर

[333] अहमद की दाढ़ी बड़ी या मुहम्मद की ? (Fa.)

(A) अगोहियाह अफमादのほうが長いカムハンマドのが長い (B) どうでもよいことや自分には関わりのないことのとえ

(आ)

[334] आँख ओट पहाड़ ओट (Fa., B.T.)

(A) 目に見えないところは山の陰と同じ

(B) 会うことのなくなった人は山の陰に隠れたのも同然だ

(N) (1) = आँख ओझल पहाड़ ओझल; आँख से ओझल मन से दूर; आँख से दूर दिल से दूर. Out of sight, out of mind (Fa., B.T.) 【去るものは日々に疎し】 (2) ブラジパーシャー語地域での表現はどぎついものだ आँख से बाहर मरे बराबर (B.T.) (A) 見かけなくなった人は死んでも同然 (3) आँख अदीठ परबत ओढे (Raj.) (A) 目に見えなくなったものは山の陰に入る (B) (a) 見せかけだけの愛情は相手が見えなくなると消え去るものだ (b) 触れ合いが続いてこそ親しみは保たれるものだ (4) आँखी से भइल ओट तइ मन में आइल खोट (Kah., शाहा° 2) (B) 近くにいればこそ心が通い合うものだ

[335] आँख का अंधा, गाँठ का पूरा (Fa., B.T.)

(A) 目が見えないが懐中にはたつぷり (B) (1) 金持ちだが愚かな客 (が来てくれますように) (バニヤの朝の祈りの言葉) (Fa.1) (2) 金持ちだが愚かな人のたとえ (B.T.) (3) 金蔓としても利用される愚かな金持ちのたとえとしても用いられる (B.T.)

(N) आँख के अन्धा गाँठ के पूरा (Kah., शाहा° 2) (A) 目が見えないが懐にはたつぷり金がある人 (B) 金は持っていて知恵のない人のことをたとえて言う

[336] आँख का अंधा, नाम नैन सुख (B.T.)

(A) 目が見えないのに名はナインスク (B) 名と実が相反することを揶揄する言葉

(N) (1) ナインスクとは「目の喜び」であるが、この脈絡では「目の喜びを得ている人」の意。他にモスリンの一種の呼称であり、また盲人の婉曲な呼称でもある (2) (Kah., शाहा° 2; सा° 2) は (B.T.) と全く同じ表現を掲げているが नयनसुख の意を「目の喜びを得ている人」「目に喜びを与える人」の意を注記している

[337] आँख कान में चार अंगुल का फर्क है (B.T.)

(A) 目と耳との間には 4 アングルの隔りがある (B) 見ると聞くとでは違いがある。自分が目で確認したことのないものについて聞いただけで信用してはならないものだ。耳よりも目からの情報を重んじることが大切である

(N) (1) アングル अंगुल とはここでは指の横幅の意で腕尺の 24 分の 1 の長さのこと (2) आँख कान में चार अंगुल सौ आंतरौ (Raj.) (B) (a) 目で見たことと話で聞いたこととは大違いだ。聞いたことは間違っていることがあり得るが目撃したことには間違いがないものだ (b) 見たことがなく耳にしかただけのことを信用してはならない (c) 耳よりも目のほうが確かだ

[338] आँख के आगे नाक, सूजे क्या खाक ? (Fa.1)

(A) 目の前に鼻があれば見えるはずがない (B) 自分の弱点を隠すために他人をだまして自分と同じような状態にしようとするたとえ

(N) 諺話あり。 (1) 鼻の欠けた男が邪魔な鼻がなくなったので妖精ばかりか神様までも見えるようになったと語り、尻尾を失った狐のように人に鼻を削ぐように勧めた。裏切られた人たちが文句を言うとその男は鼻のないことが自分たちの一派では自慢できる立派なことだと話した。だれしも

自分の弱みを見せたくないで新しい鼻欠け一派がすぐれているとして皆は仲間を増やすのに努めた (2) 鼻の欠けた男が鼻欠け者たちの一派を興そうとして自分に神が見えるのは鼻が欠けているからとしてこのように言った。それを真似た人たちは神を見ることはできなかったが自らの愚かしさを恥じて同じことを触れ回ったためにこの一派は盛んになった (B.T.) (3) 尻尾を失った狐とは英語の次の諺に述べられているものである The fox that had lost its tail would persuade others out of theirs 【及ばざるはそしる】 (D.E.P.)

[339] आँख देख के साख क्या पूछना (B.T.)

- (A) 目で見ておいて証拠を求めるものか (B) 目で見たことに証拠は要らぬ
(N) आँख देखीं साख पूछीं (Kah., चंपा° 1) (B) 目で見たことに証拠は要らぬものだ

[340] आँख न कान, करें दुकान (B.T.)

- (A) 目も見えず耳も聞こえぬのに商いをするとは (B) 物事をなすにはその能力が欠かせぬものだ
(N) आँखि ने कान बीच में दोकान (Kah., मुज° 2)
(A) 目も見えず耳も聞こえぬのに道端で商いをする (B) でたらめなことをする人を揶揄する言葉

[341] आँख फड़के दहिनी, मैया मिले कि बहिनी। आँख फड़के बाई, भैया मिलें कि साईं (Fa.2)
आँख फड़के दहिनी, मैया मिले कि बहिनी। आँख फड़के बाई, भैया मिले कि साईं। (B.T.)

(A)(B) 右目の眼が小刻みに動けば母親か姉妹に会える。左目の眼が小刻みに動けば兄弟か夫に会える (Fa., B.T.)

(N) (1) 女性の間に伝えられる俗信である (Fa.1) (2) 内容からこの諺には里帰りの日や婚家で兄弟の訪れを待ちこがれる女性の強い気持ちが込められていると考えるべきだろう (3) आँख फरूके आलीजा घर आव (Raj.) (A) 「眼がぴくぴく動いています。(あなた) 早く家に戻って下さいね」なお、この注によれば女性の左目の眼と男性の右目の眼が小刻みに動くことは吉兆とされている (4) आँख फरके बाई भैया मिलसु की साईं (Kah., शाहा° 2) (A) 左目の眼が小刻みに動けば兄弟か夫に会える (B) 女性にとってこれは吉兆である

[342] आँख फूटी पीर गई (Fa., B.T.)

(A) 目は潰れたが痛みはなくなった (B) (1) 大切なものでもいつまでも悩みや苦痛の種となるものはなくなったほうがよいものだ (2) 激しい苦痛がすっかりなくなるのであればその痛みの元がなくなればよい

(N) आँख फूटी अर पीड़ मिटी (B)(a) 役立つものでも苦痛を与えるようになればそれがなくなったほうがよいものだ (b) 損害は被ったが災難からは免れた (c) 絶えることのないいざこざやめごとから解放された際に自分を慰める言葉

[343] आँख फूटी तो फूटी पर पड़ोसिन का असगुन तो हुआ (B.T.)

(A) わが目が潰れはしたが近所の女の不幸にはなった (B)(a) (不吉な潰れた眼を見せて) 他人に害を及ぼすにはたとえ自分が大損害を被ろうとも気に留めない人のたとえ (b) 恥知らずな人のたとえ

(N) = आँख फूटे तो फूटे पड़ोसिन का असगुन तो करना है (B.T.).

[344] आँख फूटेगी तो क्या भौंह से देखेंगे (Fa., B.T.)

(A) 目が潰れたら眉で見るといえるのか (B)(1) 他人の仕事はだれもが代わってすることはできないものだ (B.T.) (2) 大人の仕事を子供が代わってすることはできないものだ (B.T.) (3) 一家の稼ぎ手がいなくなったらどうして暮らすのだ (一般に夫のことを悪く言う息子の嫁について言う)

[345] आँख भींच अँधेरा करे, उसका कोई क्या करे (B.T.)

(A) わざと目を閉じる人をなんとする (B) とぼけたり怠けたりする人には対処のしようがない
(N) आँख्यां मींच'र अंधारो करै, ज़िणरौ कोई काँई भरै ! (Raj.) (A) 目を閉じて見ようとしぬ人をするのでございましょうか (B)(a) 日の光がある中で目を閉じて見ようとしぬ人にはためになる

ことをしてやることはできないものだ (b) 明々白々の真実を無視しようとするもののたとえ (c) 否応なしに現実を避けようとするもののたとえ

[346] आँख में किरकिरी नहीं सही जाती (B.T.)

(A) 目に入った砂粒は (小さくても) 我慢できないものだ (B) たとえちっぽけな敵であろうとも敵は敵。敵は根こそぎやっつけなくてはならないものだ

[347] आएगा सो जाएगा (B.T.)

(A) (この世に) 来る人は (この世から) 去るものだ (B) 生まれた人は死ぬものだ
(N) 愛しい人の死を悲しむ遺族や親戚を慰めるのに用いられる表現

[348] आग और दुश्मन को छोटा मत समझो (B.T.) आग और बैरी को कम न समझो (Fa.)

(A) 火と仇を小さいと思うな (B) 火と仇を侮るな。火と仇はいつなんどき危険を及ぼすか知れないものだ

[349] आग और पानी को कम न समझो (Fa., B.T.)

(A) 火と水を侮るなかれ (B) 火と水はいつ広がり大きくなるかも知れない危険なものだ
(N) आग अर पाणी नै कम समुझ्यां हांण (Raj.) (A) 火と水を見くびると損害を被る (B)(a) いずれの危険に対しても十分に備えをしなくてはいけないものだ (b) 危険を見くびってはならない (c) 敵を侮るなかれ

[350] आग और फूस का बैर है (Fa.) आग और फूस का बैर है (Fa.2, B.T.)

(A) 火と藁との敵対関係である; 火と藁の仲 (B) (1) 男と女の関係は火とわらの関係 (警戒しなくてはいけないものだ) (Fa., B.T.) (2) 人との付き合いには用心せよ (B.T.)

[351] आग कहते मुँह नहीं जलता (B.T.)

(A) 口で火というだけでは火傷にはならない (B)(1) 口で言うだけでは効果はないものだ (2) 神の名は心から唱えるべきだ (そうでないと無意味なことになる)

[352] आग का जला आग ही से अच्छा होता है (Fa.) आग का जला आदमी आग ही से अच्छा होता है (B.T.)

(A)(1) 火傷は火でよくなるものだ (Fa.) (2) 火傷をした人は火でよくなるものだ (B.T.) (B) (1) 人には相手に相応した対応をなすべきである (B.T.) (2) 用いて害のあったもので楽も得られるものだ (Fa.2) (3) 損害の生じることで儲けも生じるものだ (B.T.)
(N) Like cures like (Fa.1) 【毒をもって毒を制す】 (D.E.P.)

[353] आग का पुतला आग को धाये (B.T.)

(A) 火で創り出されたものは火に赴くものだ (B) 人は死んで五大に戻るものだ

[354] आग के आगे सब भस्म है (Fa., B.T.) (A) 火の前ではすべてが灰 (B)(1) 火に遭えば一切は灰になる (2) 怒る人にはだれも立ち向かえないものだ (3) 弱者は強者に立ち向かえないものだ

[355] आग को आग मारती है (B.T.)

(A) 火を消すのは火 (B) 悪者を制するのは悪者 【毒をもって毒を制す】

[356] आग खाए सो अंगारे हगेगा (Fa.) आग खाएगा सो अंगार हगेगा (B.T.)

(A) 火を食う者はおき (熾) を灰から出す (B) 悪事を働けばその悪い結果も被るものだ。人は自分の行為の結果を負わなくてはならないものだ

(N) (1)As you brew so drink(Fa.1) は As he brewed, so let him drink 【因果がつくばう】と同じであろう (2)They that sow the wind and reap the whirlwind(B.T.) は Sow the wind and reap the whirlwind (E.E.P.) 【自業自得；身から出た錆】と同じであろう

[357] आग खाए मुँह जरे, उधार खाए पेट जरे (Fa.) आग खाए मुँह जरे, उधार खाए पेट जरे (B.T.)

(A) 火を食べば口を火傷し借金暮らしをすれば腹を火傷する (B) 借金もしないがよい

[358] आग खोलते पानी से भी बुझ जाती है (B.T.)

(A) 火は熱湯をかけても消えるものだ (B) 訓育や育ちは身について離れないものだ

[359] आग घास साथ हों तो कुछ होके रहेगा (B.T.)

(A) 火のそばに草があればきつとなにかが起こるものだ (B) 男と女が近くにいればきつとなにかが起こるものだ

[360] आग जले तो जल को कहूँ, जल जले तो किसको कहूँ(B.T.)

(A) 火が燃えれば水を呼ぶ。水が燃えればだれを呼ぶ (B)(1) 金の不自由のない人は人助けができるが、その本人が困ったときにはだれも助けられないものだ (2) 下っ端の人が過ちを犯せばその上の人に言うことができるが上の人が過ちを犯せばだれがたしなめることができようか

[361] आग पानी का बैर है (Fa., B.T.)

(A) 火と水の対立関係 (B)(1) 対立しあうものの関係。そりが合わないもの同士のとえ。水と油の関係 (2) 不倶戴天の敵対関係のとえ。犬猿の仲

[362] आग फूँके चिनगारी पाए (B.T.)

(A) 火を吹いて火の粉を得る (B)(1) 苦勞して手に入れたものを大切にするとえ (2) よからぬ人間に触れれば火の粉を浴びることになるものだ

[363] आग फूँके, राख चाटे, सो तापे (B.T.)

(A) 火を吹き灰を舐めた人が火に当たるものだ (B) なにかを得るためにはなにかの代償を支払わなければならないものだ。楽をして得られるものはない

[364] आग बिन धुआँ नहीं(Fa.) आग बिना धुआँ नहीं(B.T.)

(A) 火がなければ煙はない (B)(1) 【火のないところに煙は立たない】(Fa., B.T.) No smoke without fire(D.E.P.) (2) なにごともその起こるわけや根拠があるものだ (Fa.2, B.T.)

[365] आग बोई है तो आग ही उपजेगी (B.T.)

(A) 火を播いたなら火しか生えないものだ (B) 【悪事身にとまる】【身から出た錆】

[366] आग में मूत या मुसलमान हो (Fa., B.T.)

(A) 火に小便をかけるかイスラム教徒になるか (B) どうしても助かりようのない苦境に陥ることのとえ

(N) この諺はヒन्दू教徒にイスラム教を強制したムガル朝の専制支配に起源を発するものである。ヒन्दू教徒は火を神様と考えるので小便をかけることはない (Fa.1)

[367] आग लगते झोपड़ा जो निकले सो लाभ (Fa., B.T.)

(A) 家の火事では焼けずに持ち出されたものはなんであれ儲けものだ (B) 大損害の生じるような際にはどのようなものであれ助かったものは大変有り難いものだ

(N) (1)आग बळते झपडै नीसरै सो ई लाभ(Raj.) (B) すべて失ってしまいそうな時に助かったものは有り難いものだ (2)आग लगन्ते झोपड़ा जे निकले से पाय(Kah., पट०2; चंपा०; शाहा० 1)

[368] आग लगाकर जमालो दूर खड़ी (B.T.)

(A) ジャマーローは放火しておいて遠くに離れて見ている (B) 人を争わせては自分は高みの見物をするような人のたとえ

(N) (1) ジャマーローは女性の名前 (B.T.) (2) अगिया लगाइ छैउडी बर तर ठाढ़ (Kah., चम्पा० 1, 3) (A) 火を放ってバンヤンジュのそばに立って (見物して) いる小娘 (B) 人を争わせておいて自分は離れたところでそれを見物して楽しむたえ (3) आग लगाय के जागो अलगे खडी (Kah., मुँ० 1) ジャーゴとは女性の名。 (B.T.) はこの諺は次の (Fa.1) と同一のものだとするが、(Fa.1) の説明する花火のことを考えれば起源的には異なるものであろう (4) आग लगाए तमाशा देखे (Fa.1) आग लगा तमाशा देखना (Fa.2) 自分の家に火を放って見物する (b) (a) 全く愚劣な振る舞いのたえ (Fa.1) (b) 花火に大金を費やすなどの派手になどに浪費するたえ (Fa.1) (c) 二人を争わせて自分は知らぬ顔をするたえ (Fa.2) (d) 結婚式などの際に派手なことをして浪費をするたえ (Fa.2)

[369] आग लगाकर पानी को दौड़े (B.T.) आग लगाए पानी को दौड़ना (Fa.1) आग लगा पानी को दौड़ना (Fa.2)

(A) 自ら火を放ってその火を消しに走る (B)(1) 人を争わせておきながら仲裁を買って出て評判を取るような人のたとえ (B.T.) (2) 偽善的な振る舞いのたとえ (Fa.)

[370] आग लगे तेरी पोथी में, दिल है मेरा रोटी में(B.T.)

(A) お前の本などどうでもよいわ。わしの思いはパンにある (B) (1) 人はひもじくなると何も手につかなくなるものだ (2) 人はみなそれぞれに自分の得になることしか気にしないものだ

[371] आग लगे तो घर बतावे (Fa.) आग लगे तो धूल बतावे(B.T.)

(A)(1) 火が燃えているのに煙だと言う (Fa.1) (2) 火が燃え煙が立っているのに土埃だと言う (Fa.2, B.T.) (B)(1) 人を欺くたとえ (Fa.1, 2) (2) 人をだまし自分をだますたとえ (Fa.2)

[372] आग लगे पर कआँ खोदना (Fa.) आग लगे पर खोदे कआँ (B.T.)

(A) 火事になってから井戸を掘る (B) 【泥縄】

(N) (1)(Fa.1) は To shut the stable door when the horse is stolen と説明を加えているが、これは It is too late to shut the stable-door when the steed is stolen(D.E.P.) と同じ諺として用いられるものであろう (2)आग लगला पर कुआँ ना खनल जाले(Kah., चंपा. 1) (A) 火事になったら井戸は掘れないものだ (B) 危機に向かつては予め備えをしておかなくてはいけないものだ

[373] आगा से पीछा भारी होता है (B.T.)

(A) 前方より後方のほうが重いものだ (B) 何事も始めるのは易しいが完成させるのは難しいものだ。何事をなすにも十分な準備が必要だ

[374] आगिल खेती आगे आगे, पाछिल खेती भाग जावे (Fa.1, E.) आगिल खेती आगे-आगे, पाछिल खेती भागे जागे (B.T., Fa.2)

(A) (1) 農業は季節に遅れないようにすればよいが、作業が遅ればだめになるものだ (Fa.1) (2) 農業は季節に遅れぬようにすればうまく行くものだ。作業が遅れても収穫があればそれは運がよかったと考えるがよい (B.T., Fa. 2)

(N) (1) Offence is the best defence (B.T.). 【攻撃は最上の防御】 (D.E.P.). 【攻撃は最大の防御】 【先手必勝】 (E.E.P.) (2) → [68] अगहर खेती अगहर मार, घाघ कहै तौ कबहूँ न हार, आगे की खेती आगे-आगे पीछे की खेती भागे जागे. (Av.) (3) आगिल खेती आगे आगे पाछिल खेती भागे जोगे (Kah., शाह). 1) (B) 農作業は早めにすればうまく行くが遅れれば運が良くなければだめになるものだ

[375] आगे आत्मा पीछे परमात्मा (B.T.)

(A) 自分が先、神様は後 (B) 腹が満ち足りてこそなにごとも受け入れられるものだ。まずは自分の腹を満たすことが肝要でその他はその後ですればよい

(N) これは पहले भित्तर, तब देवता पित्तर 「まずは自分の内, 神様と先祖はそれから」(Fa.1) と同類のものと思われる。ただ (Fa.1) はこれを पहले अपनी ही दाढ़ी की आग बुझाई जाती है 「まずは自分のあごひげについて火が消される」 Charity begins at home 【慈愛はわが家から始まる】と同義だとする

[376] आगे की भैंस पानी पीए पीछे की पीए कीचड़(B.T.)

(A) 先に来た水牛は水を飲み後に来た水牛は泥水を飲む (B) 飲食の場では遅れて来た人は残り物しか食べられないものだ。つまり機敏な人が得をすることのたとえ

(N) (1)Bones for the late comers (B.T.) は英語の諺としてこれを掲げているが, これは Late come, ill lodged(D.E.P.) と同じものか。 (2)आगू के भैंसा पानी पीए, पिछ के चिखला(Chatt.)

[377] आगे कुआँ, पीछे खाई (Fa., B.T.)

(A) 前に井戸, 後ろには溝 (B) 【前門の虎後門の狼】

(N) (1)On the horns of dilemma (Fa.1) 進退窮まった有様 (2)Between the devil and the deep sea (B.T.) 【一難去ってまた一難】 【前門に虎を拒ぎ後門に狼を進む】 (K.K.J) (3) =आगे खाई पीछे कुआँ. (B.T.) (4) आगे नदी पीछे नाला, नही विपत्ति का पारा (B.T.) (5) आगे कूवौ, लारै खाड(Raj.) (B) にっちもさっちも行かない状況のたとえ (6)आगे कुँआ पीछे खाई (Kah., चंपा° 1)

[378] आगे के आगे पीछे के भागे (B.T.)

(A) 先頭的人是に後ろの人は運次第 (B) 先んずれば人を制す

(N) आगा के आगे पाछा के भागे (Kah., मु° 1) (A) 先に立つものが利益を得, 後の者は運次第

[379] आगे खुदा का नाम (Fa., B.T.)

(A) (一切の手を尽くしたので) この先は神の名号 (にすがるだけ) (B) 後は神頼み; 【人事を尽くして天命を待つ】

[380] आगे चलें तो भँडुवा, पीछे चलें तो गँडुवा(B.T.)

(A) 先を歩めば女衒, 後ろを歩めば陰間 (と呼ばれる) (B) いずれにしても不名誉にしかならないことのたとえ

(N) (1)भँडुआ =भडुआ. (2) आगे चले तऽ भँडुआ पाछे चले तऽ गँडुआ(Kah., मुज° 1) どうしても不名誉を被るような状況のたとえ

[381] आगे नाथ ना पीछे पगा, सब से भला कुम्हार का गधा(Fa.1) आगे नाथ न पीछे पगहा, सब से भला कुम्हार का गदहा(Fa.2, B.T.)

(A) 鼻綱もなければしりがいい (鞆) もない。一番良いのは陶工のロバ (B)(1) なんらの束縛も心配もない人のたとえ (Fa.2) (2) 天涯孤独な人のたとえ (Fa.2) (3) 天涯孤独な身は幸せなものだ (B.T.)

(N) (1)(Fa.1) は直訳を記しているだけで意味や用法は説明していない (2)आगे नाथ न पीछे पगहा जैसे लोटे धूर में गदहा(Kah., सा° 1; चंपा° 3; शाहा°; पट° 1) (3)आँगा नाथ ने पाछा पगहा बिना छान के कूदे गदहा(Kah., मुज° 2) (A) 鼻綱もなければしりがいいもない, 繋がれることもないロバはとびはねている (B) なんらの束縛も受けずに自分勝手な振る舞いをする人を揶揄する表現 (4)आगे नाथ न पाछे पगहा (Av.) はこれはロバではなく種牛 साँड のことだとする

[382] आगे पीछे सब चल बसेंगे (Fa., B.T.)

(A) 前になり後ろになり人はみな旅立って行く (B) 人はみないずれこの世を去らねばならない

[383] आगे हाथ पीछे पात (Fa.Wom., B.T.)

(A) 前を隠すのは手, 尻を隠すのは木の葉 (B) 肌を隠す着物さえないような極貧の有様のたとえ

(N)आगे हाथ, लारै पात (Raj.) (A) 前には手, 後ろには木の葉 (B)(a) 赤貧の有様のたとえ (b) 天涯孤独の人のたとえ

[384] आछे दिन पाछे गए, हर से कीया ना हेत। अब पछताए क्या होत है, जब चिड़ियाँ चुग गईं खेत॥ ? (Fa.)

(A) 佳き日々は遠くへ去り行けり ハリ (神) に親しむこともなく 鳥のついでにたる畑をば悔やんだとて何になろう (B) 好機を逃した後で悔やんだとて無駄なことだ

(N) Remember now thy Creator in the days in the days of the youth, while the evil days come not, nor the years draw nigh, when thou shalt say I have no pleasure in them. Eccl. xii. 1(Fa.1) 「若い日の間に、あたたの造り主を覚えなさい。悪しき日が来て、年を取って、『わたしにはなんの楽しみもない』と言うようになる前に」 Ecclesiastes (旧約聖書) 伝道の書 12-1

[385] आजकल शेर-बकरी एक घाट पानी पीते हैं (Fa., B.T.)

(A) 近頃はライオンとヤギが同じ岸辺で水を飲む (B)(1) 世の中が愛情と誠実さに満ちているたとえ (2) 正義に基づいた統治が行われているたとえ (3) 厳格な統治を恐れ民が従順なことのたとえ (B.T.)

(N) The wolf also shall dwell with the lamb (Fa.1.) Isaiah, xi.6 「狼は子羊とともに宿り」 (旧約聖書) イザヤ書 11-6

[386] आज का काम कल पर मत रखो (Fa.) आज का काम कल पर मत छोड़ो (B.T.)

(A) 今日なすべきことを明日に延ばすな (B) 今日の仕事は今日なすべきである。なすべきことは直ちに行え

(N) Never put off till tomorrow what you can do today (B.T.) Never put off till tomorrow what may be done today 「今日できることを明日に延ばすな」 (E.E.P.)

[387] आज का लड़का कल का बाप (B.T.)

(A) 今日の息子は明日の親父 (B) 短時日に出世したり出世して大きな口をきくようになった人を揶揄する言葉

(N) (1) The child is the father of man (B.T.) 「子供時分の根性は大人になっても改まらない」 (2) आज के बबुई काल्ह के नानी (Kah., गाँवघर; शाहा.) (A) 今日の子供は明日はおばあさん (母方の祖母) (B) 瞬く間に出世した人を揶揄する言葉

[388] आज किधर का चाँद निकला है (Fa., B.T.)

(A) 今日のお月さまはどの方角からお出ましじゃ (B)(1) 金持ちが思いがけなく訪れてきた際の挨拶の言葉 (Fa.1) (2) 久しぶりに出会った人に対する挨拶の言葉 (Fa.2, B.T.)

[389] आज के धांपे आज नहीं जलते (Fa., B.T.) आज का धांपा आज ही नहीं जलता (B.T.)

(A) (燃料用に) 今日 (土壩に) 貼り付けて乾かした牛糞は今日は燃えない (B)(1) 行為の結果はすぐには得られないものだ (2) 何事も急いではならない。物事はじっくり時間をかけて慎重にしないてはならないものだ (3) 習い始めの人は役に立たないものだ (Fa.2)

(N) (1) Rome was not built in a day (B.T.) 【ローマは一日にして成らず】 (2) (B.T.) は अगुतइल गुल्लर ना पाके 「せかせせとウドンゲの実は熟れない」を注記しているが、これは次の (B) と同巧のものと思われる。अगुतायल कुम्हार लकड़ी से खने माटी (Kah., चम्पा.) (A) あわてた陶工は木切れで土を掘る (B) 「あわててなにかいい加減なことをするたとえ」

[390] आज के बनिये कल के सेठ (Fa., B.T.)

(A) 今日のバニヤー (小商人) が明日はセート (豪商) に (B) (1) 常に状況の変化するものについて言う (B.T.) (2) 小商人が大商人になるのが商売の世界だ (Fa., B.T.) (3) 商売の世界は変わりやすく安定しないものである。この逆も起こり得ることなのだ (B.T.)

[391] आज चाँदी है तो कल कोयला है (B.T.)

(A) 今日が銀なら明日は炭にもなる (B) 【人の一生はあざなえる縄の如し】 【禍福はあざなえる縄の如し】

[392] आज ज़बान खुली है कल बंद (B.T.)

(A) 今日は回る舌が明日は止まる (B) 人生は儚いものだ；人生の儚さのたとえ

[393] आज तो भगवान ही मालिक है (B.T.)

(A) もはや神様の御加護にすぎるのみ (B) 不意に不幸や災難に見舞われて希望の見つけられない状況で発せられる言葉

(N) (1) आज तो राम ई रखाळौ है (Raj.) (A) 今やラーム（神様）だけが守護者 (B) 突然の災難に襲われ絶望的な状況に陥った時の言葉 (2) आज ते राम रखवाली है (Raj.) (A) 無法の罷り通る世の中では今や神のみが守護者（となる） (B) 支配者が苦しみを与えるとなると神にすぎるほか道はなくなる

[394] आज नहीं कल (Fa., B.T.)

(A) 今日ではなく明日 (B) 引き延ばしを図る人に対して用いられたり引き延ばしを図る人が言う言葉

(N) 諺話あり。大変信心深いイスラム教徒がいた。男は毎夜のように木の下で、どうか私を天に引き上げて下さいとお願いしていた。ある時、ひょうきん者が木の枝に腰を下ろして綱を下げ男を引き上げようとしたが、男は「今日ではなく明日」と言ったという (Fa.)

[395] आज नाच मेरे, तो कल मैं नाचूँ तेरे (B.T.)

(A) 今日はおれのために踊れ、明日はおれがお前のために踊ろう (B) 恩義を受ければそれを返さなくてはならないものだ

[396] आज भिखमंगिन कल पटरानी (B.T.)

(A) 今日の乞食女が明日はお后様 (B) 【人生はあざなえる縄の如し】

[397] आज मरी सासू तो कल आया आँसू (B.T.)

(A) 姑は今日死に涙は明日出る (B) 同情を見せかける人のたとえ

[398] आज मरे कल दूसरा दिन (B.T.) आज मुए कल दूसरा दिन (Fa.)

(A) 今日死ねば明日は明るく (B) (1) 今日おれが死んだら死んだまでのこと。死んだ後のことは知ったことではない。死んだら家族と一緒にいくものか (B.T.) (2) 今日死ねば明日には忘れるものだ。また日常の暮らしに戻るものだ (Fa.) (3) うまい話を持ちかけられたものの何も得られなかった際に自嘲して言う言葉 (B.T.)

(N) (1) आज मर्यौ काले दूसरे दिन (Raj.) (A) 死んだのは今日、明日は明日 (B) (a) 時間は一切を忘れさせるものだ。さればこそ人が死んでも生きている人は生きている。身内の死に一瞬たりとも耐え難かった人の明るく日は過ぎて行くものだ (b) 人の死は一人の人が生まれ昨日死んだという歴史の一コマになってしまうものだ。そして死んだとたんその人の活躍も終わるわけだ

[399] आज मैं कल तू (Fa., B.T.)

(A) 今日はおれ明日はお前 (B) (1) 不幸や災難はいつだれに降りかかるものか知れないものだ (Fa.2, B.T.) (2) 人生の浮き沈み (Fa.1) (3) 人はみないずれこの世を去る運命にあるものだ (Fa.2)

(N) (1) Every dog has his day (B.T.) 「どの犬にも盛んな時があるものだ」 (D.E.P.) (2) 上の (B) と通じるものに次がある आज हमारी, कल तुम्हारी। देखो लोगो, फेरा फेरी (B.T., Fa.) 今日はおれのもの、明日はお前のもの 見よ皆の衆この世の転変を (3) もともと (Fa.1) は次のラテン語の句を用いて説明しているので意味は【女心と秋の空】となるのか Varium et mutabile est famina (→ varium et mutabile semper famina) (4) आज तोहारी काल्ह देखड भाई पारापारी (Kah., शाहा० 2; चंपा० 1) (A) 「今日はお前のもの、明日はおれのもの、よいか世の中のこととは順送りだ」 (B) 世の中は定めなきものなり

[400] आज लपके ककरी, कल लपके बकरी (B.T.)

(A) 今日ヘビウリをかつばらえば明日はヤギをかつばらう (B) 盗みは小さなものから始まるものだ. こそ泥はやがて大泥棒になるものだ

(N) आज गीज्या काखड़ी, भोल गीज्या बाखरी (Ga.) (A) 今日ヘビウリの盗みをおぼえと明日は山羊を盗み始める (B) 小さな物の盗みがやがて大きな物の盗みになって行くものだ

[401] आज सास की तो कल बहू की (B.T.)

(A) 今日とは姑が取り仕切り明日は嫁が取り仕切る (B) 何事も変わらずにいつまでも続くものではない

(N) =आज है सो कल नहीं. (Fa., B.T.) (A) 今日あるものは明日にはない (B) 世の中は移ろいやすいものだ

[402] आज से कल नेरे है (Fa., B.T.)

(A) 今日よりも明日のほうが近い (B) (1) 今日が明日になるのには時間がかからない (Fa.) (2) 明日は必ず来るものであるから将来を案じることが大切だ (B.T.)

[403] आटे के साथ घुन पीसा (Fa.1) आटे के साथ घुन भी पीसा (Fa.2) आटे के साथ घुन भी पीसता है (B.T.)

(A) 麦と一緒にコクゾウムシも粉に碾かれる (B) (1) 貧乏人が金持ちの災難の巻き添えを食うたとえ (Fa.) (2) 大物と一緒にいると小物までもが巻き添えを食うものだ (Fa.2) (3) 非のある人と交じっていると非のない人も巻き添えを食う (B.T.)

(N) With the fall of mighty the feeble also fall (B.T.)

[404] आटे में नमक समा जाता है, पर नमक में आटा नहीं समाता (B.T.)

(A) 小麦粉に塩はおさまるが、塩に小麦粉はおさまらない (B) 嘘もほどほどにしないとばれてしまうものだ

(N) (1) =आटे में नोन, सच में झूठ (B.T.) (A) 小麦粉に塩を混ぜるのは少量、真実に嘘を混ぜるのは少量 (2) 阿て में नमक, もしくは、阿て में नोन とはいディオムでほんの少量のたとえ

[405] आठ कनौजिया नौ चुल्हे

(A) カノウジャヤーのバラモンが8人いればかまどは9つ要る (B) (1) 不仲の関係の多いことのたとえ (2) カノウジャヤー・ブラーフマンの間に飲食に関して浄・不浄の観念の強いことを言う

(N) (1) カノウジャヤーとはカノウジ (現今のカーンプル地方を中心にする) に居住して来たバラモンの集団の一で保守的で飲食などに関する浄・不浄の観念を強く保持してきているとされる (2) カーストに関する諺については [126] において触れたが、特定のカーストの特徴とされるものはこのようにしばしばどぎつく強調される. 次の機織りを主な生業としてきたジュラーハーに関する諺も同巧のものである आठ जुलाहे नौ धुक्का तिसपर भी धुक्कम-धुक्का (B.T.) (A) ジュラーハー8人に対して水キセルは9個ある. それでも取り合い奪い合い (B) ジュラーハーは愚かしくいさかいを好むものだ

[406] आठ गाँव का चौधरी, बारह गाँव का राव, अपने काम न आयौ तौ ऐसी तैसी में जाव (Fa., B.T.)

(A) 八か村のチョウドリーであろうが十二か村のラーオであろうが、自分の役に立たないのであればくたばってしまえ (B) 相手がだれであろうとどんなに偉い人であろうと不親切な人であればどうでもよいことだ

(N) आठ गाँव के चौधरी बारह गाँव के राव। अपने काम न आवैं, तौ ऐसी तैसी माँ जायँ॥ (Av.) はこのような尺度で人を評価する人たちが少なからずいることと見識の狭いことを批判的に述べる傍らこれが金持ちに対する不満や憤りを表明するものとしてかなり実際的な見地であると述べる

[407] आठ बार नौ त्यौहार (Fa., B.T.)

(A) 八日間に九つの祭 (B)(1) ヒンドゥー教の祭礼の多いことをたとえる表現 (B.T.) (2) 贅沢をすることのたとえ (3) 頻繁に祭をすることについても言う (Fa.2)

[408] आठ हाथ ककड़ी नौ हाथ बीज (B.T.)

(A) 腕尺 8 つのヘビウリの種の長さが腕尺 9 つ (B) あり得ない話のたとえ
(N) → [90].

[409] आठों पहर काल का डंका सिर पर बजता है(Fa.) आठों पहर काल का घंटा सिर पर बजता है(B.T.)

(A) 死神の太鼓の音は四六時中頭の上で鳴っている (Fa.) 死神の鐘は四六時中頭の上で鳴っている (B.T.) (B) 人の死はいつ訪れても不思議ではないものだ

[410] आत्मा तब परमात्मा(B.T.)

(A) アートマー (自分の靈魂) の後でパラマートマー (神様) (B)(1) 腹が満ちて初めて何事かを思いつくものだ (2) 腹が満ちて初めて信心が起こるものだ

(N) (1)आत्मा में पड़े तो परमात्मा की सुझे(Fa.) (B) 腹が満ちれば神を思うものだ

[411] आदमियों में नौआ, पक्षियों में कौआ (B.T.)

(A) 人間の中ではノウアー、鳥の中ではカウアー (カラス) (B) いずれも大変奸智に長けている
(N) ノウアー (नौआ) とはナーイー नाई と呼ばれるが主に理髪業を生業としてきたジャーティ (カースト) 参照 → [126], [405].

[412] आदमी-आदमी अंतर, कोई हीरा कोई कंकर (Fa., B.T.)

(A) 人は様々だ。ダイヤもあれば砂利もある (B) 世間には立派な人もいれば下劣な人もいるものだ

(N) आदमी आदमी माँ अंतर, कोनो हीरा कोनो कंकर(Chatt.) (B) 人の性格はみな異なるものだ。同じ家族の中の人たちにさえ天地の差が認められるものだ。その性格でダイヤのように思われる人もいれば砂利のように思われる人もいる

[413] आदमी आदमी का साथ, जानवर जानवर का साथ(B.T.)

(A) 人は人と、獣は獣と (B) 善人と悪人とは反りが合わないものだ

[414] आदमी आदमी है, भगवान नहीं (B.T.)

(A) 人は人、神にはあらず (B) 人はやはり人であり完全無欠ではないものなのだ

[415] आदमी इज्जत बिन कौड़ी का (B.T.) (A) 尊厳なき人は三文の値打ちもないものだ (B) 自尊心を持たない人は死んだがましだ

[416] आदमी का शैतान आदमी है (Fa., B.T.)

(A) 人間にとっての悪魔は人間だ (B) (1) 人間の仇は人間だ (Fa.) (2) 人が人を悪くするのだ (B.T.)

[417] आदमी की कद्र मरने पर होती है (Fa., B.T.)

(A) 人の評価は死んだ後になされるものだ (B) 人は死後に人に称えられ評価されるものだ

[418] आदमी की दवा आदमी है (Fa., B.T.)

(A) 人につける薬は人 (B) 人を正道に導くのは人でしかない

(N) आदमी रौ औखद आदमी !(Raj.) (A) 人間につける薬は人間 (B) (1) 人を正すことができるのは人 (2) 人が一番恐れるのは人である (3) 人を制御できるのは人でしかない

[419] आदमी कुछ खोकर ही सीखता है (Fa.) आदमी कुछ खोकर सीखता है (B.T.)
(A) 人は何かを失ってこそ学ぶものだ (B) 人は躓いたり失ったりして初めて学び成長するものだ
(N) (1) =आदमी ठोकर खाकर समझलता है(B.T.) (2)आदमी ठोकर खाकर समझाहता है(Raj.) (A) 人は躓いてこそ学ぶものだ (B)(a) 失敗して初めて上達するものだ (b) 人は失敗から教訓を得るものだ

[420] आदमी के दो हाथ भगवान के हज़ार (B.T.)
(A) 人の手は2本、神の手は千本 (B) 人間は到底神には及びもつかないものなのだ

[421] आदमी के मारे कोई नहीं मरता (B.T.)
(A) 人は人の手で死ぬのではない (B) 人が何事かをなすのではない。一切は神のなせるわざである

[422] आदमी के मुँह से आग निकलती है (B.T.)
(A) 人の口から火が出る (B) 言葉は慎まなければいけないものだ【口は禍の門】

[423] आदमी को ढाई गज़ कफ़न काफी है (Fa.1) आदमी को अढ़ाई गज़ कफ़न काफी है (B.T.)
(A) 人には2.5ヤールの屍衣があれば十分だ (B) (ヒन्दू教徒には死んだときに着せる) 経帷子があればよい。それ以上には何も要らないものだ
(N) イスラム教徒については次の諺がある आदमी को अढ़ाई गज़ ज़मीन काफी है (Fa., B.T.)
イスラム教徒にとっては(埋葬のための) 2.5ヤードの土地があれば十分だ。その他には何も要らない

[424] आदमी को सौ माफ़, औरत को एक नहीं (B.T.)
(A) 男は百の過ちを赦される。女は一つの過ちも赦されない (B) 男は百の過ちも赦されるが、女はただ一つの過ちも赦されないものだ。女性は一の過ちが一切の尊厳を台無しにするものだから
(N) आदमी ना हो कायदा, लगाई नो एक कायदा (Raj.) (A) 男には百の決まり、女には一つの決まり (B) (a) 封建制度の道德律の下では男女の尺度は同じではなく二重基準だ (b) 女性の尊厳の一切は貞操にかかっている

[425] आदमी क्या जो आदमी को न पहचाने (B.T.)
(A) 人を見分けることのない人は人であろうか (B) 人を敬うことのない人は人ではない

[426] आदमी चमड़े से नहीं पहचाना जाता (B.T.)
(A) 人は肌では見分けられないものだ (B) 人の真価は外見では見分けられないものだ

[427] आदमी तो वही है जो देखकर चले (B.T.)
(A) 足元をよく見て歩くのが人間である (B) 思慮深く行動する人が賢者である

[428] आदमी दो दिन का मेहमान है (B.T.)
(A) 人はこの世を訪れた二日間だけの客だ (B) 人生は儚いものだ
(N) 人の命の儚さをたとえる表現は他にも多数ある आदमी चने का मारा मरता है (B.T.) 人は(はじけた) ヒヨコマメの粒に当たっても死ぬものだ

[429] आदमी ने आखिर कच्चा शीर पिया है (Fa.) आदमी ने आखिर कच्चा शीर/दूध पिया है(B.T.)

(A) やはり生のままの乳(母乳)を飲んだのが人間さ (B) (だから) 人は過ちを犯しやすいものなのだ

(N) インド人はこのような表現で人間の弱さを言う。人間はカッチャーである。カッチャーとは生であり本物になる前で間違いやすいということである。そのわけは人間がカッチャーな乳、すなわち、母親の乳を飲んで育つからだ (Fa.1)

[430] आदमी पानी का बुलबुला है (Fa., B.T.)

(A) 人は水の泡の如し (B) 人生は脆く儚いものだ

[431] आदमी मुश्किल से मिलता है (B.T.)

(A) 人に出会うのはとても難しい (B) 立派な人には滅多に出会うことができないものだ

[432] आधा तजे पंडित सर्वस तजे गँवार (Fa., B.T.)

(A) 賢者は半分を捨てて愚者はすべてを捨てる (B) (1) 賢者は半分を捨てて半分を守るが、愚者は少しを惜しんですべてを失う (2) 節約心のないことや金遣いの荒いことのとえ (Fa.1)

[433] आधा तीतर आधी बटेर (Fa.1) आधा तीतर आधा बटेर (B.T.)

(A) 半分がミフウズラで半分がイワシヤコ (B) (1) どっちつかずのものや入り交じったものなどのたとえ (Fa.) (2) チャンポンになった言葉などについて言う (Fa.) (3) ごたまぜのものやちぐはぐなもの、不揃いのものなどのたとえ (B.T.)

(N) (1) neither fish nor flesh nor good red erring (B.T., D.E.P.) どっちつかずのもの、「海のものとも山のものともつかぬ」 (2) आधा तीतर आधा बटेर (Kah., शाहा° 2) (B) いい加減なことをするたとえ (3) आधा तीतर आधा बटेर (Av.) (B) 色や形などがまぜこぜになって不調和なものや不細工なものなどのたとえ (4) (Av.) इंदुप्रकाश पाण्डेयはこの諺の起源をこの2種類の鳥を闘わせる遊びの場所の広さが異なることに認めている (5) 正確な鳥の名は तीतर はチョウセンミフウズラ、बटेर はアジアイワシヤコである。いずれも遊びに闘鶏のように闘わせるために飼育される

[434] आधी छोड़ सारी को धावे, आधी रहे न सारी पावे (B.T.)

(A) 半分ではなく全部を得ようと突進すると半分は残らず全部は得られず (B) 欲張ってはいけないことのとえ

(N) (1) आधी को छोड़के सारी को धावे, ऐसा डूबे थाह न पावे (Fa.1) (A) 半分を無視して全部を得ようと突進すれば底知れぬ深みにはまる (B) All covet, all lose (Fa.1, D.E.P.) 【大欲は無欲に似たり】 【二兎を追う者は一兎を得ず】 (2) आधी छोड़ आखी नै धावे, ऐडौ डूबे थाह न पावे (Raj.) (B) (a) 常に現状に不満で将来の蜃気楼を追いかける人のたとえ (b) 人は少しのものに満足しなければいけないものだ

[435] आधे वैद्य प्राण के घातक (B.T.)

(A) 半人前のヴァイディヤ (インド医術の医師) は命取り (B) 【生兵法は大怪我のもと】

(N) これは次のペルシア語由来の諺の翻訳であろう नीम हकीम खतरा-ए जान

[436] आन का सिंदूर देख आपन कपाड़ फोड़े (B.T.)

(A) 他人のシンドウールを見て自分の頭を割る (B) 他人の出世や幸せを妬むことを非難する言葉

(N) シンドウールはヒンドゥー教徒の女性が夫が存命の幸運のしるしとして前頭部の髪の毛の分け際に塗る朱のこと

[437] आने का एक और जाने के हजार रास्ते (B.T.)

(A) 来る道は一本、去る道は千本 (B) 収入の途は一つなのに支出は数多く行われることのとえ

[438] आन्हर कूकर बतासे भूँके (B.T., Kah., शाहा° 1, 2, चंपा° 2)

(A) 目の見えぬ犬は風の音にも吠える (B) 愚かな人は取るに足らぬことで不機嫌になり喧嘩を仕掛けるものだ

(N) (1) =अंधा कुत्ता बतासे भूँके (B.T.) (B) 愚かな人は根も葉もない話をよくするものだ (2) =आन्हर कूकर बतासे भूँके. (Kah., शाहा° 1, 2; चंपा° 2) (3) =आंधर कुत्ता बतासे भुक्के (Kah., पट° 1)

[439] आप काज महाकाज (Fa., B.T.)

(A) 自分の手でする仕事が大仕事 (B) 自分の手でしてこそ立派な仕事になるものだ。自分の仕事は他人に任せてはならない

(N) Better do a thing than wish it to be done (B.T.) 「仕事は人に依頼してしてもらうよりも自らするがよい」

[440] आप के पीसे का क्या छानना ? (B.T.)

(A) 自分の手で粉にしたものを篩にかける必要があるのか (B) 自画自賛はよくない

[441] आप खाएँ, बिलाई बताएँ (Fa., B.T.)

(A) 自分が食べたのを猫のせいにする (B) (1) 自分の行為を他人のせいにするたとえ (Fa.1) (2) 抜け目のない人のたとえ (Fa.2) (3) 悪事を働いておいて責任を他人になすりつけるたとえ (B.T.)

[442] आप खाएँ हरकत, बाँट खाएँ बरकत (B.T.)

(A) 一人食べるのは間違い, 分かち合うのは幸い (B) 他人と協調する人は発展を遂げるが, 独り占めをする人や我欲に溺れる人は苦しみを得るものだ

[443] आपघातक, महापातक (B.T.)

(A) 自らを殺める人は大罪人 (B) 自殺は大罪なり

(N) आपघाती महाघाती(Raj.) (A) 自殺は大罪である (B) 自分の身体を毀損する権利は本人にもない

[444] आप घोड़ा ना बाप घोड़ा लातों से सिर फोड़ा(B.T.)

(A) 自分の馬も親父の馬もないのに蹴られて頭に怪我 (B) 自分の力量以上のことを見せようとするとしくじるものだ

[445] आप ज़िंदा जहान ज़िंदा (Fa.1, B.T.) आप ज़िंदा तो जहान ज़िंदा (Fa.2)

(A) 自分が生きていれば世間も生きている (B) (1) 生きていればこそ世間がある【命あつての物種】 (2) 幸せな人は世間も幸せと思うものだ (B.T.)

[446] आ पड़ोसन मुझ-सी हो ! (Fa.1, Wom.) आ पड़ोसिन मुझ-सी हो जा (Fa.2, Wom.) आ पड़ोसिन मुझ-सी हो जा(B.T.)

(A) さあ隣の人, 私のようにおなり (B) 他人の不幸を願う人のたとえ

(N) आ पड़ोस्सन मुझ सी हो (Kaur.) 他人が自分と同じような不幸な境遇に陥ることを願う残酷で敵対的な性格を咎める言葉

[447] आप बेईमान तो जग बेईमान (B.T.)

(A) 自らが不誠実であれば世間も不誠実に感じられる (B) 不誠実な人は他人も不誠実と思うものだ

(N) =आप बैमान तऽ जगत्तर बैमान (Kah., चंपा° 1).

[448] आप भला तो जग भला (Fa., B.T.)

(A) 自分が正しければ世間も正しい (B) (1) 自分が正しければ世間も正しく見えるものだ (2) 正しい人には世間もそのように振る舞うものだ

(N) (1) Good mind good find (Fa., B.T.) (2) अपने भल तऽ जगत्तर भल (Kah., मुज° 2) =अपने भला तो जग भला (Kah.शाहा° 2). (3) आप भला तौ जुग भलौ नीतर भलौ न कोय(Raj.) (A) 自らが正しければ世間も正しい, 自らが正しくなければだれも正しくはないものだ (B) (a) 世間は人の心を映すものだ. 自分が正しければ世間も正しい (b) 世間は自分の心に似るものだ (4) आप भला तऽ जगत्तर भला (Kah.मु° 1) (B) 世間は自分の心のありように応じて見えるものだ

[449] आप भुलाई मेहरी को मारे (B.T.)

(A) 自分が忘れたのに妻を叩く (B) 自分の過ちを他人のせいにするたえ
(N) =आप भूले उस्ताद को लगाय (A) 自分が間違えたのに教師のせいにする

[450] आप मरे जग परलो (Fa.1) आप मरे जग परलौ (Fa.2) आप मरे जग परलै (B.T.)
(A) 自分が死ねばこの世は破滅 (したも同然) (B) (1) 【命あつての物種】 (2) 後は野となれ山となれ
(N) (1) =जान से ही जहान है; जान है तो जहान है; आप मरे सब मर गई दुनिया (B.T.) (2) =आप मरे संसार नास. (Fa.1) (3) Après moi le deluge (Fa.1) After me the deluge (B.T.) 【後は野となれ山となれ】 (4) When I am dead, the world is gone (B.T.) これは次と同じか. When I die the world dies with me 「私が死ぬとき世界も私とともに死滅する」 (D.E.P.)

[451] आप रुच भोजन पराए रुच सिंगार (B.T.)
(A) 食物は自分の好みで化粧は他人の好みで (B) 自分の好みに合った食事をすべきで化粧や装いは他人の好みに配慮すべきである
(N) (1) आप रुच भोजन पर रुच सिंगार (Kah., मुँ० 1; चंपा०) (2) आप रुप भोजन, पर रुप सिंगार (Chatt.) (B) これは化粧法について教える諺である

[452] आप लिखें खुदा बाँचे (B.T.)
(A) 自分の書いたものを神様が読む (自筆のものが読めずに神様にしか読めない) (B) 悪筆のたとえ

[453] आपस की लड़ाई में तीसरे का लाभ (B.T.)
(A) 争えば第三者の利益になる (B) 【漁夫の利】

[454] आप से आवे तो आने दो (B.T.) आप से आवे तो आने दो (Fa.)
(A) ひとりでに來るものは來させよ. 來るものは拒まず (B) 欲に驅られて不誠実なことをすることや言行に矛盾を生じるとえ
(N) 諺話あり. (1) (B.T.) によれば, 肉食をしないことにしていたムスリムが妻が肉汁をよそう際にひとりでに入った肉は取り出さずにそのままにしろ, と言って肉を食べた (2) ヒन्दू教徒はナスを食べてはいけないと説いていたバラモン家にナスがーかご届けられた. バラモンは最初は断ったが, 妻がひとりでにやってきたものは構わないでしょう, と言ったので同意した. (Fa.1) によれば (1) 厳格なムスリムが鳥肉を食べないことにしていたが, 妻が太った雄鶏を捕まえて調理したことを機嫌良く話した. 夫は料理をすべて捨て去るように言ったが, 妻はそれの調理にギーや調味料をたっぷり用いたことを話したので夫は肉汁だけならと応じた. 妻が夫への配慮から慎重に肉汁をすくっていると夫はひとりでに入るものは構わないと言った (2) 古めかしい考えの持ち主であるバラモンが常々ナスを食べるのを禁じていたが, ある日かご一杯のナスを贈られた. 返却するように言われた妻が, ひとりでに來たものは受け取ってもよいと言ったのでバラモンはそれに応じた

[455] आप से गया जहान से गया (Fa.1, B.T.) आप से गया तो जहान से गया (Fa.2)
(A) 自分自身 (の尊嚴) を失った人は世間から去ったも同然 (B) (1) 自分自身 (の尊嚴) を失った人はこの世界を去ったも同然 (Fa.1) (2) 自ら恥じることをした人はこの世から見放されたも同然 (Fa.2) (3) 自分のことを気にかけない人は世間からも相手にされないものだ (Fa.2)

[456] आप ही अपनी कब्र खोदता है (Fa.) आप ही अपनी कब्र खोदते हैं (B.T.)
(A) 自分の手で自分の墓を掘る (B) 自分自身が自分の害になることをするとえ墓穴を掘るとえ. 自分が自分の首を絞めるようなことをするとえ

[457] आप ही काजी, आप ही मुल्ला (B.T.)
(A) 自らがカーギー (裁判官) であり自らがムッラー (学者) である (B) 何かにつけて自分が中心に立ちたがる人のたとえ

[458] आप ही की जूतियों का सदका है (Fa., B.T.)

(A) あなたのお靴のおかげでございます (B) 身分の高い人に対するへりくだった挨拶の言葉

(N) 諺話あり. ひょうきん者のムスリムが割礼式に客人を招いてご馳走をした. 男は使用人に命じて客人の靴を売り払わせた. 客人がご馳走の礼を言ったのに対して男はこう言ったという. 「手前ごときがおもてなしできるはずもございません. これはみなあなた様のお靴のおかげでございます」 (Fa.1, B.T.)

[459] आप ही मियाँ मंगते, बाहर खड़े दरवेश (Fa.) आप मियाँ मंगते बाहर खड़े दरवेश (B.T.)

(A) 物乞いの身の上なのに戸口にはダルヴェーシュ (托鉢僧) が訪れるとは (B) (1) 無力な人に助力を求めるたとえ (2) 甲斐性もないくせに太っ腹を見せようとするたとえ (3) 自らが他人に助力を仰ぐ身でありながら他人を援助できるはずがない

(N) (1) आप मियाँ मंगता, बार खड़या दरवेश (Raj.) (A) 乞食の家の戸口に托鉢僧が立つ (B) (a) 世間に見えを張って見せびらかす人のたとえ (b) 自分の力量以上を見せようとする人のたとえ (2) आप मियाँ मंगनी दुआरे दरवेश (Kah., चंपा. 1, 3; सा. 1) (A) 自分が乞食なのにその乞食の家の門口に乞食が立つ (B) 自分の力量以上のことを見せようとする人を揶揄する言葉

[460] आपा बस में जापा नहीं (B.T.)

(A) 自分は制し得ても子は制し得ず (B) (1) 人は自分を制御することはできても子を制御することはできない (2) 人は自分を制御することはできても子宝はどうすることもできないものだ

(N) आपा बस में, जापा बस में नहीं (Kaur.) (A) 自分は制し得ても子は制し得ず (B) わが子が親の意のままにならぬたとえ. 親子であろうとも性格や性質は異なるのであるから親と子とは別だ

[461] आफ़त चारों ओर से आती है (B.T.)

(A) 災難は四方八方から (続いて) やってくる (B) 【一難去ってまた一難】

(N) Difficulties come in train (B.T.)

[462] आफ़त में भगवान याद आते हैं (B.T.)

(A) 苦難の時に神様が思い出される (B) 【苦しいときの神頼み】

[463] आफ़ताब पर धूको, अपने ही मुँह पर पड़े (Fa.) आफ़ताब पर धूकने से अपने ही ऊपर पड़ता है (B.T.)

(A) お天道様に唾を吐くと自分の顔にかかる (B) (1) 立派な人を嘲ると自分自身が嘲られるものだ (2) 目上の人を侮ると自分が被害を受けることになる 【天に唾す】

(N) = आसमान धूका मुँह पर आता है (Fa.)

[464] आब आब कर मर गया सिरहाने रहा पानी (Fa.1, B.T.) आब आब कर मर गए, सिरहाने रहा पानी (Fa.2)

(A) アーブアーブと言いながら死んでしまったが, 水は枕元にあった (B) (1) 理解しない人たちの前で英語を話すことは愚かしいことだ (2) 気取って他人が知らない言葉で話すことのたとえ

(N) (1) アーブアーブとはペルシア語で「水, 水 (をくれ)」の意. (2) 諺話あり. (a) カールに留学した男が故郷に帰り病気になって水をアーブアーブと言って求めたがだれにもその意味が分からなかった (B.T.) (b) ペルシア語を学んだ男が死に際にアーブアーブと言って水を求めたがだれもその意味を解さなかったので水は枕元にあったのに喉の渇きで死んでしまった (Fa.)

[465] आबरू बचे तो जान जाना तुच्छ है (B.T.)

(A) 名誉が保たれるのであれば命を失うことは取るに足らないことだ (B) 命より名誉が大切だ

(N) = आबरू जग में रहे तो जान जाना पश्म है; आबरू जग में रहे तो बादशाही जानिए (B.T.)

[466] आ बैल मुझे मार (Fa., B.T.)

(A) やあ牛よ突いてこい (B) 自分の方から苦難や面倒なことを招くたとえ
(N) आ बैठ मने मार (Kaur.) (A) さあ来い、牛のやつ (B) (1) 意味もなく苦難を招いて損害を被るたとえ (2) 喧嘩を吹きかけてわが身を危険にさらすたとえ

[467] आम का बौर कलवार की माया जैसे आया वैसे गँवाया(B.T.)

(A) マンゴーの蕾と酒屋の稼ぎはやってきたように出て行く (B) 【悪銭身につかず】

[468] आम के आम गुठलियों के दाम (Fa., B.T.)

(A) マンゴーは果肉は果肉で食べられるし核は核で金になる (B) 何かで二重に利益になる取引のたとえ

(N) (1) これはマンゴーが果肉ばかりでなく核 (胚) が漬け物の材料としても利用されることに基づく諺である (2) good bargain, one that pays any way (Fa.) (3) आम के आम गुठली के दाम (Kah. गाँवघर) (B) 大儲けのできる商いの品のたとえ (4) आब रा आब, गुठली रा दाम (Raj.) (B) (a) 二重に利益の得られる物のたとえ (b) 損害の全く生じる危険のないもの (c) どの部分も価値のあるような仕事をしなくてはならない (d) 何一つ無駄のない物の味わいは格別だ

[469] आम खाने या पेड़ गिनने ? (Fa.) आम खाने कि पेड़ गिनने(B.T.)

(A) マンゴーを食べるのか木の数を数えるのか (B) 本題についてではなくつまらぬことを穿鑿するたとえ

(N) (1) 贈り物を頂いたら詰まらぬことを穿鑿せずに有り難くいただくことが大切だ (Fa.1) (2) =आम खाने से काम, पेड़ गिनने से क्या काम ?; आम खाने से काम या पेड़ गिनने से ? (B.T.) (3) आब खावणा के हँख गिणणा (Raj.) (B) (a) 自分の用のないことを穿鑿することのたとえ (b) 自分の目的が達せられたらそれ以上の穿鑿をすることはない (c) 自分の用が済んだらそれ以上話を進めることは愚かしいことだ (4) आम खइला से काम कि फेड़ गिनला से (Kah., शाहा° 2) マンゴーの実を受け取れ、どこから来たものかどのようにして手に入ったかなどを知る必要があるうか

[470] आम पाल के कटहल डाल के (B.T.)

(A) マンゴーは室のもののジャックフルーツは枝になっているもの (B) (1) マンゴーは室で熟したものがよい (2) ジャックフルーツは枝で熟れたのがよい

[471] आम फले तो नव चले, अरंड फले इतराय (Fa.2) आम फले तो नत चले अरंड फले इतराय (B.T.)

(A) マンゴーは実れば枝がたわみヒマは実ればそりかえる (B) (1) 立派な人は出世すれば丁重になるがいやしい人はふんぞり返るものだ (Fa.) (2) 立派な人は豊かになれば丁重になるがいやしい人は反り返るものだ (B.T.) 【実る稲田は頭を垂れる】 【人間は実が入ると仰向く】

(N) (1) आम फले तो नीचा दबे (A) マンゴーは実ればたわむ (B) 賢者は金持ちになっても学者になっても謙虚な振る舞いをするものだ (2) The wise man in office is humble, Jack in office is offensive (B.T.)

[472] आमों की कमाई, नीबू में गँवाई (B.T.)

(A) マンゴーでの稼ぎをレモン (の商い) で失う (B) 一方で儲けたものを別のことで生じた欠損に費やしてしまうたとえ

(N) आम की कमाई, बेरों में गँवाई (Raj.)

(A) マンゴーでの稼ぎをイヌナツメで失った (B) (1) 一方で稼ぎを他方で無駄にするたとえ (2) 苦勞して稼いだものをつまらぬことで無駄にするたとえ

[473] आवश्यकता आविष्कार की जननी है (B.T.)

(A)(B) 必要は発明の母

(N) これは次の英語の諺が翻訳されたものである Necessity is the mother of invention

[474] आवे का आवा ही बिगड़ा (खराब) है (B.T.)

(A) 一窩分全部が出来損なった (B) 家族や村などの構成員の全員が出来ない人であることをたとえる表現

[475] आशिक्र अंधा होता है (Fa.)

(A) 恋する人は盲人である (B) 恋をすると人は思慮や分別を失うものだ【恋の闇】【恋は思案の外】【恋は曲者】

[476] आसमान के फटे को कहाँ तक धेगली लगे(Fa.) आसमान फटे तो कहाँ तक धेगली लगे (B.T.)

(A) 天に出来た裂け目にどこまで継ぎが当てられようか (B) (1) どうしようもない浪費家のたとえ (2) 少し傷んだものなら修復出来るが大きく破損したものは修復のしようがないものだ

[477] आसमान ने डाला, धरती ने झेला (Fa., B.T.)

(A) 天から投げ出し大地が耐えた (B) (1) だれからも世話を受けたり面倒を見られることのない天涯孤独な人や子供のたとえ (2) 全くろくでもない人間のたとえ

[478] आसमान से गिरा खजूर में अटका (Fa., B.T.)

(A) 空から落ちてナツメヤシの木に引っかかった (B) (1) 大きな仕事を始めたのにつまらないことで中断するたとえ (Fa.1) (2) 何かが手に入るはずだったのが最後に何らかの障害が生じることやだれかから何かを貰うはずだったのが他人に横取りされることのたとえ (Fa.2) (3) 偉い人からの授かりものが下っ端の妨害で手に入らなくなることのたとえ (B.T.)

(N) (1)(B)(1) の説明を補って次の諺が示されている To swallow an ox and be choked with the tail (Fa., D.E.P.) 「牛を飲んで尻尾で窒息する」また、「結局は命取りになるような大仕事を企てるたとえ」(2) आसमान से गिरकर खजूर पर अटकना というイディオムは次の2つの意を持つ。すなわち、(a) 次から次に災難に遭うこと (b) 大きな問題を解決した後で小さなことで話が中断すること (c) 現今ではこのイディオムとしての用法に限られるようである

[479] आसमान ही टूट पड़े तो कहाँ तक सँभाला जाए(B.T.)

(A) 天が崩れ落ちればどこまで支えられるものか (B) 事態や状況が極度に悪化したものは改善するのが甚だ困難であることのたとえ

[480] आसमानी गिर परे, शरमीला भूखा मरे (B.T.)

(A) 空を見上げて歩く人は躓いて倒れ、食事時に恥ずかしがる人は飢え死にするものだ (B) (1) 慢心に溺れた人が慢心を打ち砕かれるたとえ (2) 過ちや不注意で損害を受けた人のたとえ (3) 遠慮や気兼ねのために損をする人のたとえ

[481] आस्तीन का साँप(Fa., B.T.)

(A) 袖の中にいる蛇 (B) 【獅子身中の蛇】

[482] आहारे, ब्योहारे लज्जा ना कारे (Fa.1) आहारे ब्यवहारे, लज्जा न कारे (Fa.2) आहार व्यवहार में लज्जा क्या ?

(A) 食事と取引に際しては恥じるな (B) 食事と取引に際しては遠慮や気兼ねは要らない

(N) (1) =आहारे ब्यवहारे लज्जा न कारे(B.T.) (2)a fair exchange is no robbery (B.T.) Exchange is no robbery 「交換は盗みではない」(D.E.P.) (3)आहारे ब्यवहारे लज्जा न कारे (Raj.) (A) 食事と取引の場ではだれにも遠慮は要らない (B) 取引は割り切ってしなくてはならないものだ

(आの項おわり)

- 未完 -

北インドの諺 (I)

編著者	古賀勝郎
発行所	津市河辺町 3501-1
発行日	2005 年 2 月 7 日
印刷所	福富印刷 (津市河辺町 3053-3)
©	古賀勝郎